

2019年度 大学院経営学研究科 講義概要（シラバス）



法政大学

科目一覧

最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

[X7000] 経営学原理 [溝部 陽司] 年間授業/Yearly	1
[X7002] 経営組織特論 [小川 憲彦] 年間授業/Yearly	2
[X7006] 経営戦略特論 [李 瑞雪] 年間授業/Yearly	3
[X7020] ミクロ経済論 [宮澤 信二郎] 年間授業/Yearly	4
[X7023] 金融論 [林 直嗣] 年間授業/Yearly	5
[X7025] 国際経済学 [高橋 理香] 年間授業/Yearly	6
[X7029] 産業組織論 [大木 良子] 年間授業/Yearly	7
[X7037] 経営学演習 [李 瑞雪] 年間授業/Yearly	8
[X7038] 経営学演習 [近能 善範] 年間授業/Yearly	9
[X7039] 経営学演習 [新倉 貴士] 年間授業/Yearly	10
[X7040] 経営学演習 [長谷川 翔平] 年間授業/Yearly	11
[X7041] 経営学演習 [洞口 治夫] 年間授業/Yearly	12
[X7042] 経営学演習 [小川 憲彦] 年間授業/Yearly	14
[X7043] 経営学演習 [横山 斉理] 年間授業/Yearly	15
[X7044] 経営学演習 [西川 真規子] 年間授業/Yearly	15
[X7045] 経営学演習 [北田 皓嗣] 年間授業/Yearly	16
[X7046] 経営学演習 [西川 英彦] 年間授業/Yearly	17
[X7101] 企業家養成演習 [吉田 健二] 春学期授業/Spring	18
[X7102] 企業家養成演習 [吉田 健二] 秋学期授業/Fall	19
[X7103] 企業家養成演習 [金 容度] 春学期授業/Spring	20
[X7104] 企業家養成演習 [金 容度] 秋学期授業/Fall	21
[X7105] 企業家養成演習 [近能 善範] 春学期授業/Spring	22
[X7106] 企業家養成演習 [近能 善範] 秋学期授業/Fall	23
[X7107] 企業家養成演習 [福島 英史] 春学期授業/Spring	24
[X7108] 企業家養成演習 [福島 英史] 秋学期授業/Fall	25
[X7109] 企業家養成演習 [二階堂 行宣] 春学期授業/Spring	26
[X7110] 企業家養成演習 [二階堂 行宣] 秋学期授業/Fall	27
[X7113] ワークショップ (企業家養成) [金 容度] 春学期授業/Spring	28
[X7114] 企業家活動 [山本 聡] 秋学期授業/Fall	29
[X7115] 企業家史 [二階堂 行宣] 秋学期授業/Fall	30
[X7116] 経営戦略論 [吉田 健二] 秋学期授業/Fall	31
[X7118] イノベーション・マネジメント概論 [近能 善範] 春学期授業/Spring	32
[X7123] 国際経営演習 [藤澤 利治] 春学期授業/Spring	33
[X7124] 国際経営演習 [藤澤 利治] 秋学期授業/Fall	34
[X7125] 国際経営演習 [洞口 治夫] 春学期授業/Spring	35
[X7126] 国際経営演習 [洞口 治夫] 秋学期授業/Fall	36
[X7127] 国際経営演習 [高橋 理香] 春学期授業/Spring	37
[X7128] 国際経営演習 [高橋 理香] 秋学期授業/Fall	38
[X7129] 国際経営演習 [李 瑞雪] 春学期授業/Spring	39
[X7130] 国際経営演習 [李 瑞雪] 秋学期授業/Fall	40
[X7135] ワークショップ (国際経営) [李 瑞雪] 春学期授業/Spring	41
[X7136] 国際経営論 [洞口 治夫] 秋学期授業/Fall	42
[X7137] 地域経済研究 (アメリカ) [河村 哲二] 秋学期授業/Fall	43
[X7139] 地域経済研究 (アジア) [苑 志佳] 春学期授業/Spring	45
[X7140] 国際人事 [白木 三秀] 秋学期授業/Fall	46
[X7143] 国際会計論 [松井 泰則] 秋学期授業/Fall	47
[X7144] 国際金融論 [中村 周史] 春学期授業/Spring	48
[X7145] 人材・組織マネジメント演習 [佐野 哲] 春学期授業/Spring	49
[X7146] 人材・組織マネジメント演習 [佐野 哲] 秋学期授業/Fall	50
[X7147] 人材・組織マネジメント演習 [西川 真規子] 春学期授業/Spring	51
[X7148] 人材・組織マネジメント演習 [西川 真規子] 秋学期授業/Fall	52
[X7149] 人材・組織マネジメント演習 [奥西 好夫] 春学期授業/Spring	53
[X7150] 人材・組織マネジメント演習 [奥西 好夫] 秋学期授業/Fall	54

【X7151】	人材・組織マネジメント演習 [長岡 健]	春学期授業/Spring	55
【X7152】	人材・組織マネジメント演習 [長岡 健]	秋学期授業/Fall	56
【X7153】	人材・組織マネジメント演習 [小川 憲彦]	春学期授業/Spring	57
【X7154】	人材・組織マネジメント演習 [小川 憲彦]	秋学期授業/Fall	58
【X7155】	人材・組織マネジメント演習 [岸 真理子]	春学期授業/Spring	59
【X7156】	人材・組織マネジメント演習 [岸 真理子]	秋学期授業/Fall	60
【X7157】	人材・組織マネジメント演習 [佐野 嘉秀]	春学期授業/Spring	61
【X7158】	人材・組織マネジメント演習 [佐野 嘉秀]	秋学期授業/Fall	62
【X7159】	人材・組織マネジメント演習 [永山 晋]	春学期授業/Spring	63
【X7160】	人材・組織マネジメント演習 [永山 晋]	秋学期授業/Fall	64
【X7161】	ワークショップ (人材・組織マネジメント) [長岡 健]	春学期授業/Spring	65
【X7162】	人的資源管理論 [佐野 嘉秀]	秋学期授業/Fall	66
【X7165】	人事制度論 [奥西 好夫]	春学期授業/Spring	67
【X7166】	労働市場論 [藤本 真]	春学期授業/Spring	68
【X7167】	労使コミュニケーション論 [呉 学殊]	春学期授業/Spring	69
【X7169】	組織行動論 [西川 真規子]	秋学期授業/Fall	70
【X7170】	経営情報論 [岸 真理子]	秋学期授業/Fall	71
【X7175】	マーケティング演習 [長谷川 翔平]	春学期授業/Spring	72
【X7176】	マーケティング演習 [長谷川 翔平]	秋学期授業/Fall	73
【X7177】	マーケティング演習 [西川 英彦]	春学期授業/Spring	73
【X7178】	マーケティング演習 [西川 英彦]	秋学期授業/Fall	74
【X7179】	マーケティング演習 [新倉 貴士]	春学期授業/Spring	75
【X7180】	マーケティング演習 [新倉 貴士]	秋学期授業/Fall	76
【X7181】	マーケティング演習 [木村 純子]	春学期授業/Spring	76
【X7182】	マーケティング演習 [木村 純子]	秋学期授業/Fall	77
【X7183】	マーケティング演習 [横山 斉理]	春学期授業/Spring	77
【X7184】	マーケティング演習 [横山 斉理]	秋学期授業/Fall	78
【X7187】	ワークショップ (マーケティング) [小林 健一]	秋学期授業/Fall	78
【X7189】	マーケティング論 [剣持 真]	春学期授業/Spring	79
【X7190】	消費者行動論 [新倉 貴士]	秋学期授業/Fall	81
【X7191】	マーケティング・リサーチ論 [西川 英彦]	春学期授業/Spring	82
【X7192】	製品開発論 [柴田 高]	春学期授業/Spring	83
【X7202】	アカウンティング・ファイナンス演習 [坂上 学]	春学期授業/Spring	84
【X7203】	アカウンティング・ファイナンス演習 [坂上 学]	秋学期授業/Fall	85
【X7204】	アカウンティング・ファイナンス演習 [北田 皓嗣]	春学期授業/Spring	86
【X7205】	アカウンティング・ファイナンス演習 [北田 皓嗣]	秋学期授業/Fall	87
【X7206】	アカウンティング・ファイナンス演習 [金 瑠晋]	春学期授業/Spring	88
【X7207】	アカウンティング・ファイナンス演習 [金 瑠晋]	秋学期授業/Fall	89
【X7215】	管理会計論 [福田 淳児]	秋学期授業/Fall	90
【X7216】	財務会計論 [佐々木 隆志]	春学期授業/Spring	91
【X7219】	経営分析 [福多 裕志]	春学期授業/Spring	92
【X7221】	基礎ファイナンス [山崎 輝]	春学期授業/Spring	93
【X7225】	コーポレート・ファイナンス [田代 一聡]	春学期授業/Spring	94
【X7230】	経営学基礎 [福島 英史]	春学期授業/Spring	95
【X7231】	会計学基礎 [筒井 知彦]	春学期授業/Spring	96
【X7237】	情報学特論 [児玉 靖司]	秋学期後半/Fall(2nd half)	97
【X7241】	統計データ解析 [高橋 慎]	秋学期授業/Fall	98
【X7401】	博士演習ⅠA [経営学専攻 各指導教員]	春学期授業/Spring	99
【X7402】	博士演習ⅠB [経営学専攻 各指導教員]	秋学期授業/Fall	100
【X7421】	博士演習ⅡA [金 瑠晋]	春学期授業/Spring	101
【X7422】	博士演習ⅡB [金 瑠晋]	秋学期授業/Fall	102
【X7423】	博士演習ⅡA [金 容度]	春学期授業/Spring	103
【X7424】	博士演習ⅡB [金 容度]	秋学期授業/Fall	104
【X7425】	博士演習ⅡA [西川 英彦]	春学期授業/Spring	105
【X7426】	博士演習ⅡB [西川 英彦]	秋学期授業/Fall	106
【X7427】	博士演習ⅡA [竹内 淑恵]	春学期授業/Spring	107
【X7428】	博士演習ⅡB [竹内 淑恵]	秋学期授業/Fall	108

【X7429】	博士演習Ⅲ A	〔西川 英彦〕	春学期授業/Spring	109
【X7430】	博士演習Ⅲ B	〔西川 英彦〕	秋学期授業/Fall	110
【X7431】	博士演習Ⅲ A	〔李 瑞雪〕	春学期授業/Spring	111
【X7432】	博士演習Ⅲ B	〔李 瑞雪〕	秋学期授業/Fall	112
【X7433】	博士演習Ⅲ A	〔洞口 治夫〕	春学期授業/Spring	113
【X7434】	博士演習Ⅲ B	〔洞口 治夫〕	秋学期授業/Fall	114
【X7435】	博士演習Ⅲ A	〔竹内 淑恵〕	春学期授業/Spring	115
【X7436】	博士演習Ⅲ B	〔竹内 淑恵〕	秋学期授業/Fall	116
【X7437】	博士演習Ⅲ A	〔横内 正雄〕	春学期授業/Spring	117
【X7438】	博士演習Ⅲ B	〔横内 正雄〕	秋学期授業/Fall	118
【X7439】	博士演習Ⅲ A	〔金 容度〕	春学期授業/Spring	119
【X7440】	博士演習Ⅲ B	〔金 容度〕	秋学期授業/Fall	120
【X7441】	博士演習Ⅲ A	〔新倉 貴士〕	春学期授業/Spring	121
【X7442】	博士演習Ⅲ B	〔新倉 貴士〕	秋学期授業/Fall	122
【X7443】	博士演習Ⅲ A	〔長岡 健〕	春学期授業/Spring	123
【X7444】	博士演習Ⅲ B	〔長岡 健〕	秋学期授業/Fall	124
【X7445】	博士演習Ⅲ A	〔坂上 学〕	春学期授業/Spring	125
【X7446】	博士演習Ⅲ B	〔坂上 学〕	秋学期授業/Fall	126
【X7447】	博士演習Ⅲ A	〔大下 勇二〕	春学期授業/Spring	127
【X7448】	博士演習Ⅲ B	〔大下 勇二〕	秋学期授業/Fall	128
【X7450】	博士コースワークショップⅠ A	〔経営学専攻 専任教員〕	春学期授業/Spring	129
【X7451】	博士コースワークショップⅠ B	〔経営学専攻 専任教員〕	秋学期授業/Fall	130
【X7452】	博士コースワークショップⅡ A	〔経営学専攻 専任教員〕	春学期授業/Spring	131
【X7453】	博士コースワークショップⅡ B	〔経営学専攻 専任教員〕	秋学期授業/Fall	132
【X7454】	博士コースワークショップⅢ A	〔経営学専攻 専任教員〕	春学期授業/Spring	133
【X7455】	博士コースワークショップⅢ B	〔経営学専攻 専任教員〕	秋学期授業/Fall	134

MAN500F1 - 0001

経営学原理**溝部 陽司****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

春学期は主に戦略論の研究領域を対象として、秋学期は主に組織論および新しい研究領域を対象として、主要な著書・論文を輪読し、理論的な枠組み理解と、経営としての実践的な意義を深く考察する事を目的とする。

【到達目標】

・戦略論領域および組織論領域の大学院レベルでの基礎的な知識を習得する。
・企業活動における戦略論および組織論の実践的な意味を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

基本的に各発表担当者がレジュメを準備し説明の上、議論、教員がコメントする。

※発表者以外も必ず資料を熟読し、受け身ではなく議論に積極的に参加の事！

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】**通年**

回	テーマ	内容
第 1 回	経営学の研究領域と戦略の位置付け	授業のガイダンス レジュメ作成要領
第 2 回	戦略論確立までの流れ 【講義】	琴坂将広「経営戦略前史」DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー 2016 年 12 月 16 日
第 3 回	競争戦略	青島矢一・加藤俊彦 (2003)『競争戦略論』16-39 頁
第 4 回	The Five Competitive Forces	Porter M. E. "Competitive Advantage" pp.1-10
第 5 回	The Value Chain	前掲同書 pp.33-43
第 6 回	Rsource Based View	Barney J."Gaining and Sustaining Competitive Advantage" pp.1-10
第 7 回	SWOT Analysis	前掲同書 pp.19-22
第 8 回	クラスター	DIAMOND ハーバード・ビジネス 第 24 巻第 2 号 28-45 頁 by M・ポーター
第 9 回	「経営戦略の定義」	琴坂将広 (2018)『経営戦略原論』32-51 頁 第 1 章
第 10 回	チャンドラーとアンソフ	前掲同書 94-111 頁 第 3 章
第 11 回	「外部環境分析」	前掲同書 134-153 頁 第 4 章
第 12 回	「内部環境分析」	前掲同書 178-205 頁 第 5 章
第 13 回	「技術の進化と経営戦略」	前掲同書 444-467 頁 第 12 章
第 14 回	(補論)	調査分析 (定量・定性) 方法論
第 15 回	組織論の基礎 (1)	洞口治夫・行本勢基『入門 経営学< 第 2 版>』pp.3-17
第 16 回	組織論の基礎 (2)	前掲同書 pp.17-28
第 17 回	組織構造の構築 (1)	前掲同書 pp.61-72
第 18 回	組織構造の構築 (2)	前掲同書 pp.72-85
第 19 回	組織構造の発展 (1)	前掲同書 pp.127-137
第 20 回	組織構造の発展 (2)	前掲同書 pp.137-150
第 21 回	21 回以降は、右記の候補の中から希望に従い適宜選択する。 *必ずしも全ての文献を網羅する訳ではない	グラント『現代戦略分析』
第 22 回		入山章栄『ビジネススクールでは学べない世界最先端の経営学』
第 23 回		カーティス・R・カールソン『イノベーション 5 つの原則』
第 24 回		伊丹敬之『経営戦略の論理』
第 25 回		延岡健太郎『価値づくり経営の論理』
第 26 回		デビッド・R・コリス『資源ベースの経営戦略論』
第 27 回		
第 28 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト資料を事前に予習、配布資料内容を復習する。

【テキスト（教科書）】

- I. 琴坂将広 (2018)『経営戦略原論』東洋経済新報社。(¥2,000)
第 3-8 回分リーディングス資料は教員が事前準備し配布するが、教科書は購入の事。
- II. 洞口治夫・行本勢基 (2012)『入門 経営学< 第 2 版>』同友館。(¥2,200)

【参考書】

授業計画の contents を参照。

【成績評価の方法と基準】

レジュメ内容 (25%) + 出席・ディスカッションへの積極貢献度 (50%) + 期末レポート (25%) での総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

発表・議論・コメントのタイムコントロールに留意します。

【学生が準備すべき機器他】

ppt. でレジュメ作成可能な環境

【その他の重要事項】

詳細な授業計画については、初回の授業で解説します。履修希望者は、必ず出席するようにしてください。

【担当教員の専門分野等】

<経営戦略論>
資源ベース戦略論
<グローバル経営>
内部化理論
<技術管理論>
技術シーズと製品化・事業化

【Outline and objectives】

The objective of this course is exploration of Strategy Analysis and Organizational Behavior sutudies, mainly reading on important thesis.

経営組織特論

小川 憲彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・主に昼間修士課程入試で私の修論指導を希望された方を対象に、経営組織論（ミクロ組織論、マクロ組織論）と経営管理論の基本を学びます。私の修論指導を希望される方は履修して下さい。
・中国籍の方が中心になると思われますので、主に日本語の教科書や文献を読みまとめ、基礎知識の習得と同時に日本語での論文の書き方などの基本も学んでほしいと思います。

【到達目標】

・経営管理論を通じて経営学の基本を学び、その全体像におけるミクロ組織論（組織行動論）の位置づけ、学説史上の位置づけが説明できること
・経営組織論の教科書を通じて基本的知識や用語を習得すること
・修士論文で求められるレベルの日本語の文章で専門領域のレポートが書けること
・理解した内容について適切にまとめ発表ができること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

最初は経営管理論の基礎を講義します。その際、適宜、指定した文献を読んだ上でレポートを準備しディスカッションを行います。その間に指定した組織論の教科書を読み進め、各章についてまとめ、担当者が発表できるように準備を進めて下さい。毎回課題がありますので、相応の事前準備が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

通年		
回	テーマ	内容
第 1 回	導入①理論と社会科学	講義概要の説明と社会科学における理論について
第 2 回	導入②経営学とミクロ組織論	経営学という領域について（講義担当者の専門領域であるミクロ組織論の位置づけ）
第 3 回	古典的管理論①	管理原則論と科学的管理法
第 4 回	古典的管理論②	官僚制とその逆機能
第 5 回	古典的管理論③	古典的管理論の貢献と限界
第 6 回	初期人間関係論①	ホーソン実験
第 7 回	初期人間関係論②	初期人間関係論の貢献と限界
第 8 回	新人間関係論①	マズローの欲求階層説、マクレガー、アージェリスの管理論
第 9 回	新人間関係論②	ハーズバーグ、リッカートの管理論
第 10 回	新人間関係論③	新人間関係論の貢献と限界
第 11 回	動機づけの理論	目標設定理論、公平理論、期待理論
第 12 回	リーダーシップ論①	特性理論と行動理論
第 13 回	リーダーシップ論②	リーダーシップのコンティンジェンシー理論と代替性
第 14 回	リーダーシップ論③	変革型リーダーシップとカリスマ・リーダーシップなど
第 15 回	導入	講義概要や進め方の説明
第 16 回	管理者のスキル	春学期の振り返りとカットの管理者論
第 17 回	組織論の歴史①	組織論前史とモダン組織論
第 18 回	組織論の歴史②	シンボリック・パースペクティブとポストモダンの影響
第 19 回	組織と環境①	組織環境とモダン組織
第 20 回	組織と環境②	シンボリック環境分析とポストモダンの組織環境関係
第 21 回	組織の社会構造①	社会構造の概念とモダン理論
第 22 回	組織の社会構造②	シンボリック・アプローチとポストモダンの社会構造
第 23 回	テクノロジー①	技術の定義とシンボリック・アプローチ
第 24 回	テクノロジー②	ポストモダンの技術論等
第 25 回	組織文化①	組織文化論の歴史
第 26 回	組織文化②	シンボリック・アプローチとポストモダンのアプローチ
第 27 回	パワーとコンフリクト①	組織の権力と政治に関する諸理論
第 28 回	パワーとコンフリクト②	コンフリクトの諸理論とポスト・モダン・アプローチ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、指示します。基本的に毎回、事前課題があります。

【テキスト（教科書）】

Mary Jo Hatch and Ann L. Cunliffe (2013) Organization Theory: Modern, Symbolic and Postmodern Perspectives, Third Edition, Oxford, UK: Oxford University Press. (メアリー・ジョー・ハッチ著、大月博司、山口善昭、日野健太訳『Hatch 組織論 -3 つのパースペクティブ』同文館出版、2017 年。)

【参考書】

坂下昭宣 (2014) 『経営学への招待 新装版』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

提出物（課題やレポート）や発表の質と事前準備を含めた参加態度で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

外国人（主に中国人）の学生が多いので、指示や課題は口頭のみならずできるだけ文書でも提示するようにします。

【その他の重要事項】

・内容は参加者の理解度や知識レベルに応じて変更があり得ます。
・また、参加者の日本語習得レベルによって教科書を変更することがあり得ます（その際は参考書の文献を教科書とする予定です）。

【担当教員の専門領域等】

<専門領域>
経営管理論、経営組織論、組織行動論
<研究テーマ>
組織適応、採用
<主要研究業績>

Norihiko Ogawa, D.Osato, K.Takahashi(2016)"Criteria for Screening Job-Applicants in Japanese Companies: Policy-Capturing Approach"Journal of Academy of Business and Economics, Vol.15, No.1, .pp.101-109.

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn organization theories including organizational behavior. Students who would like to get coaching on master thesis from me should take this class.

MAN500F1 - 0007

経営戦略特論

李 瑞雪

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業はどのように自社の事業範囲を決めるか、どのように競合に対して持続的な競争優位を獲得するか、どのように効率的かつ有効なオペレーション・システムを構築し改善していくか。こういった問題を中心に、企業の全社戦略、競争戦略、サプライチェーン戦略を検討します。ケースメソッドを用いて具体的な企業事例の分析を通して理論の理解を深めます。

【到達目標】

本授業では、全社戦略、競争戦略（事業戦略）、サプライチェーン戦略に関する基本的な理論、概念、分析手法を学びます。既存の理論と分析フレームワークを援用して現実の経営戦略を説明し、考察する能力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義方式とケーススタディ方式を併用して授業を進めます。プレゼンテーションとグループ・ディスカッションを求めることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

通年	テーマ	内容
第 1 回	経営戦略とは	経営戦略の定義と階層、戦略と組織、戦略とオペレーション。
第 2 回	競争優位と一般戦略	戦略と競争優位、一般戦略（コストリーダーシップ、差別化、集中化）、差別化の類型、持続的競争優位のメカニズム。
第 3 回	ポジショニング・アプローチ（Ⅰ）	SCP モデル、ファイブ・フォース・モデル、参入障壁、戦略グループ、移動障壁。
第 4 回	ポジショニング・アプローチ（Ⅱ）	バリューチェーン、ビムズ・デル、SWOT 分析、戦略策定手順、PPM、ビジネススクリーン。
第 5 回	1 回目ケーススタディ	ケーススタディ、グループ討論と発表。
第 6 回	産業構造と戦略的機会（Ⅰ）	集約・統合戦略、先行者優位の戦略、市場リーダーシップ戦略、ニッチ戦略、収獲戦略、撤退戦略、勝者総取り戦略。
第 7 回	産業構造と戦略的機会（Ⅱ）	トランスナショナル戦略、デファクト・スタンダード戦略、先制破壊戦略。
第 8 回	リソース・ベース・ビュー（RBV）	VRIO フレームワーク、競争戦略と経営資源、コア・コンピタンス、経営資源保有のパラドックス、経営資源蓄積メカニズム、イノベーションと競争優位。
第 9 回	ゲーム論アプローチ（Ⅰ）	価値相関図（バリュー・ネット）、コピティション（競争と協調）、「付加価値」と価値工限度、ネットワークの外部性と競争優位。
第 10 回	2 回目ケーススタディ	ケーススタディ、グループ討論と発表。
第 11 回	ゲーム論アプローチ（Ⅱ）	MFC 条項と MCC 条項、戦略的補完関係、意図的抑止。
第 12 回	創発戦略と学習アプローチ	創発戦略、学習の「場」の設定、実験による学習、ダイナミック・シナジー。
第 13 回	競争戦略パラダイムの転換	イノベーション戦略、プラットフォーム戦略、シェアリング・ビジネスの戦略など。
第 14 回	競争戦略のまとめ、中間テスト	競争戦略のまとめ、中間テスト。
第 15 回	企業戦略の基本	ドメイン、製品・市場ポートフォリオ、シナジー、成長ベクトル。
第 16 回	多角化戦略	多角化戦略の定義、多角化の誘因・動機、多角化の類型、多角化度、多角化ディスカウント、ダイナミックな学習プロセス。
第 17 回	垂直統合の戦略	垂直方向の事業展開、垂直統合度、 Make or Buy の意思決定、第 3 の取引形態、取引統治メカニズムの類型など。

第 18 回 国際化戦略

国際化の類型、国際化戦略における範囲の経済、海外顧客の購入意思と購入能力、輸入障壁、OLI フレームワーク、統合化と適応化、国際企業の類型、CAGE フレームワーク、AAA 戦略、ボーングローバル戦略。

第 19 回 M&A 戦略と PMI 戦略

M&A の類型、戦略的関連性の源泉、M&A 戦略の動機、ターゲット企業とビディング戦略の行動規範と原則、買収後のプロセス統合戦略。

第 20 回 戦略的提携

戦略的提携の定義と形態、戦略的提携と業界構造、提携におけるリスクなど。

第 21 回 3 回目ケーススタディ

第 22 回 サプライチェーン戦略

ケーススタディ、グループ討論と発表。SCM とサプライチェーン戦略、プロセス管理

第 23 回 ロジスティクス戦略の基本要素

トータルコスト、差別的ディストリビューション、混合戦略、コンソリデーション

第 24 回 サプライチェーン戦略類型

効率性指向のサプライチェーン戦略と応答性指向のサプライチェーン、延期化と投機化、マス・カスタマイゼーション

第 25 回 サプライチェーン・ネットワーク分析

サプライチェーン・ビジネス・プロセス、サプライチェーン・ネットワーク構造、サプライチェーン・マネジメント・コンポーネント。

第 26 回 ロジスティクスとサプライチェーンマネジメント組織

サプライチェーン戦略とサプライチェーン組織、サプライチェーン・パフォーマンスとメトリクス。

第 27 回 4 回目ケーススタディ

第 28 回 全社戦略とサプライチェーン戦略のまとめ

ケーススタディ、グループ討論と発表。全社戦略とサプライチェーン戦略のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業に先立って、レジュメなどの資料を事前に予習し、指定されたリレーディングを読みディスカッションに備えます。ケーススタディに際しては、プレゼンの資料（パワーポイント）を事前に作成します。

【テキスト（教科書）】

レジュメ配布。

【参考書】

『企業戦略論』ジェイ B. バーニー著、ダイヤモンド社。
『戦略サファリ』ヘンリー・ミンツバーク著、東洋経済新聞社。
『競争の戦略』M・E・ポーター著、ダイヤモンド社。
『戦略経営論』ガース・サローハ著、東洋経済新聞社。
Supply Chain Logistics Management, 4th Edition, D. J. Bowersox, D. J. Closs, M. B. Cooper, J. C. Bowersox, McGraw Hill.
Logistics Management & Strategy, 4th Edition, A. Harrison & R. V. Hoek, FT Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】

授業中の参加の度合いと貢献度（20 %）、ケーススタディの討論と発表（25 %）、中間テストの成績（25 %）、期末テストの成績（30 %）を総合して成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

スライドの切り替え速度に気をつけます。授業中、随時質問を受け付けます。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ロジスティクス・マネジメント論、経営戦略論
＜研究テーマ＞新興国市場におけるロジスティクス戦略とサプライチェーンマネジメント戦略、ロジスティクスクラスター形成
＜主要研究業績＞『中国物流産業論：高度化の軌跡とメカニズム』白桃書房。
『中国製造業の基盤形成：金型産業の発展メカニズム』白桃書房。
『輸送ノードの高度化とロジスティクス・クラスターの形成』『経営志林』など。

【Outline and objectives】

How do companies determine their business domain and scope; how do companies try to acquire and maintain their sustainable competitive advantage against competitors; how do companies establish and improve efficient and effective operation system. Focusing on these issues, we will examine and discuss corporate strategy, business strategy and supply chain strategy in this class. Case method will be used to analyse real cases in order to help understand the relative theories deeply.

ミクロ経済論

宮澤 信二郎

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個人や企業などの意思決定プロセスやそれらの相互作用に関する学問体系であるミクロ経済学についての講義を受け、問題演習を行う。
経営学の諸分野を学ぶ上で基礎となるミクロ経済学の考え方・分析手法を身につける。

【到達目標】

以下のような事項について理解し、応用できるようになる。
（１）消費者は何をどれだけ購入しようとするか。また、その決定にモノの値段やその他の要因がどのような影響を及ぼすか。
（２）企業は何をどれだけ使って、何をどれだけ販売しようとするか。また、その決定にモノの値段やその他の要因がどのような影響を及ぼすか。
（３）モノの値段がどのように決まるのか。また、その決定にどのような要因がどのような影響を及ぼすのか。
（４）短期的な意思決定と長期的な意思決定の違いは何か。
（５）人々の行動が相互に影響を及ぼしあうような状況ではどのように意思決定したらよいのか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

基礎となる理論について講義した後に問題演習を行う。講義の際には、聴くだけにならないようにするため、考えるきっかけを与えたり、理解を確認したりするような質問を投げかける。問題演習の際には、各自が自ら考える時間を確保するとともに、必要に応じて、正解に導くような助言を与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

通年 回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：ミクロ経済学とは？	ミクロ経済学の特徴と全体像を解説した後にこれを学ぶ意義について議論する。
第 2 回	需要・供給と市場均衡 (1)	教科書 4 章に基づいて、需要と供給の振る舞いおよび需要と供給による取引内容（数量・価格）決定メカニズムについて学びます。
第 3 回	需要・供給と市場均衡 (2)	教科書 5 章に基づいて、価格の変化が需要と供給に及ぼす変化の程度（弾力性）が取引内容の変化に及ぼす影響について学びます。
第 4 回	問題演習 1	第 2 回と第 3 回の内容に関する問題演習を行います。
第 5 回	消費者の理論 (1)	教科書 21 章に基づいて、消費者の意思決定に関する理論の基礎について学びます。
第 6 回	消費者の理論 (2)	教科書 21 章に基づいて、消費者の意思決定に関する理論の応用について学びます。
第 7 回	問題演習 2	第 5 回と第 6 回の内容に関する問題演習を行います。
第 8 回	小テスト 1	ここまでの内容に関する小テストを行います。
第 9 回	生産者の理論 (1)	教科書 13 章に基づいて、企業による生産に関わる費用について学びます。
第 10 回	生産者の理論 (2)	引き続き、教科書 13 章に基づいて、企業による生産に関わる費用について学びます。
第 11 回	問題演習 3	第 9 回と第 10 回の内容に関する問題演習を行います。
第 12 回	生産者の理論 (3)	教科書 14 章に基づいて、競争市場における企業の生産量決定について学びます。
第 13 回	生産要素市場	教科書 18 章に基づいて、労働・資本・土地といった生産要素の市場取引について学びます。
第 14 回	問題演習 4	第 12 回と第 13 回の内容に関する問題演習を行います。
第 15 回	小テスト 2	ここまでの内容に関する小テストを行います。
第 16 回	春学期の復習と秋学期の展望	春学期の内容の復習をするとともに、秋学期に扱う内容について概観します。

第 17 回 効率性と市場の失敗

教科書 7 章に基づき、取引内容の望ましさを指標として、余剰という概念を学びます。更に、市場取引により効率的な結果（余剰の合計が最大になるような結果）が実現する場合とそうならない場合について学びます。

第 18 回 外部性

教科書 10 章に基づいて、取引が当事者以外の経済主体の利害に影響を及ぼすときの取引内容に関して学びます。教科書 22 章を参照しつつ、当事者間で情報量が異なる場合に起こる問題とそれに対する対応策について学びます。

第 19 回 情報の非対称性

教科書 15 章に基づき、独占企業の生産量決定について学びます。教科書 16 章に基づき、各企業が違いのある製品を生産している場合の企業行動について学びます。

第 20 回 問題演習 5

第 17 回から第 19 回の内容に関する問題演習を行います。

第 21 回 独占

教科書 17 章に基づき、市場の企業数が 2 社以上だが少数である場合の企業行動について学びます。また、このような市場における企業行動を分析するために利用できるツールであるゲーム理論について学びます。

第 22 回 独占的競争

引き続き、教科書 17 章に基づき、市場の企業数が 2 社以上だが少数である場合の企業行動と、それを分析するために利用できるツールであるゲーム理論について学びます。

第 23 回 問題演習 6

ゲーム理論について更に学びます。第 25 回から第 27 回までの内容に関する問題演習を行います。

第 24 回 小テスト 3

第 25 回 寡占・ゲーム理論 (1)

第 26 回 寡占・ゲーム理論 (2)

第 27 回 寡占・ゲーム理論 (3)

第 28 回 問題演習 6

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は事前に以下のテキストを読んでくることが求められる。また、毎週あるいは隔週程度で課される宿題を解くことが求められる。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストを使用する予定である。ただし、受講者が求める場合には、もう少しレベルの高いものを使用する可能性がある。
マンキュー『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社、2013 年（あるいはその原著）

【参考書】

[1] 伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣、2012 年
[2] 安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣、2013 年
[3] 芦谷政浩『ミクロ経済学』有斐閣、2009 年
[4] 神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社、2014 年
＊ [1] と [2] は上記の教科書よりも易しいテキスト、[3] と [4] は上記教科書よりも難しいテキストで、易しい順になっています。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加・貢献）30 %、宿題・問題演習 30 %、小テスト 40 %

【学生の意見等からの気づき】

一昨年度にこの科目を担当し、また、これまでに夜間の修士課程や通信教育課程の同等科目を担当した経験を踏まえて、ミクロ経済学を始めて勉強する学生向けの内容で実施することを想定しています。ただし、受講者の要望によっては、より発展的・応用的な内容も取り扱いたいと考えています。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 応用ミクロ経済学（特に、企業金融論、産業組織論）

<研究テーマ>

企業金融と市場競争の相互作用に関する研究

<主要研究業績>

[1] “Financial Contract and Capital Allocation: A Comparison between Market-based Finance and Bank Finance” 経営志林 第 55 巻第 2 号、49-58 頁、2018 年。

[2] 「企業間信用に関する一考察—銀行と供給者との間の利害衝突を考慮して—」 経営志林 第 53 巻第 4 号、25-52 頁、2017 年。

[3] 「EU 国家補助規制の考え方の我が国への応用について」（大久保直樹氏ほかと共著）競争政策研究センター共同研究報告書 CR03-13 2013。

[4] 「公的金融と市場競争—産業組織論アプローチ—」 フィナンシャル・レビュー 133、147-168 頁、2013。

[5] “Optimal borrowing structure: An explanation of multiplicity of large-share creditors and asymmetry among them,” Journal of The Japanese and International Economies 26, pp434-453, 2012。

[6] 「国家賠償と求償に関する経済分析」, 社会科学研究 第 62 巻第 2 号、55-79 頁、2011 年。

[7] 「偏波弁済の許害行為取消しに関する分析—法と経済学の視点から—」（藤澤治奈氏との共著）、新世代法政策学研究 第 10 号、351-369 頁（担当部分）、2011 年。（倒産・再生法制研究奨励金賞（トリプルアイ・高木賞）（奨励賞）（財団法人民事紛争処理研究基金）受賞）

[8]「情報財の価格差別と著作権保護」, 知的財産法政策学研究 第 24 号, 229-257 頁, 2009 年.

[9] "Innovative interaction in mixed market: An effect of agency problem in state-owned firm," Economics Bulletin 12, pp1-8, 2008.

【Outline and objectives】

You will learn the foundation of microeconomics, which is a theory to analyze individuals' and firms' decision-makings and those interaction, and conduct problem exercises with some economic problems around you.

You can learn the fundamental thinking and analyzing methods of microeconomics, which can be the basis for learning respective fields of business administration.

ECN500F1 - 0025

金融論

林 直嗣

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本年度の研究テーマは、金融市場と金融政策の理論と実証である。経済学特にマクロ経済学の基礎的な理解に基づき、金融市場や金融政策のさまざまな問題を理論的に分析し、それに基づいて実証分析ができることを目標として指導する。英文及び邦文の有力な学術論文や最新の研究論文を熟読しながら、先ず理論的な理解を深め、その上で実証的な分析を研究する。

【到達目標】

第一の到達目標は、金融の事実や知識を確実に修得し、日常生活に有効に活用できるようになることである。

第二の到達目標は、事実としての金融現象の背後にある経済法則や経済理論を学び、それを金融分析に活用できることである。

第三の到達目標は、こうした存在（*Sein*）に関わる事実判断の知識を有効に活用し、当為（*Sollen*）に関わる価値判断、すなわちどうするべきかという政策的判断力を錬成し、将来の研究や金融実務に役立てるようにすることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業計画に沿って、現代の金融市場や金融政策の諸問題を理論的に究明し、実証的な分析を行う。

授業の方法は輪読形式とし、院生が順番に報告をし、それについて議論や指導を行う。教室では板書を利用するとともに、PC を利用してプレゼンテーション用教材（PowerPoint による教材）や関連するサイトをスクリーンに投影して学習効果を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

通年	テーマ	内容
回	イントロダクション	年間の授業計画の説明と報告者の決定
第 1 回	金融政策の政策目標と運営目標	金融政策の政策目標と運営目標
第 2 回	金融政策の政策目標と運営目標	金融政策の政策目標と運営目標
第 3 回	金融政策の政策目標と運営目標	金融政策の政策目標と運営目標
第 4 回	金融政策の効果波及経路と因果検定	金融政策の効果波及経路と因果検定
第 5 回	金融政策の効果波及経路と因果検定	金融政策の効果波及経路と因果検定
第 6 回	貨幣需要関数の理論と計測	貨幣需要関数の理論と計測
第 7 回	貨幣需要関数の理論と計測	貨幣需要関数の理論と計測
第 8 回	貨幣需要関数の安定性と金融政策	貨幣需要関数の安定性と金融政策
第 9 回	貨幣需要関数の安定性と金融政策	貨幣需要関数の安定性と金融政策
第 10 回	利子率の決定と金融政策	利子率の決定と金融政策
第 11 回	利子率の決定と金融政策	利子率の決定と金融政策
第 12 回	自然失業率仮説と合理的期待	自然失業率仮説と合理的期待
第 13 回	自然失業率仮説と合理的期待	自然失業率仮説と合理的期待
第 14 回	最適金融政策	最適金融政策
第 15 回	最適金融政策	最適金融政策
第 16 回	裁量政策対ルールによる政策	裁量政策対ルールによる政策
第 17 回	裁量政策対ルールによる政策	裁量政策対ルールによる政策
第 18 回	為替レートの決定と為替政策	為替レートの決定と為替政策
第 19 回	為替レートの決定と為替政策	為替レートの決定と為替政策
第 20 回	ゼロ金利政策	ゼロ金利政策
第 21 回	量的金融緩和	量的金融緩和
第 22 回	マイナス金利政策	マイナス金利政策
第 23 回	日本の金融市場と金融政策	日本の金融市場と金融政策
第 24 回	日本の金融市場と金融政策	日本の金融市場と金融政策
第 25 回	アジアの金融市場と金融政策	アジアの金融市場と金融政策

第 26 回	アジアの金融市場と金融政策	アジアの金融市場と金融政策
第 27 回	アメリカの金融市場と金融政策	アメリカの金融市場と金融政策
第 28 回	アメリカの金融市場と金融政策	アメリカの金融市場と金融政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は最も効果的な勉強法である。先ず自分で文献や教科書を読み、要約をパワーポイントのスライドにまとめてみよう。何が理解できて何がわからないか、はっきりするので、授業に臨む態度やモチベーションが高まり、授業の理解を効果的に高めることができる。

【テキスト（教科書）】

開講時に文献リストを配布する。

【参考書】

開講時に文献リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（出席等）、論文の読解・発表、討論、レポートなどから客観的な得点分布を計算し、それに基づいて合理的で公正な相対評価により総合的に成績評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の要望にできるだけ応えられるように配慮して、授業を進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

教室では、教科書やノートを持参し、情報検索のためにスマホや PC を活用しましょう。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>金融論、理論経済学、応用計量経済学、経済政策

<研究テーマ>金融と経済の理論的・実証的・政策的な研究

<主要研究業績>以下を参照。

<http://www.i.hosei.ac.jp/~hayashi/sub5.htm>

【Outline and objectives】

The research theme of this year is the theory and empirical analysis of financial markets and monetary policy. Based on the fundamental understanding of economics, especially macroeconomics, we analyze the various problems of financial markets and monetary policy theoretically and instruct them with the aim of being able to conduct empirical analysis based on it. While reading pertinent academic papers and latest research papers in English and Japanese, deepen the theoretical understanding first, then study empirical analysis.

ECN500F1 - 0027

国際経済学

高橋 理香

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代のグローバル経済のもとでのさまざまな国際取引のメカニズムについて、理論的に考察し、その本質を明らかにします。

本講義では国際経済学の中でも特に国際貿易論に焦点を当て、理論的考察を中心に解説を行います。春学期は国際貿易の基本構造について、秋学期は貿易政策について講義を行います。

【到達目標】

現代の複雑な貿易の構造について理解し、国際貿易に関する基礎的用語を説明できるようにします。また、国際貿易論および国際貿易政策論について理論的考察を行う能力を身に付け、理論的な分析手法の本質と意味を理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

各テーマについて講義ノートを配布し、パワーポイントを用いて講義形式で進めていきます。また、理解を深めるために、演習問題や統計データ・新聞記事などの資料も参照します。さらに、主要な学術論文を読み、その内容を理解します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

通年	テーマ	内容
回	イントロダクション	国際経済学とはどのような学問か理解します。
1	市場メカニズム	市場メカニズムについて学習します。
2	市場メカニズムと貿易	貿易市場のメカニズムを学び、貿易の利益について理解します。
3	古典派の貿易理論	リカードの比較優位のモデルの構造を理解します。
4	：生産技術と貿易	ヘクシャー＝オリーンの貿易モデルの構造を理解します。
5	新古典派の貿易理論	比較優位の理論と現実の経済の接点を理解します。
6	：生産要素賦存と貿易	新しい貿易理論が登場することになった背景と、産業内貿易について学びます。
7	比較優位と日本の貿易	産業内貿易の理論と実証分析について理解します。
8	新しい貿易理論の登場	多国籍企業および外国人労働の特徴や経済構造を理解します。
9	産業内貿易の理論と実証	直接投資による日本経済への影響を理解します。
10	多国籍化する企業と労働	国際経済システムの構造・ルールや自由貿易の理念を学びます。
11	直接投資とその影響	GATT-WTO の役割と課題について、理論と現実の双方において分析します。
12	国際経済システムの構造	様々な地域経済統合の形態とそれらの役割について理解を深めます。
13	GATT-WTO の機能と課題	春学期の内容を総括します。
14	地域経済統合の機能と課題	秋学期の授業の概要を説明します。
15	まとめ	日本の貿易政策について、歴史的背景を学びます。
16	イントロダクション	代表的な貿易政策である関税政策の効果について理解します。
17	日米貿易摩擦とさまざまな貿易政策	大国と小国のモデルの違いを理解します。
18	関税政策の効果（小国のケース）	関税政策に代わるさまざまな貿易政策の効果と現実の話題について理解を深めます。
19	関税政策の効果（大国のケース）	かつての日米間の貿易障壁について、実例を挙げながら、それらを説明するモデルの構造を理解します。
20	輸入数量割当政策とその他の非関税障壁	伝統的な保護貿易論の考え方について理解します。
21	輸出自主規制と日本の自動車産業	保護貿易政策が果たしうる効果について、経済成長とのかかわりから考察します。
22	保護貿易論について	新しい保護貿易論として、戦略的貿易政策を理解するために必要な理論的なツールを学びます。
23	幼稚産業保護と日本の経済	
24	不完全競争下の貿易政策	

24	戦略的相互依存関係と貿易政策	互いの国が戦略的に貿易政策を採用する時の均衡を記述し、分析します。
25	ダンピングと価格差別	ダンピングとは何か、ダンピングの違法性とはどのようなものか、競争の観点から考察します。
26	アンチダンピング措置とセーフガード	貿易政策としてのダンピングの効果について、理解します。
27	知的財産権の保護と技術革新	技術革新や知的財産権の保護が貿易を通じて各国経済にどのような役割を果たすのか、考察します。
28	まとめ	秋学期の内容を総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

定期的に小テストや宿題を出します。宿題は期限までに解いて提出してください。また、講義ノートに授業支援システムを通じて事前に配信しますので、各自ダウンロード・印刷して授業時に持参してください。

【テキスト（教科書）】

授業ノートを中心に講義を行います。教科書は指定しません。ただし、下記のうちいずれか 1 冊を入手して読むことを勧めます。教科書の内容や難易度については、第 1 回の講義で説明します。

【参考書】

- ① 多和田眞・近藤健児『国際経済学の基礎「100 項目」第 4 版』創成社、2018 年。
- ② 多和田眞・柳瀬明彦『国際貿易- モデル構築から応用へ-』名古屋大学出版会、2018 年。
- ③ 友原章典『理論と実証から学ぶ新しい国際経済学』ミネルヴァ書房、2018 年。
- ④ 若杉隆平『国際経済学 第 3 版』岩波書店、2009 年。
- ⑤ Caves, R.E., J.A. Frankel, and R.W. Jones (2006) *World Trade and Payments*, 10th edition, Prentice Hall.
- ⑥ Feenstra, R.C. and A.M. Taylor (2014) *International Economics*, the 3rd edition, Worth Pub.
- ⑦ Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz (2014) *International Economics: Theory and Policy*, 10th edition, Person.

【成績評価の方法と基準】

授業内演習・小テスト・定期試験など総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

履修者の皆さんの要望にできるだけ添った授業の展開を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

履修者の人数にもよりますが、基本的にはパワーポイントを用いて解説します。また、資料の配布や連絡事項等は、授業支援システムを通じて配信します。履修者は、パソコンを使用できる環境が必要です。

【その他の重要事項】

第 1 回の授業で講義内容や年間スケジュールなどについて解説しますので、履修希望者は必ず出席してください。

【Outline and objectives】

This class aims to deepen understanding of mechanisms of international transactions under the current global economy. In this class, we will learn theory and policy of international trade at the intermediate level. We will focus on the basic structure and systems of trade in the spring semester and trade policies in the fall semester.

ECN500F1 - 0031

産業組織論

大木 良子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学とゲーム理論から、企業行動や企業間のインタラクションを分析するために有効なツールについて学ぶ。ミクロ経済学で最初に学習する「完全競争」の概念から離れ、より現実的で複雑な市場における競争を分析し、それらが消費者や経済全体に与える影響を明らかにする。加えて、理論的な分析から市場の競争に対する政策（競争政策）への示唆を導く。産業組織論の各トピックに対応する現実の事例について、理論の分析結果と現実との一致や相違点を参加者で議論し、経営学など隣接分野への応用可能性について考える。

【到達目標】

1. 産業組織論の理論的基礎を体系的に理解する。またその知識を活用して英語で書かれたものを含めた、応用的な文献を理解できるようにする。
2. 学んだ理論を使って、現実の企業の行動を自らの言葉で説明し、経済学的な視点で評価することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

産業組織論の各トピックに対応する現実の事例について、理論の分析結果と現実との一致や相違点をレクチャーで解説したり、報告や質疑応答によって議論することで、産業組織論の考え方と経営学など隣接分野とのリンクをはかる。講義の進め方としては、教員がレクチャーを行った後、そのトピックに関連する専門書（英語文献を含む）を輪読する。報告者は、レジュメを作成し、要点を整理する。報告者以外は、予習の上、報告者への質問を考え、授業の最初に教員に提出する。報告では、要点を整理する力と理論的結論を解釈する力を評価する。またレポート課題により問題を解くことによる理論の習熟度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

通年		
回	テーマ	内容
第 1 回	クールノー競争レクチャー 1	寡占市場の具体例：数量競争・価格競争 ゲーム理論の基礎：戦略とは、ナッシュ均衡とは 同質財のクールノー競争の分析
第 2 回	クールノー競争レクチャー 2	同質財のクールノー競争の均衡分析の拡張 企業数と競争の程度
第 3 回	ベルトラン競争レクチャー	同質財のベルトラン競争の均衡分析 クールノー競争とベルトラン競争の比較
第 4 回	寡占市場に関するテキストの輪読 1	参加者による関連文献の報告、ディスカッション
第 5 回	寡占市場に関するテキストの輪読 2	参加者による関連文献の報告、ディスカッション
第 6 回	レポート課題の解説	レポート課題を提出後その内容について解説する。
第 7 回	参入障壁レクチャー	参入障壁とはなにか 参入障壁のない状況：コンテストバブル・マーケットの理論
第 8 回	参入阻止レクチャー	参入阻止とはなにか、現実の具体例 独占禁止法で規制される参入阻止行動とはどのようなものか コミットメントとはなにか、また参入阻止とどのような関係があるか
第 9 回	参入に関するテキストの輪読 1	参加者による関連文献の報告、ディスカッション
第 10 回	参入に関するテキストの輪読 2	参加者による関連文献の報告、ディスカッション
第 11 回	カルテルレクチャー	カルテルの具体的な摘発例 カルテルの経済モデルによる分析
第 12 回	カルテルに関するテキストの輪読	参加者による関連文献の報告、ディスカッション
第 13 回	合併の経済効果レクチャー	なぜ企業は合併するのか？ 合併が社会的厚生に与える影響
第 14 回	合併に関するテキストの輪読	参加者による関連文献の報告、ディスカッション
第 15 回	価格差別レクチャー 1	企業が用いる価格差別の手法の紹介
第 16 回	価格差別レクチャー 2	価格差別が競争に与える影響
第 17 回	価格差別に関するテキストの輪読 1	参加者による関連文献の報告、ディスカッション

第 18 回	価格差別に関するテキストの輪読 2	参加者による関連文献の報告、ディスカッション
第 19 回	ネットワーク外部性レクチャー	ネットワーク外部性とはなにか、ネットワーク外部性がある市場の具体的な例と特徴的な企業戦略、情報化とプラットフォーム
第 20 回	ネットワーク外部性に関するテキストの輪読 1	参加者による関連文献の報告、ディスカッション
第 21 回	ネットワーク外部性に関するテキストの輪読 2	参加者による関連文献の報告、ディスカッション
第 22 回	製品差別化レクチャー	製品差別化と市場支配力 立地モデルによる製品差別化の分析
第 23 回	製品差別化に関するテキストの輪読	参加者による関連文献の報告、ディスカッション
第 24 回	垂直的取引制限レクチャー 1	垂直的な取引関係と垂直的取引制限の具体的な事例
第 25 回	垂直的取引制限レクチャー 2	なぜ企業は垂直的取引制限を用いるのか。市場競争に与える影響。
第 26 回	垂直的取引制限に関するテキストの輪読 1	参加者による関連文献の報告、ディスカッション
第 27 回	垂直的取引制限に関するテキストの輪読 1	参加者による関連文献の報告、ディスカッション
第 28 回	レポート課題の解説	レポート課題を提出後その内容について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レクチャー部分については、レポート課題を念頭に、授業後の復習が必要です。輪読部分については、予習をし、報告者はレジュメを用意、報告者以外は質問を準備し、授業中の活発な議論に役立ててください。各受講生には、レポート課題に加え、年間 4 回程度のプレゼンテーションを求めます。

【テキスト（教科書）】

レクチャー部分は主に以下のテキストを使います。その都度該当部分を紹介しします。必要に応じて各自の判断で参考にしてください。事前に購入する必要はありません。

花崗誠（2018）「産業組織とビジネスの経済学」有斐閣
小田切宏之（2001）「新しい産業組織論」有斐閣
柳川隆・川浜昇編（2006）「競争の戦略と政策」有斐閣
小田切宏之（2008）「競争政策論」日本評論社

【参考書】

輪読部分は以下の参考書から受講生のレベル、関心に応じて章を選びこちらで用意します。

花崗誠（2018）「産業組織とビジネスの経済学」有斐閣
小田切宏之（2016）「イノベーション時代の競争政策」有斐閣
小田切宏之（2010）「企業経済学」東洋経済新報社
岡田羊祐・林秀弥（2009）「独占禁止法の経済学」東京大学出版会
Belleflamme, P. and M. Peitz（2015）Industrial Organization: Markets and Strategies 2nd edition, Cambridge University Press
Motta, M.（2004）Competition Policy, Cambridge University Press
Tirole, J. (1988) The Theory of Industrial Organization, The MIT Press

【成績評価の方法と基準】

成績評価は以下の基準で決めます。

輪読時の報告 40 %
授業内における質問・討論への参加 30 %
レポート課題の評価 30 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルに合わせ、輪読テキストの選択やレクチャーの難易度を調整していく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学について基本的な知識を習得していることを受講の前提とします。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
産業組織論
<研究テーマ>
競争政策の経済分析
<主要研究業績>
Cato and Oki, Leaders and Competitors, 2012, Journal of Economics, 107, 3.

【Outline and objectives】

The course provides a graduate level introduction to Industrial Organization. The course introduces topics in the theoretical Industrial Organization, which is the applied theory of microeconomics. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. For example, the pricing and marketing strategies of individual firms; the interactions between firms and anti-competitive issues. This course consists of lectures and presentations by students. Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain new perspective on firms' behaviors.

MAN600F1 - 0039

経営学演習

李 瑞雪

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、修士論文の作成を指導するために開講する授業です。履修者は昼間修士課程の 2 年生に限定されます。

【到達目標】

授業の到達目標は以下のとおりです。

- ①企業経営、経営戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーンマネジメントの基本理論、基本概念を理解し、ロジスティクスやサプライチェーンに関わる修士論文を作成します。
- ②フィールド・リサーチとケース・スタディに関する基本的手法を応用して研究を進めます。
- ③修士論文のテーマに関わる日本語と英語の先行文献をレビューし、整理します。
- ④学術論文の基本的作法を習得し、それに基づいて修士論文を完成します。
- ⑤事象を観察し、関連情報を収集・分析し、本質を洞察する能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は演習の形式をとります。最初は履修者の修士論文のテーマに関わる先行文献を輪読し討論します。同時に、論文作成の技法を学びます。夏季休暇期間を利用して、フィールド調査を行いデータを収集・整理します。9 月以降、履修者は毎週、先行研究のレビューやデータの整理・分析を含む研究内容と進捗状況を報告し、論文の完成に向けて執筆をつづけます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

通年		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業運営方法に関する説明。文献案内。スケジュール決定。
2	経営戦略に関わる文献輪読	経営戦略論の基本的理論や概念を理解します。
3	経営戦略に関わる文献輪読	経営戦略論の基本的理論や概念を理解します。
4	経営戦略に関わる文献輪読	経営戦略論の基本的理論や概念を理解します。
5	ロジスティクス戦略に関わる文献輪読	ロジスティクス戦略の基本的理論と概念を理解します。
6	ロジスティクス戦略に関わる文献輪読	ロジスティクス戦略の基本的理論と概念を理解します。
7	ロジスティクス戦略に関わる文献輪読	ロジスティクス戦略の基本的理論と概念を理解します。
8	サプライチェーンマネジメントに関わる文献輪読	サプライチェーンマネジメントの基本的理論と概念を理解します。
9	サプライチェーンマネジメントに関わる文献輪読	サプライチェーンマネジメントの基本的理論と概念を理解します。
10	サプライチェーンマネジメントに関わる文献輪読	サプライチェーンマネジメントの基本的理論と概念を理解します。
11	フィールドリサーチ、ケーススタディに関わる文献輪読・解説	フィールドリサーチ、ケーススタディの基本的手法を習得します。
12	フィールドリサーチ、ケーススタディに関わる文献輪読・解説	フィールドリサーチ、ケーススタディの基本的手法を習得します。
13	修士論文のテーマに関わる先行研究レビュー	先行研究の整理状況を報告し、検討します。
14	修士論文のテーマに関わる先行研究レビュー、フィールド調査の設計	先行研究の整理状況を報告し、検討します。夏季休暇期間中のフィールド調査を設計し準備します。
15	フィールド調査の内容の検討	フィールド調査で収集したデータを整理し、分析します。
16	フィールド調査の内容の検討	フィールド調査で収集したデータを整理し、分析します。
17	追加調査の実施	追加調査で不足するデータを収集し分析します。
18	追加調査の実施	追加調査で不足するデータを収集し分析します。
19	追加調査の実施	追加調査で不足するデータを収集し分析します。
20	学術論文の作法の習得、修士論文のフレームワークと構成の検討	学術論文の基本的要素を理解し、作法を習得します。修士論文の全体の枠組みと目次構成を決定します。

21	学術論文の作法の習得、 修士論文のフレームワークと構成の検討	学術論文の基本的要素を理解し、作法を習得します。修士論文の全体の枠組みと目次構成を決定します。
22	修士論文作成	章毎に内容を報告し、修正などのアドバイスを受けれます。
23	修士論文作成	章毎に内容を報告し、修正などのアドバイスを受けれます。
24	修士論文作成	章毎に内容を報告し、修正などのアドバイスを受けれます。
25	修士論文作成	章毎に内容を報告し、修正などのアドバイスを受けれます。
26	修士論文作成	章毎に内容を報告し、修正などのアドバイスを受けれます。
27	修士論文作成	章毎に内容を報告し、修正などのアドバイスを受けれます。
28	修士論文作成	章毎に内容を報告し、修正などのアドバイスを受けれます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文のテーマに関連する文献を幅広く集め、貪欲に読んで整理してください。学術論文の作法を習得するために、修士論文のテーマに直接関わらない学術雑誌掲載論文も積極的に読むことをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

1 回目の授業中に提示します。

【参考書】

1 回目の授業中に提示します。

【成績評価の方法と基準】

修士論文の完成度で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンかタブレットを授業に持ち込むことをお勧めします。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ロジスティクスマネジメント論、経営戦略論、国際経営論
＜研究テーマ＞新興国市場におけるロジスティクス戦略、中国物流産業の高度化など
＜主要研究業績＞
①『中国物流産業論—高度化の軌跡とメカニズム—』白桃書房、2014 年。
②『日本企業物流とサプライチェーン管理事例精選』中国財富出版社、2013 年。
③「ロジスティクス戦略論の再検討：新興国市場におけるロジスティクス戦略の理論枠組みに関する予備的考察」『経営志林』（ISSN 0287-0975）第 49 巻第 4 号、pp.29-47。
④『変わる中国変わらない中国』全日出版、2003。

【Outline and objectives】

This course is a seminar for the second grade master students who must complete master's thesis. The goal is to create a master's thesis with a high degree of completion.

MAN600F1 - 0039

経営学演習

近能 善範

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、修士論文作成のための研究指導を行います。履修者は、昼間修士課程の 2 年生に限定されます。

【到達目標】

本演習では、論文テーマの導出、先行研究のレビュー、仮説の構築、仮説の検証方法の検討、調査およびデータの収集、仮説の検証、検証結果の検討、文章化、といった一連のステップを踏み、最終的に修士論文を書き上げることができるよう、指導を行います。
また、その過程を通じて、論文作成に必要とされる方法論や技法について、実践を通じて学んでいただきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で、修士論文に向けての報告と、関連するディスカッションを繰り返し行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

通年		
回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業ガイダンス
第 2 回	問題意識の明確化①	論文テーマの元となる問題意識を固める。
第 3 回	問題意識の明確化②	前回の議論を踏まえて、論文テーマの元となる問題意識をさらに掘り下げていく。
第 4 回	先行研究の検討①	先行研究をレビューし、論文テーマに関連し、何がどこまで明らかにされているのかを検討する。
第 5 回	先行研究の検討②	別の先行研究をレビューし、論文テーマに関連し、何がどこまで明らかにされているのかを検討する。
第 6 回	先行研究の検討③	さらに別の先行研究をレビューし、論文テーマに関連し、何がどこまで明らかにされているのかを検討する。
第 7 回	先行研究の検討④	先行研究のレビューを完成させる。
第 8 回	仮説の検討①	先行研究をレビューした結果を踏まえて、論文テーマに関連し、どのような仮説が立てられるのか、それはなぜなのかについて検討する。
第 9 回	仮説の検討②	前回の議論を踏まえて、仮説の深掘りをしていく。
第 10 回	仮説の検討③	前回までの議論を踏まえて、仮説を（暫定的に）確定する。
第 11 回	研究方法・調査方法の検討①	仮説を検証するにあたって適切な方法を検討する。
第 12 回	研究方法・調査方法の検討②	引き続き仮説を検証するにあたって適切な方法を検討するとともに、リサーチ・デザインを設計し、小規模なプレ調査を行う。
第 13 回	研究方法・調査方法の検討③	前回までの議論や結果を踏まえて、リサーチ・デザインを決定する。
第 14 回	中間報告①	これまでの進捗状況を報告し、夏期休業中にやっておくべき内容について確認する。
第 15 回	中間報告②	夏期休業中の成果を中心に、これまでの進捗状況を報告する。
第 16 回	調査計画の報告	調査計画を報告し、必要な助言や指導を受ける。
第 17 回	調査の遂行①	調査実施状況の報告を行い、必要な助言や指導を受ける。
第 18 回	調査の遂行②	引き続き、調査実施状況の報告を行い、必要な助言や指導を受ける。
第 19 回	調査の遂行③	調査実施状況の確認を行った上で、必要な助言や指導を受ける。
第 20 回	調査の遂行④	調査完了前に、実施状況について最後の確認を行う。
第 21 回	調査結果の分析・検討①	調査結果の報告を行い、必要な助言や指導を受ける。
第 22 回	調査結果の分析・検討②	調査結果を分析した上で報告し、必要な助言や指導を受ける。

第 23 回	調査結果の分析・検討③	前回の議論を受けて、追加の分析を行って報告し、必要な助言や指導を受ける。
第 24 回	修士論文作成①	これまでの成果を整理し、修士論文の作成を進める。
第 25 回	修士論文作成②	修士論文の作成状況を報告し、必要な助言や指導を受ける。
第 26 回	修士論文作成③	いったん修士論文を完成させて、必要な助言や指導を受ける。
第 27 回	修士論文作成④	前回までの助言や指導を受けて、修士論文の加筆・修正を行い、さらに助言や指導を受ける。
第 28 回	修士論文の最終確認	論文の最終的なチェックを行い、必要な加筆・修正を施して、修士論文を完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動等は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】

近能善範・高井文子『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』, 新世社, 2010 年。

【参考書】

特になし。
必要に応じて、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

提出された修士論文の完成度で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞
イノベーション・マネジメント、経営戦略論、企業間関係論
＜研究テーマ＞
イノベーションと企業間関係
＜主要業績（テキスト）＞
『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』（高井文子との共著），新世社, 2010 年。
＜主要研究業績 (1)＞
“Enhancement of the advanced R&D cooperation between automakers and suppliers in the Japanese automobile industry,” Annals of Business Administrative Science, Vol.6, pp. 15-34, 2008.
＜主要研究業績 (2)＞
「日本自動車産業における関係的技能の高度化と先端技術開発の深化」, 『一橋ビジネスレビュー』, 54 巻 4 号, 2007 年 3 月。

MAN600F1 - 0039

経営学演習

新倉 貴士

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。履修生は、実務的な問題意識を基にして、マーケティングに関する独自性の高い研究を行い、論文を作成する。

【到達目標】

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表ができるレベルの完成度を目指す。到達目標として、以下の3点を目指す。

- ①当該研究分野における既存研究に関する網羅的な文献探索ができることを目指します。
- ②独自の斬新な仮説が導出できるようになることを目指します。
- ③体系立てた調査設計と仮説の検証ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

上記の目的に即して、大学院在籍のメンバーと共にゼミ形式で行う。毎回、修士論文に向けての報告と、それに関するディスカッションを行う。到達目標①については、研究の進捗状況を随時報告することにより、多角的な視点からのコメントに基づいて、漏れのないように進めます。到達目標②については、報告に基づくコメントに基づいて、毎回、仮説の修正を繰り返すことにより、より洗練させていくようにします。到達目標③については、基本的な市場調査のテキストに基づきながら、正確な調査と分析を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

通年	テーマ	内容
1	問題意識の明確化①	論文のテーマに関する問題意識の重要性を指導
2	問題意識の明確化②	論文のテーマに関する問題意識の重要性を指導
3	先行研究の検討①	先行研究についての指導
4	先行研究の検討②	先行研究についての指導
5	先行研究の検討③	先行研究についての指導
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法についての指導
8	中間報告の準備	ゼミでの中間報告準備の指導
9	第1回中間報告	中間報告での指導
10	調査実施状況の確認①	調査状況に基づき指導
11	調査実施状況の確認②	調査状況に基づき指導
12	調査実施状況の確認③	調査状況に基づき指導
13	調査実施状況の確認④	調査状況に基づき指導
14	調査実施状況の確認⑤	調査状況に基づき指導
15	調査実施状況の確認⑥	調査状況に基づき指導
16	調査実施状況の確認⑦	調査状況に基づき指導
17	調査実施状況の確認⑧	調査状況に基づき指導
18	調査結果の検討①	調査結果に基づき指導
19	調査結果の検討②	調査結果に基づき指導
20	中間報告の準備	ゼミでの中間報告準備の指導
21	第2回中間報告	中間報告での指導
22	修士論文執筆の指導①	修士論文執筆の指導
23	修士論文執筆の指導②	修士論文執筆の指導
24	修士論文執筆の指導③	修士論文執筆の指導
25	修士論文執筆の指導④	修士論文執筆の指導
26	修士論文執筆の指導⑤	修士論文執筆の指導
27	修士論文執筆の指導⑥	修士論文執筆の指導
28	修士論文の最終確認	修士論文の最終指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】

『消費者の認知世界：ブランドマーケティング・パースペクティブ』（新倉貴士著、千倉書房）。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

修士論文への取り組み姿勢ならびに修士論文内容における文献探索の網羅性、仮説の独創性、検証方法の妥当性を確認したうえで、修士論文の学術的貢献、実務への貢献、論理的一貫性などを基にして評価します。

【学生の意見等からの気づき】

指導方法において体系立てた工夫をしながら進める予定です。
進捗度合いが確認できるよう配慮して進める予定です。

【その他の重要事項】

マーケティング関連科目ならびに基礎的な統計的知識を学べる科目を履修しておくことが望ましい。

【担当教員の専門領域等】

<専門領域>

消費者行動論、マーケティング

<研究テーマ>

消費者情報処理の視点に基づく認知・態度・行動の関係

<主要研究業績>

『消費者の認知世界：ブランドマーケティング・パースペクティブ』（単著、千倉書房、2005 年）、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』（共著、有斐閣アルマ、2012 年）

【Outline and objectives】

This class provides the skills required to write a master's thesis on marketing.

Students will gain skills for an academic methodology and marketing practices.

Major course objectives are;

-To get the knowledge in the area of consumer behavior and marketing strategy.

-To learn marketing methodology.

-To create original hypothesis.

-To get presentation skills required to communicate original ideas.

-To write a master's thesis.

MAN600F1 - 0039

経営学演習

長谷川 翔平

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】

- ・研究テーマと関連のある先行研究の調査・レビューができる
- ・独自性の高い研究テーマを設定できる
- ・研究テーマに応じた分析手法を提案できる
- ・内容的に高度な修士論文を作成する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

各自の研究テーマに基づき、先行研究の検討、研究方法の検討を行う。研究方法の決定後には、具体的な調査やデータ収集を行い分析を行う。授業は、毎回の受講生の報告と教員からの指導で進め、最終的に修士論文の執筆を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**通年**

回	テーマ	内容
第 1 回	研究計画の作成	研究テーマに基づき研究計画を作成
第 2 回	先行研究の検討①	研究テーマに関する先行研究の渉猟
第 3 回	先行研究の検討②	研究テーマに関する先行研究の整理
第 4 回	先行研究の検討③	研究テーマに関する先行研究の批判的検討
第 5 回	研究方法の検討①	研究方法についての指導
第 6 回	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
第 7 回	研究方法の検討③	研究方法の決定
第 8 回	第 1 回中間報告の準備	中間報告に向けて準備と指導
第 9 回	第 1 回中間報告会	中間報告での指導 (日程は前後する可能性あり)
第 10 回	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて再確認
第 11 回	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
第 12 回	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
第 13 回	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
第 14 回	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析
第 15 回	調査実施状況の確認⑥	調査データの分析
第 16 回	調査実施状況の確認⑦	調査データの分析
第 17 回	調査結果の検討①	調査結果に基づき指導
第 18 回	調査結果の検討②	調査結果に基づき指導
第 19 回	第 2 回中間報告の準備	中間報告に向けて準備と指導
第 20 回	第 2 回中間報告会	中間報告での指導 (日程は前後する可能性あり)
第 21 回	修士論文執筆の指導①	中間報告会でのコメントを踏まえた研究内容の修正
第 22 回	修士論文執筆の指導②	修士論文執筆の指導
第 23 回	修士論文執筆の指導③	修士論文執筆の指導
第 24 回	修士論文執筆の指導④	修士論文執筆の指導
第 25 回	修士論文執筆の指導⑤	修士論文執筆の指導
第 26 回	修士論文執筆の指導⑥	修士論文執筆の指導
第 27 回	修士論文の最終確認①	修士論文の最終指導
第 28 回	修士論文の最終確認②	修士論文の最終指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文への取り組み（40 %）

修士論文の学術的説得力、実務への貢献、論理的な一貫性など（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの実施実績なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マーケティング・サイエンス

<研究テーマ>

ベイズモデリングによる消費者行動データの分析
＜主要研究業績＞

Terui, N., S. Hasegawa, A. N. Smith, G. M. Allenby (2017), "An Integrated Model for Discontinuous Preference Change and Satiation," Data Science and Service Research Discussion Paper (Tohoku University), 70, pp.1-36.

長谷川翔平 (2017), 「効用関数の構造異質性と広告戦略の最適化」, 『経営志林』, 53(4), pp.1-9.

【Outline and objectives】

This course is to provide research guidance for writing a master thesis on marketing. Students will write original master thesis for solving marketing issues using marketing theories and analyses.

MAN600F1 - 0039

経営学演習

洞口 治夫

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、昼間の修士課程2年に在籍して洞口を指導教員とする学生に、修士論文の作成を指導するために開講されます。少人数の指導によって修士論文を作成していきます。

【到達目標】

授業の到達目標は以下のとおりです。

- ①企業経営を理論的な観点から分析し、国際経営に関する修士論文の作成ができる。
- ②イノベーションを引き起こす企業能力の所在を理論的に理解できる。
- ③経営戦略に関する基本的な理論を理解できる。
- ④経営学に関する基本的な英文を正確に理解でき、的確に報告する能力を身につける。
- ⑤1万字程度の修士論文の作成を通じて、論理的な思考能力と的確な日本語文章力を身につける。
- ⑥数学的な理解度に応じて、統計的な分析方法を応用できる。
- ⑦インタビュー調査を通じて、コミュニケーション能力と論理的な思考能力を応用できる。
- ⑧アンケート調査を通じて、仮説検定の意義を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は演習の形式を取り、修士論文の作成に必要な基本書ないし論文を輪読します。一年生の春休みや二年生の夏休みなどの期間を利用した工場見学や企業訪問を通じて、インタビュー調査によるデータ収集を学びます。授業では参加者の研究報告を行い、データの整理、参考文献の読解、アカデミックな文章表現など、論文作成の技法を学びます。授業では、受講生が研究の進捗状況についてレジュメを作成し報告を行います。この授業の参加者は、修士課程2年に在籍し、洞口の指導を許可された者を対象としています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

通年 回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業運営方法に関する説明。レジュメ作成の担当決定。
2	修士論文の構想 (1) 修士課程1年生の間に読んだ論文の紹介とまとめ	参加学生によるレジュメ作成と報告。経営戦略論・経営組織論を知識管理の文脈から捉えなおす。
3	修士論文の構想 (2) 修士課程1年生の間に読んだ論文のサーベイ作成と添削	参加学生によるレジュメ作成と報告。経営戦略論・経営組織論を知識管理の文脈から捉えなおす。
4	研究計画 (1) 修士論文作成のための研究計画の立案とディスカッション	参加学生によるレジュメ作成と報告。経営戦略論・経営組織論を知識管理の文脈から捉えなおす。
5	研究計画 (2) 学術雑誌『組織科学』に掲載された論文の輪読。	参加学生によるレジュメ作成と報告。経営戦略論・経営組織論を知識管理の文脈から捉えなおす。
6	研究計画 (3) 学術雑誌『組織科学』に掲載された論文の輪読。	参加学生によるレジュメ作成と報告。学生による事例の報告。
7	研究計画 (4) 学術雑誌『組織科学』に掲載された論文の輪読。	参加学生によるレジュメ作成と報告。学生による事例の報告。
8	研究計画 (5) 学術雑誌『組織科学』に掲載された論文の輪読。	参加学生によるレジュメ作成と報告。学生による事例の報告。
9	実施準備 (1) 過去に提出された修士論文の輪読。	参加学生によるレジュメ作成と報告。学生による事例の報告。
10	実施準備 (2) 過去に提出された修士論文の輪読。	参加学生によるレジュメ作成と報告。学生による事例の報告。
11	実施準備 (3) 過去に提出された修士論文の輪読。	フィールド調査についての理論的アプローチについて検討する。
12	作成 (1) 修士論文の研究進捗状況報告	フィールド調査についての理論的アプローチについて検討する。
13	作成 (2) リサーチクエスションの文章化とその添削	フィールド調査についての理論的アプローチについて検討する。

14	作成 (3) 学術雑誌『国際ビジネス研究』に掲載された論文の輪読。前期のまとめ。	フィールド調査についての理論的アプローチについて検討する。
15	調査報告 (1) 修士論文の研究進捗状況報告	修士論文作成の進捗状況報告。
16	調査報告 (2) 夏休み期間中の研究進捗報告	論文で利用する概念、用語、論理構造を検討する。
17	水準検討 (1) 学術雑誌『国際ビジネス研究』掲載論文の輪読	左記文献の概念、用語、論理構造を検討する。
18	水準検討 (2) 学術雑誌『国際ビジネス研究』掲載論文の輪読	左記文献の概念、用語、論理構造を検討する。
19	水準検討 (3) 学術雑誌『国際ビジネス研究』掲載論文の輪読	左記文献の概念、用語、論理構造を検討する。
20	執筆と添削 (1) 修士論文の執筆進捗報告。	文献サーベイ、調査結果の確認。図表作成の適切さの検討。
21	執筆と添削 (2) 学術雑誌『アジア経済』掲載論文の検討。	経営組織研究を掲載する学術論文の批判的検討を行う。
22	執筆と添削 (3) 学術雑誌『アジア経済』掲載論文の検討。	経営組織研究を掲載する学術論文の批判的検討を行う。
23	執筆と添削 (4) 学術雑誌『アジア経済』掲載論文の検討。	経営組織研究を掲載する学術論文の批判的検討を行う。
24	執筆と添削 (5) 修士論文の進捗報告。	学術論文としての批判的検討を行う。
25	調査フォローアップ (1)Journal of International Business Studies 掲載論文の検討。	国際ビジネスに関する英語学術論文の批判的検討を行う。
26	調査フォローアップ (2)Journal of International Business Studies 掲載論文の検討。	国際ビジネスに関する英語学術論文の批判的検討を行う。
27	修士論文の進捗報告と添削。	日本語文章作法、論理構成、仮説・命題・結論の相互関係の検討。
28	論文の検討。	学術論文としての批判的検討を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①洞口治夫編著『ファカルティディベロップメント』第 11 章、白桃書房、2008 年、pp.257-271 を読了しておくこと。
- ②授業で与えられた課題について、報告者は当該部分を熟読し、報告レジュメを作成すること。他の参加者は質問点を考えること。適宜、参考文献を使い、企業経営の理論に関する理解を深めていくこと。
- ③新聞、雑誌、ウェブサイトなどから、独自の事例を探し、紹介すること。また、その事例を調査対象として捉えた場合にはどのような調査方法があるかを検討すること。
- ④修士論文の作成状況は適宜チェックし、自ら何回も添削を行うこと。
- ⑤最終レポートは、修士論文として提出できる水準のものを準備すること。

【テキスト（教科書）】

洞口治夫『MBA のナレッジ・マネジメントー集合知創造の場としての社会人大学院ー』文真堂、2018 年。＜授業内で利用します。＞

洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロップメント』第 11 章、白桃書房、2008 年。

【参考書】

- ①小池和男・洞口治夫編著『経営学のフィールド・リサーチー「現場の達人」の実践的調査手法ー』日本経済新聞社、2006 年。＜様々な研究方法を理解して下さい。＞
- ②洞口治夫『日本企業の海外直接投資』東京大学出版会、1992 年。
- ③洞口治夫『グローバリズムと日本企業』東京大学出版会、2002 年。
- ④洞口治夫・行本勢基『入門 経営学ー初めて学ぶ人のためにー』同友館、2008 年。
- ⑤洞口治夫『集合知の経営』文真堂、2009 年。
- ⑥ P.G. ホーエル『初等統計学』培風館、1981 年。
- ⑦星野匡郎・田中久稔『R による実証分析ー一回帰分析から因果分析へー』オーム社、2016 年。
- ⑧山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

報告 (30 点)、議論への参加 (20 点)、最終レポート (50 点)。報告のためのレジュメ作成は、何回かのやりなおしが課される場合があります。やりなおしのプロセスで投入した努力を含めて採点します。毎回の出席が要求されます。担当回における報告内容とそれに関する質疑応答や議論から理解度を判定します。毎回の予習・準備が十分行えていることが不可欠です。筆記試験とともに最終レポートを提出します。筆記試験は、重要な概念の簡潔な説明を要求します。レポートの課題は講義の中で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

日本語論文のための文章作成は、添削を受けてはじめて上達します。添削を受けるためには、その下地となる日本語の文章が作成できていなければなりません。日本語の文章を作成するには、日ごろから良い日本語を読むことが大切です。ただし、小説、新聞、雑誌などに用いられている日本語には、それぞれ独自の文体があり、学術論文で用いられる日本語の文体とは異なります。日本語の学術論文を読まなければ、日本語の修士論文を書くことはできません。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書およびスマホ。授業内での統計的な説明を補完し、インターネットを利用して必要なデータをチェックするためのパソコンが必要です。

【その他の重要事項】

論文作成のために授業外でのミーティングを行う場合があります。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞国際経営論

＜研究テーマ＞国際経営論、海外直接投資論、イノベーション政策

＜主要研究業績＞

①＜単著＞ Collective Knowledge Management: Foundations of International Business in the Age of Intellectual Capitalism, Edward Elgar Publishing, 2014.

②＜査読付き論文＞"Decoding symbiotic endogeneity: The chastic input-output analysis of university-business-government alliances," Triple Helix: A Journal of University-Industry-Government Innovation and Entrepreneurship, vol.3, no.1(13), 2016.

③＜査読付き学会プロシーディングス＞ Horaguchi, H. H., Kodama, Y., Yukimoto, S. "International internship: Business education for leadership and trust," Academy of Management (AOM) Proceedings, 2017:1, 11541; doi:10.5465/AMBPP.2017.11541abstract

【Outline and objectives】

This course is offered to instruct students who are enrolled in the second year of the master's course at daytime. Those who have enrolled Professor Horaguchi as a supervising professor are allowed to prepare the master's theses in this course. The students will prepare their master's theses with the guidance of Professor Horaguchi with a small number of students.

経営学演習

小川 憲彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、人材・組織マネジメント領域、とりわけ組織行動論における修士論文の作成とこれを通じた当該分野における研究作法の習得を目的とする。基本的には経験的・実証的研究を推奨する。参加者には、自主的な研究進捗の報告を求める。

【到達目標】

「実践的な含意を持ちつつ、学術的にも高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とする。具体的には、①人材・組織マネジメントの観点に即して研究テーマを絞り込む、②研究テーマに関連する先行研究を探索し、批判的に読み込み、論点を整理する、③先行研究を踏まえて、自らの研究課題、仮説を具体的に設定する、④課題・仮説を検証するための調査方法を検討し、選択した方法に則って調査を実施する、⑤収集した事例・データを分析し、課題・仮説の検証を行う、⑥研究成果の学術的・実践的意義およびその限界について検討する、⑦分析結果を論文として論理的にまとめる、⑧以上について、口頭での説明や他者との意見交換、が必要となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

履修者の人数、研究テーマ、研究方法、進捗度合等に応じて、指導スタイルが変わるが、基本的には、個別ではなく修論執筆予定の学生全員参加の形式で、各々の研究進捗報告をベースに進める。したがって人数分の資料準備が求められる。場所や時間帯はある程度融通を持たせ、週末や平日の時間帯等を利用して行う。この他に、4月上旬のプロポーザル発表会（1～2日）、9月の中間報告会では、人材・組織マネジメントコース全教員からの指導を受けることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会が設けられている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業運営や参加ルールの説明、および修論執筆計画の年間計画について
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について

第27回 論文内容の指導③

全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認

第28回 論文の最終チェック

発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的には毎回、各自の報告をベースに進める。授業はあくまでメルクマールの位置づけであり、授業間に各自の研究を自主的に進める必要がある。報告内容は進捗によって異なるが、研究計画書の作成、先行研究の検討状況、分析方法の自学自習、質問票や聞き取りガイドラインの作成、分析結果のまとめ、論文の目次や文献表など、適宜指示を行う。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は用いないが、当該授業向けのシラバスおよび論文執筆要綱を配布する。

【参考書】

その都度必要な内容に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業参加時の報告内容、進捗状況などの平常点：50点

修士論文の出来：50点

【学生の意見等からの気づき】

学部ゼミ生など同じく研究活動に取り組む学生との接点を持てる場を設けたと思います。

【学生が準備すべき機器他】

参加者人数分の各自の報告資料。データ共有時や執筆原稿などの量が多くなる場合は事前にメール等で共有すること。なお、必要なら指導内容を録音してよいが、その際は申し出ること。

【担当教員の専門領域等】

<専門領域>

経営管理論、経営組織論、組織行動論

<研究テーマ>

組織適応、採用

<主要研究業績>

Norihiko Ogawa, D.Osato, K.Takahashi(2016)"Criteria for Screening Job-Applicants in Japanese Companies: Policy-Capturing Approach"Journal of Academy of Business and Economics, Vol.15, No.1, pp.101-109.

【Outline and objectives】

The present seminar aims to complete an empirical master thesis on the field of human resource and organization management, especially on organizational behavior. Participants should learn the way of research and are expected to report study progress on a voluntary basis.

MAN600F1 - 0039

経営学演習

横山 斉理

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、学術的課題を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしてい。

【到達目標】

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析
15	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
16	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
17	調査実施状況の確認②	調査データの分析
18	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
19	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
20	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
21	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
22	中間報告会の準備	中間報告準備の指導
23	秋季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
24	論文執筆指導①	全体構成の再確認
25	論文執筆指導②	レビューパートの指導
26	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
27	論文執筆指導④	分析パートの指導
28	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

【参考書】

指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】

スケジュール管理に留意する。

【Outline and objectives】

This seminar aims to complete the master thesis.

MAN600F1 - 0039

経営学演習

西川 真規子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、修士論文作成に向けての指導を行います。社会科学、特に人材・組織マネジメントの観点から研究課題を設定し、先行研究を探索し、調査方法を検討し、課題への独自の考察を行っていきます。

【到達目標】

以下の6点をこの授業の到達目標とします。

- 1) 人材・組織マネジメントの視点に立ち、経営課題を客観的にとらえられるようになる。
- 2) 自ら設定した経営課題に対する有効なアプローチを見出すために、先行研究を幅広く、かつ深く探索できる。
- 3) 探索した先行研究をもとに、自らの経営課題をシステムティックに捉え、その因果関係に関する仮説を設定する。
- 4) 自ら設定した経営課題に関する仮説を検証するための適切な社会調査の手法を選択する。
- 5) 調査を実施し、データを収集し、データ分析を行う。
- 6) 分析結果を踏まえ、課題全体を考察し、論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で実施します。受講生の関心や学習速度に応じて、適宜課題を設定し、その課題に対して受講生が準備を進め、次回までにレポートとしてまとめます。その後の授業で受講生は準備したレポートを発表し、討議の上、内容を改善し、考察を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
第1回	研究論文とは	研究論文をいくつか取り上げ、内容を検討
第2回	研究テーマの設定1	研究テーマの領域を設定
第3回	研究テーマの設定2	先行研究の探索を進めつつ、テーマを具体化
第4回	研究テーマの設定3	先行研究の探索を進めつつ、テーマを具体化
第5回	先行研究の探索1	テーマに沿った先行研究の探索
第6回	先行研究の探索2	テーマに沿った先行研究の探索
第7回	先行研究の探索3	テーマに沿った先行研究の探索
第8回	先行研究のまとめ1	先行研究を問題関心に沿ってまとめる
第9回	先行研究のまとめ2	先行研究を問題関心に沿ってまとめる
第10回	課題・仮説の設定1	先行研究を踏まえ、独自の課題・仮説を設定
第11回	課題・仮説の設定2	先行研究を踏まえ、独自の課題・仮説を設定
第12回	調査手法の検討1	多様な調査手法について学習
第13回	調査手法の検討2	テーマに適切な調査手法を選択
第14回	中間発表	先行研究、課題・仮説、調査手法について人材・組織マネジメントコース全体の発表会にて報告
第15回	仮説の見直し	中間発表のコメントを踏まえ仮説を見直し
第16回	先行研究の再調査	中間発表のコメントを踏まえ先行研究を再調査
第17回	調査手法の見直し	中間発表のコメントを踏まえ調査手法を見直し
第18回	調査の実施1	調査を実施し、データを収集
第19回	調査の実施2	調査を実施し、データを収集
第20回	調査の実施3	調査を実施し、データを収集
第21回	調査の実施4	調査を実施し、データを収集
第22回	データの分析1	収集したデータの整理、分析
第23回	データの分析2	収集したデータの整理、分析
第24回	再調査の検討	必要に応じて再調査を実施
第25回	分析結果の考察1	データ分析の結果を考察
第26回	分析結果の考察2	データ分析の結果を考察
第27回	論文作成1	論文の構成を検討
第28回	論文作成2	論文をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は演習ですので、受講生が自らの課題に対して自律的に関連領域の先行研究を探索し学習を進め、指導に向けて事前に十分な準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しません。

【参考書】

参考書は受講生の関心により適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

各回での準備状況（50 %）や学習到達度（50 %）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

個別指導のため、授業アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

人材・組織マネジメントコース主催の4月、9月の全体発表会に参加し、研究進捗状況を報告します。この発表会では、コース所属教員全員での指導を行っています。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞組織行動論、経済社会学

＜研究テーマ＞ジェンダーと労働、働き方とアイデンティティ

＜主要研究業績＞

①「市場労働とケア労働の関係性—行動、認知、心理レベルでの考察」『経営志林』2016年、第53巻2号

②「より良い働き方とは：雇用の質への試験的アプローチ」『日本労働研究雑誌』2013年、No.632

③"(Re)defining Care Workers as Knowledge Workers", *Gender, Work and Organization*, Vol.18 No.1 2011

【Outline and objectives】

This course is for students to write a master's thesis. Students will learn academic approaches to examine social phenomena in business organization, by setting their research theme, surveying relevant literature, making hypotheses, gathering data, investigating the results of data analysis, and summarizing the findings.

MAN600F1 - 0039

経営学演習

北田 皓嗣

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アカウンティング・ファイナンスコースの演習では、これまで学習してきた内容また他の領域での講義の成果を基礎として、各自の実務経験に基づく問題意識に基いて修士論文のテーマを設定してもらいます。その上で、各自が選択したテーマに関連した学術論文のレビューを行うことで問題点を明確にするとともに、実務の状況を考え合わせることで学術的に修士論文にふさわしいレベルの論文を作成を目的とします。

【到達目標】

修士論文の作成者の問題意識を明確にすると共に、関連した学術論文を読みこみ、理解する。また、テーマに関連した基本的な論理および研究方法論を身につけることで、最終的には学術的に意味のある論文を仕上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

論文作成の方法、選択した研究テーマのそれぞれの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

通年		
回	テーマ	内容
1～2回	修士論文作成のためのガイダンス	学術論文の構成、参考文献の検索方法、またそれぞれの領域で検索の対象となりうる学術雑誌の紹介を行う。さらに、各自が選択したテーマに関連した最新の研究成果を紹介する。
3～26回目	先行研究のレビュー	選択したテーマに関連した先行研究のレビューを行ってもらい、そのレビューに基づいて議論を行う。何がどこまで明らかにされているのか、また各論文の研究手法などについても議論する。
27～28回目	研究テーマの選択	修士論文としての研究テーマの妥当性、また何を明らかにしたいのかを学生の報告に基づき検討する。比較的短時間で書き上げるべき修士論文の性質上テーマを具体的に絞る必要がある。さらに、データの入手可能性も大きなポイントである。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文は各自の問題意識に基づいて作成していくものです。演習に望むにあたって各回の準備を充分に行っておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。各自の問題意識に基づき基本的な文献を紹介します。

【参考書】

各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習への出席の状況 20 %、議論への貢献 30 % および報告の内容 50 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は演習科目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【Outline and objectives】

The master thesis seminar will guide students through key issues in research design, from choosing a topic, through selecting approaches to research it, to conducting research, drawing conclusions and summarizing the results in written form.

MAN600F1 - 0039

経営学演習

西川 英彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。マーケティングの研究テーマに関する問題意識をもとにした、独自性の高い研究を通して、優れた論文執筆をできるよう、演習や中間報告会で指導していく。

【到達目標】

- 本演習の到達目標は、以下の 4 点となる。
- ①研究テーマに基づく関連分野の先行研究の探索や整理、批判をできるようにする。
 - ②先行研究レビューを通した、明確な問題意識を設定できるようにする。
 - ③問題意識に適した、インタビューなどの定性分析、あるいはアンケートや実験などの定量分析をできるようにする。
 - ④内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習は、「研究計画の作成」からはじめ、「先行研究の検討」、「問題意識の明確化」、「研究方法の検討」、「調査実施状況の確認」、「調査結果の検討」、「修士論文執筆の指導」、「修士論文の最終確認」という 8 ステップに基づき、毎回の受講生による報告と、それに対しての教員や他のゼミ生との議論を通して、修士論文作成の指導を計画的に進める。

さらに、マーケティング分野の他の教員も交えた中間報告会を 2 回開催し、集団による論文作成指導も実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
1	研究計画の作成	・研究テーマに基づいた、研究計画作成の指導
2	先行研究の検討①	・研究テーマに関する先行研究の探索方法についての指導
3	先行研究の検討②	・研究テーマに関する先行研究のレビュー方法についての指導
4	先行研究の検討③	・先行研究レビューの整理についての指導
5	問題意識の明確化	・先行研究レビューに基いた、明確な問題意識となるよう指導
6	研究方法の検討①	・問題意識に基づいた、インタビューなどの定性分析、あるいはアンケートや実験などの定量分析についての指導
7	研究方法の検討②	・研究方法の再検討
8	第 1 回中間報告の準備	・中間報告会に向けて、中間報告準備の指導
9	第 1 回中間報告会	・中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	・中間報告会でのコメントを踏まえた研究内容の修正 ・研究方法に基づいた調査状況の確認および指導
11	調査実施状況の確認②	・調査実施状況の再確認および再指導
12	調査実施状況の確認③	同上
13	調査実施状況の確認④	同上
14	調査実施状況の確認⑤	同上
15	調査実施状況の確認⑥	同上
16	調査実施状況の確認⑦	同上
17	調査結果の検討①	・調査結果の確認および指導
18	調査結果の検討②	・調査結果の再確認および再指導
19	第 2 回中間報告の準備	・中間報告会に向けて、中間報告準備の指導
20	第 2 回中間報告会	・中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
21	修士論文執筆の指導①	・中間報告会でのコメントを踏まえた研究内容の修正 ・修士論文執筆の確認および指導
22	修士論文執筆の指導②	・修士論文執筆の再確認および再指導
23	修士論文執筆の指導③	同上
24	修士論文執筆の指導④	同上
25	修士論文執筆の指導⑤	同上
26	修士論文執筆の指導⑥	同上

27	修士論文の最終確認①	・修士論文執筆の最終指導
28	修士論文の最終確認②	・前回の指導に基づいた修正点の確認および指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究の文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

【参考書】

指導教官からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】

ステップを明確にし、計画的に執筆できるようスケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング

<研究テーマ>

クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）

<主要研究業績>

著書に、『1 からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『1 からの商品企画』（編著、碩学舎）、『1 からの消費者行動』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。

論文に、『共創志向と競争志向は、ユーザー・イノベーションに有効か：ミニ四駆のイノベーション・コミュニティ』（共著、『マーケティングジャーナル』36(4)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、*Journal of Marketing Research*, 54(4)）、"User-Generated Versus Designer-Generated Products: A Performance Assessment at Muji,"（共著、*International Journal of Research in Marketing*, 30(2)）など。

<研究室サイト>

<http://nlab.ws.hosei.ac.jp/>

【Outline and objectives】

This seminar provides research guidance for master's thesis on marketing. I teach through a seminar and interim report sessions that students will be able to write an excellent dissertation based on their highly unique research question about the theme of marketing.

企業家養成演習

吉田 健二

【その他の重要事項】

無し。

【Outline and objectives】

This course is designed to guide second-year students in the entrepreneur-training course in writing their master's theses.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、夜間修士課程（企業家養成コース）の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】

実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に1時間40分（100分間）、あるいは、隔週土曜日に3時間20分（200分間）の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、春学期は、基本文献の輪読のウェートが高い。

毎年7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。

なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文執筆の年間計画の検討。
第2回	プロポーザルの作成指導 (1)	修士論文のテーマと執筆計画の概要を検討する。
第3回	プロポーザルの作成指導 (2)	修士論文のテーマと執筆計画の概要を確定する。
第4回	先行研究の調査、報告、議論 (1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第5回	先行研究の調査、報告、議論 (2)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第6回	先行研究の調査、報告、議論 (3)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第7回	先行研究の調査、報告、議論 (4)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第8回	先行研究の調査、報告、議論 (5)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第9回	先行研究の調査、報告、議論 (6)	先行研究の調査を踏まえて、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究の調査、報告、議論 (7)	前回の議論を、さらに深める。
第11回	中間発表会準備 (1)	企業家養成コースで行われる中間発表会の準備を行う。
第12回	中間発表会準備 (2)	教員の助言を受けて、中間発表会の準備をさらに進める。
第13回	中間発表会準備 (3)	教員の助言を受けて、中間発表会の準備を完成させる。
第14回	中間発表の反省と改善案検討	中間発表会の時に受けたコメントを論文作成に反映するための案をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動等は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

『研究成果集』（毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集）。

【成績評価の方法と基準】

成績の評価基準は、授業への積極的な貢献度（出席等）が50%、発表・報告（修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む）が50%である。

発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】

本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】

無し。

MAN600F1 - 0042

企業家養成演習

吉田 健二

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、夜間修士課程（企業家養成コース）の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】

実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に1時間40分（100分間）、あるいは、隔週土曜日に3時間20分（200分間）の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期は、修士論文の指導のウェートが高い。

なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	仮説の検討と調査計画の確定 (1)	修士論文の仮説を検討し、今後の調査計画についても検討を行う。
第2回	仮説の検討と調査計画の確定 (2)	教員の助言を受けて、仮説と調査計画を確定する。
第3回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (1)	調査の依頼状況を報告し、助言を受ける。
第4回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (2)	調査の依頼状況と、実施済みの調査の結果を報告し、助言を受ける。
第5回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (3)	調査結果を報告し、助言を受ける。
第6回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (4)	調査の依頼・実施状況を確認し、今後の方針を確定する。
第7回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (5)	調査結果および分析結果の報告・ディスカッションを行う。
第8回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (6)	調査結果および分析結果についてディスカッションを行い、修士論文のアウトラインを確定する。
第9回	修士論文執筆のチェックと助言 (1)	修士論文執筆状況のチェックと、内容に関するディスカッションを行う。
第10回	修士論文執筆のチェックと助言 (2)	修士論文執筆の進捗状況をチェックし、追加された内容に関するディスカッションを行う。
第11回	修士論文執筆のチェックと助言 (3)	修士論文執筆の進捗状況をチェックし、追加・修正された内容に関するディスカッションを行う。
第12回	修士論文執筆のチェックと助言 (4)	修士論文執筆の進捗状況をチェックし、追加・修正された内容に関する追加のディスカッションを行う。
第13回	修士論文執筆のチェックと助言 (5)	修士論文執筆が完一通り完了したことを確認し、修正された内容に関するディスカッションを行う。
第14回	修士論文の最終チェック	修士論文の内容に関して最終的なチェックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動等は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

『研究成果集』（毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集）。

【成績評価の方法と基準】

成績の評価基準は、授業への積極的な貢献度（出席等）が50%、発表・報告（修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む）が50%である。

発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】

本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】

無し。

【その他の重要事項】

無し。

【Outline and objectives】

This course is designed to guide second-year students in the entrepreneur-training course in writing their master's theses.

企業家養成演習

金 容 度

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、夜間修士課程（企業家養成コース）の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】

実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に1時間40分（100分間）、あるいは、隔週土曜日に3時間20分（200分間）の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、春学期は、基本文献の輪読の比重が高い。7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。

なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文執筆の年間計画の検討。
第2回	プロポーザルの作成指導 (1)	修士論文のテーマと執筆計画の概要を検討する。
第3回	プロポーザルの作成指導 (2)	修士論文のテーマと執筆計画の概要を確定する。
第4回	先行研究の調査、報告、議論 (1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第5回	先行研究の調査、報告、議論 (2)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第6回	先行研究の調査、報告、議論 (3)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第7回	先行研究の調査、報告、議論 (4)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第8回	先行研究の調査、報告、議論 (5)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第9回	先行研究の調査、報告、議論 (6)	先行研究の調査を踏まえて、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究の調査、報告、議論 (7)	前回の議論を、さらに深める。
第11回	中間発表会準備 (1)	企業家養成コースで行われる中間発表会の準備を行う。
第12回	中間発表会準備 (2)	教員の助言を受けて、中間発表会の準備をさらに進める。
第13回	中間発表会準備 (3)	教員の助言を受けて、中間発表会の準備を完成させる。
第14回	中間発表会の反省と改善案検討	中間発表会の時に受けたコメントを論文作成に反映するための案をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動等は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

『研究成果集』（毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集）。

【成績評価の方法と基準】

成績の評価基準は、授業への積極的な貢献度（出席等）が50%、発表・報告（修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む）が50%である。

発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】

本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】

無し。

【その他の重要事項】

無し。

【Outline and objectives】

The objectives of Seminar on Entrepreneur Training is to complete to write a dissertation for master's degree.

MAN600F1 - 0042

企業家養成演習

金 容 度

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、夜間修士課程（企業家養成コース）の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】

実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に1時間40分（100分間）、あるいは、隔週土曜日に3時間20分（200分間）の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期は、修士論文の指導のウェートが高い。

なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	仮説の検討と調査計画の確定 (1)	修士論文の仮説を検討し、今後の調査計画についても検討を行う。
第2回	仮説の検討と調査計画の確定 (2)	教員の助言を受けて、仮説と調査計画を確定する。
第3回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (1)	調査の依頼状況を報告し、助言を受ける。
第4回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (2)	調査の依頼状況と、実施済みの調査の結果を報告し、助言を受ける。
第5回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (3)	調査結果を報告し、助言を受ける。
第6回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (4)	調査の依頼・実施状況を確認し、今後の方針を確定する。
第7回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (5)	調査結果および分析結果の報告・ディスカッションを行う。
第8回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (6)	調査結果および分析結果についてディスカッションを行い、修士論文のアウトラインを確定する。
第9回	修士論文執筆のチェックと助言 (1)	修士論文執筆状況のチェックと、内容に関するディスカッションを行う。
第10回	修士論文執筆のチェックと助言 (2)	修士論文執筆の進捗状況をチェックし、追加された内容に関するディスカッションを行う。
第11回	修士論文執筆のチェックと助言 (3)	修士論文執筆の進捗状況をチェックし、追加・修正された内容に関するディスカッションを行う。
第12回	修士論文執筆のチェックと助言 (4)	修士論文執筆の進捗状況をチェックし、追加・修正された内容に関する追加のディスカッションを行う。
第13回	修士論文執筆のチェックと助言 (5)	修士論文執筆が完一通り完了したことを確認し、修正された内容に関するディスカッションを行う。
第14回	修士論文の最終チェック	修士論文の内容に関して最終的なチェックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動等は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

『研究成果集』（毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集）。

【成績評価の方法と基準】

成績の評価基準は、授業への積極的な貢献度（出席等）が50%、発表・報告（修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む）が50%である。

発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】

本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】

無し。

【その他の重要事項】

無し。

【Outline and objectives】

The objectives of Seminar on Entrepreneur Training is to complete to write a dissertation for master's degree.

企業家養成演習

近能 善範

【その他の重要事項】

無し。

【Outline and objectives】

This course is designed to guide second-year students in the entrepreneur-training course in writing their master's theses.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、夜間修士課程（企業家養成コース）の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】

実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に1時間40分（100分間）、あるいは、隔週土曜日に3時間20分（200分間）の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、春学期は、基本文献の輪読のウェートが高い。

毎年7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。

なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文執筆の年間計画の検討。
第2回	プロポーザルの作成指導 (1)	修士論文のテーマと執筆計画の概要を検討する。
第3回	プロポーザルの作成指導 (2)	修士論文のテーマと執筆計画の概要を確定する。
第4回	先行研究の調査、報告、議論 (1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第5回	先行研究の調査、報告、議論 (2)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第6回	先行研究の調査、報告、議論 (3)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第7回	先行研究の調査、報告、議論 (4)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第8回	先行研究の調査、報告、議論 (5)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第9回	先行研究の調査、報告、議論 (6)	先行研究の調査を踏まえて、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究の調査、報告、議論 (7)	前回の議論を、さらに深める。
第11回	中間発表会準備 (1)	企業家養成コースで行われる中間発表会の準備を行う。
第12回	中間発表会準備 (2)	教員の助言を受けて、中間発表会の準備をさらに進める。
第13回	中間発表会準備 (3)	教員の助言を受けて、中間発表会の準備を完成させる。
第14回	中間発表の反省と改善案検討	中間発表会の時に受けたコメントを論文作成に反映するための案をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動等は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

『研究成果集』（毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集）。

【成績評価の方法と基準】

成績の評価基準は、授業への積極的な貢献度（出席等）が50%、発表・報告（修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む）が50%である。

発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】

本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】

無し。

MAN600F1 - 0042

企業家養成演習**近能 善範****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本演習では、夜間修士課程（企業家養成コース）の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】

実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に1時間40分（100分間）、あるいは、隔週土曜日に3時間20分（200分間）の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期は、修士論文の指導のウェートが高い。

なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	仮説の検討と調査計画の確定 (1)	修士論文の仮説を検討し、今後の調査計画についても検討を行う。
第2回	仮説の検討と調査計画の確定 (2)	教員の助言を受けて、仮説と調査計画を確定する。
第3回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (1)	調査の依頼状況を報告し、助言を受ける。
第4回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (2)	調査の依頼状況と、実施済みの調査の結果を報告し、助言を受ける。
第5回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (3)	調査結果を報告し、助言を受ける。
第6回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (4)	調査の依頼・実施状況を確認し、今後の方針を確定する。
第7回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (5)	調査結果および分析結果の報告・ディスカッションを行う。
第8回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (6)	調査結果および分析結果についてディスカッションを行い、修士論文のアウトラインを確定する。
第9回	修士論文執筆のチェックと助言 (1)	修士論文執筆状況のチェックと、内容に関するディスカッションを行う。
第10回	修士論文執筆のチェックと助言 (2)	修士論文執筆の進捗状況をチェックし、追加された内容に関するディスカッションを行う。
第11回	修士論文執筆のチェックと助言 (3)	修士論文執筆の進捗状況をチェックし、追加・修正された内容に関するディスカッションを行う。
第12回	修士論文執筆のチェックと助言 (4)	修士論文執筆の進捗状況をチェックし、追加・修正された内容に関する追加のディスカッションを行う。
第13回	修士論文執筆のチェックと助言 (5)	修士論文執筆が完一通り完了したことを確認し、修正された内容に関するディスカッションを行う。
第14回	修士論文の最終チェック	修士論文の内容に関して最終的なチェックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動等は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

『研究成果集』（毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集）。

【成績評価の方法と基準】

成績の評価基準は、授業への積極的な貢献度（出席等）が50%、発表・報告（修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む）が50%である。

発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】

本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】

無し。

【その他の重要事項】

無し。

【Outline and objectives】

This course is designed to guide second-year students in the entrepreneur-training course in writing their master's theses.

企業家養成演習

福島 英史

【その他の重要事項】

無し。

【Outline and objectives】

Students in the 2nd year of MBA entrepreneur program make their master's thesis under supervisors.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、夜間修士課程（企業家養成コース）の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】

実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に1時間40分（100分間）、あるいは、隔週土曜日に3時間20分（200分間）の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、春学期は、基本文献の輪読のウェートが高い。

毎年7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。

なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文執筆の年間計画の検討。
第2回	プロポーザルの作成指導 (1)	修士論文のテーマと執筆計画の概要を検討する。
第3回	プロポーザルの作成指導 (2)	修士論文のテーマと執筆計画の概要を確定する。
第4回	先行研究の調査、報告、議論 (1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第5回	先行研究の調査、報告、議論 (2)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第6回	先行研究の調査、報告、議論 (3)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第7回	先行研究の調査、報告、議論 (4)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第8回	先行研究の調査、報告、議論 (5)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第9回	先行研究の調査、報告、議論 (6)	先行研究の調査を踏まえて、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究の調査、報告、議論 (7)	前回の議論を、さらに深める。
第11回	中間発表会準備 (1)	企業家養成コースで行われる中間発表会の準備を行う。
第12回	中間発表会準備 (2)	教員の助言を受けて、中間発表会の準備をさらに進める。
第13回	中間発表会準備 (3)	教員の助言を受けて、中間発表会の準備を完成させる。
第14回	中間発表の反省と改善案検討	中間発表会の時に受けたコメントを論文作成に反映するための案をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動等は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

『研究成果集』（毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集）。

【成績評価の方法と基準】

成績の評価基準は、授業への積極的な貢献度（出席等）が50%、発表・報告（修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む）が50%である。

発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】

本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】

無し。

MAN600F1 - 0042

企業家養成演習**福島 英史****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本演習では、夜間修士課程（企業家養成コース）の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】

実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に1時間40分（100分間）、あるいは、隔週土曜日に3時間20分（200分間）の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期は、修士論文の指導のウェートが高い。

なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	仮説の検討と調査計画の確定 (1)	修士論文の仮説を検討し、今後の調査計画についても検討を行う。
第2回	仮説の検討と調査計画の確定 (2)	教員の助言を受けて、仮説と調査計画を確定する。
第3回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (1)	調査の依頼状況を報告し、助言を受ける。
第4回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (2)	調査の依頼状況と、実施済みの調査の結果を報告し、助言を受ける。
第5回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (3)	調査結果を報告し、助言を受ける。
第6回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (4)	調査の依頼・実施状況を確認し、今後の方針を確定する。
第7回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (5)	調査結果および分析結果の報告・ディスカッションを行う。
第8回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (6)	調査結果および分析結果についてディスカッションを行い、修士論文のアウトラインを確定する。
第9回	修士論文執筆のチェックと助言 (1)	修士論文執筆状況のチェックと、内容に関するディスカッションを行う。
第10回	修士論文執筆のチェックと助言 (2)	修士論文執筆の進捗状況をチェックし、追加された内容に関するディスカッションを行う。
第11回	修士論文執筆のチェックと助言 (3)	修士論文執筆の進捗状況をチェックし、追加・修正された内容に関するディスカッションを行う。
第12回	修士論文執筆のチェックと助言 (4)	修士論文執筆の進捗状況をチェックし、追加・修正された内容に関する追加のディスカッションを行う。
第13回	修士論文執筆のチェックと助言 (5)	修士論文執筆が完一通り完了したことを確認し、修正された内容に関するディスカッションを行う。
第14回	修士論文の最終チェック	修士論文の内容に関して最終的なチェックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動等は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

『研究成果集』（毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集）。

【成績評価の方法と基準】

成績の評価基準は、授業への積極的な貢献度（出席等）が50%、発表・報告（修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む）が50%である。

発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】

本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】

無し。

【その他の重要事項】

無し。

【Outline and objectives】

Students in the 2nd year of MBA entrepreneur program make their master's thesis under supervisors.

企業家養成演習

二階堂 行宣

【その他の重要事項】

無し。

【Outline and objectives】

This course is designed to guide second-year students in the entrepreneur-training course in writing their master's theses.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、夜間修士課程（企業家養成コース）の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】

実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に1時間40分（100分間）、あるいは、隔週土曜日に3時間20分（200分間）の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、春学期は、基本文献の輪読のウェートが高い。

毎年7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。

なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文執筆の年間計画の検討。
第2回	プロポーザルの作成指導 (1)	修士論文のテーマと執筆計画の概要を検討する。
第3回	プロポーザルの作成指導 (2)	修士論文のテーマと執筆計画の概要を確定する。
第4回	先行研究の調査、報告、議論 (1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第5回	先行研究の調査、報告、議論 (2)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第6回	先行研究の調査、報告、議論 (3)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第7回	先行研究の調査、報告、議論 (4)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第8回	先行研究の調査、報告、議論 (5)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第9回	先行研究の調査、報告、議論 (6)	先行研究の調査を踏まえて、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究の調査、報告、議論 (7)	前回の議論を、さらに深める。
第11回	中間発表会準備 (1)	企業家養成コースで行われる中間発表会の準備を行う。
第12回	中間発表会準備 (2)	教員の助言を受けて、中間発表会の準備をさらに進める。
第13回	中間発表会準備 (3)	教員の助言を受けて、中間発表会の準備を完成させる。
第14回	中間発表の反省と改善案検討	中間発表会の時に受けたコメントを論文作成に反映するための案をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動等は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

『研究成果集』（毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集）。

【成績評価の方法と基準】

成績の評価基準は、授業への積極的な貢献度（出席等）が50%、発表・報告（修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む）が50%である。

発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】

本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】

無し。

MAN600F1 - 0042

企業家養成演習**二階堂 行宣****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本演習では、夜間修士課程（企業家養成コース）の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】

実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に1時間40分（100分間）、あるいは、隔週土曜日に3時間20分（200分間）の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期は、修士論文の指導のウェートが高い。

なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	仮説の検討と調査計画の確定 (1)	修士論文の仮説を検討し、今後の調査計画についても検討を行う。
第2回	仮説の検討と調査計画の確定 (2)	教員の助言を受けて、仮説と調査計画を確定する。
第3回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (1)	調査の依頼状況を報告し、助言を受ける。
第4回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (2)	調査の依頼状況と、実施済みの調査の結果を報告し、助言を受ける。
第5回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (3)	調査結果を報告し、助言を受ける。
第6回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (4)	調査の依頼・実施状況を確認し、今後の方針を確定する。
第7回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (5)	調査結果および分析結果の報告・ディスカッションを行う。
第8回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (6)	調査結果および分析結果についてディスカッションを行い、修士論文のアウトラインを確定する。
第9回	修士論文執筆のチェックと助言 (1)	修士論文執筆状況のチェックと、内容に関するディスカッションを行う。
第10回	修士論文執筆のチェックと助言 (2)	修士論文執筆の進捗状況をチェックし、追加された内容に関するディスカッションを行う。
第11回	修士論文執筆のチェックと助言 (3)	修士論文執筆の進捗状況をチェックし、追加・修正された内容に関するディスカッションを行う。
第12回	修士論文執筆のチェックと助言 (4)	修士論文執筆の進捗状況をチェックし、追加・修正された内容に関する追加のディスカッションを行う。
第13回	修士論文執筆のチェックと助言 (5)	修士論文執筆が完一通り完了したことを確認し、修正された内容に関するディスカッションを行う。
第14回	修士論文の最終チェック	修士論文の内容に関して最終的なチェックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動等は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

『研究成果集』（毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集）。

【成績評価の方法と基準】

成績の評価基準は、授業への積極的な貢献度（出席等）が50%、発表・報告（修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む）が50%である。

発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】

本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】

無し。

【その他の重要事項】

無し。

【Outline and objectives】

This course is designed to guide second-year students in the entrepreneur-training course in writing their master's theses.

MAN500F1 - 0043

ワークショップ（企業家養成）

金 容 度

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業家養成ワークショップは、第一線で活躍されている企業家をお招きして、設定したテーマに関する講演とその後の質疑応答やディスカッションを通じて、企業家活動についての理解を深めます。2019 年度のテーマは「企業家と企業成長のモデル」です。

【到達目標】

企業や事業を起こされた経緯や動機と、そのときの苦労や問題点、現在までに実際に直面した経営上の問題点や課題とその解決方法などについての企業家の講演と、その後の質疑応答やディスカッションを通じて、企業家と企業成長のモデルの関連性を説明できるようになることが本ワークショップ授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

今年度のワークショップは、新たな企業を立ち上げた経営者はもちろん、既存企業内で新規事業を立ち上げた方、スタートアップ企業の支援に携わる方など、多彩な「企業家」をゲスト・スピーカーとしてお招きしてお話をうかがい、その後に質疑応答やディスカッションを行うことによって、「企業家の構想」についての理解を深めます。

ワークショップでは、学生が積極的に質問して、ゲスト・スピーカーの生の声を聞き出すようにして下さい。

なお、ワークショップで学んだことをA 4 サイズで1 枚のレポートにまとめ、次の週までに提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション①	授業の概要と進め方等の説明
第 2 回	イントロダクション②	ゲスト・スピーカーの概要等についての説明
第 3 回	ゲスト・スピーカー①	「企業家の構想」に関するゲスト・スピーカー①の講演
第 4 回	ゲスト・スピーカー①	ゲスト・スピーカー①との質疑応答、ディスカッション
第 5 回	ゲスト・スピーカー②	「企業家の構想」に関するゲスト・スピーカー②の講演
第 6 回	ゲスト・スピーカー②	ゲスト・スピーカー②との質疑応答、ディスカッション
第 7 回	ゲスト・スピーカー③	「企業家の構想」に関するゲスト・スピーカー③の講演
第 8 回	ゲスト・スピーカー③	ゲスト・スピーカー③との質疑応答、ディスカッション
第 9 回	ゲスト・スピーカー④	「企業家の構想」に関するゲスト・スピーカー④の講演
第 10 回	ゲスト・スピーカー④	ゲスト・スピーカー④との質疑応答、ディスカッション
第 11 回	ゲスト・スピーカー⑤	「企業家の構想」に関するゲスト・スピーカー⑤の講演
第 12 回	ゲスト・スピーカー⑤	ゲスト・スピーカー⑤との質疑応答、ディスカッション
第 13 回	ゲスト・スピーカー⑥	「企業家の構想」に関するゲスト・スピーカー⑥の講演
第 14 回	ゲスト・スピーカー⑥	ゲスト・スピーカー⑥との質疑応答、ディスカッション
第 15 回	ゲスト・スピーカー⑦	「企業家の構想」に関するゲスト・スピーカー⑦の講演
第 16 回	ゲスト・スピーカー⑦	ゲスト・スピーカー⑦との質疑応答、ディスカッション
第 17 回	ゲスト・スピーカー⑧	「企業家の構想」に関するゲスト・スピーカー⑧の講演
第 18 回	ゲスト・スピーカー⑧	ゲスト・スピーカー⑧との質疑応答、ディスカッション
第 19 回	ゲスト・スピーカー⑨	「企業家の構想」に関するゲスト・スピーカー⑨の講演
第 20 回	ゲスト・スピーカー⑨	ゲスト・スピーカー⑨との質疑応答、ディスカッション
第 21 回	ゲスト・スピーカー⑩	「企業家の構想」に関するゲスト・スピーカー⑩の講演
第 22 回	ゲスト・スピーカー⑩	ゲスト・スピーカー⑩との質疑応答、ディスカッション

第 23 回	ディスカッション①	ゲスト・スピーカー①～⑤についての振り返りとディスカッション
第 24 回	ディスカッション②	ゲスト・スピーカー⑥～⑩についての振り返りとディスカッション
第 25 回	まとめ①	「企業家の構想」についてのまとめとディスカッション
第 26 回	まとめ②	授業のまとめ
第 27 回	修士論文の中間発表①	企業家養成コースの2 年生による修士論文のテーマや問題意識等の発表
第 28 回	修士論文の中間発表②	企業家養成コースの2 年生による修士論文のテーマや問題意識等の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネット等を使って、事前にゲスト・スピーカーやその企業について調べておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しません。

【参考書】

参考書は特に使用しませんが、ゲスト・スピーカーが執筆した著書等があれば、第 1 回目の授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

配分：レポート提出（50 %）、出席およびディスカッションへの貢献（50 %）

評価基準：単位取得のためには、7 回以上のレポート提出が求められます。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないので、特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

特に無し。

【その他の重要事項】

ゲスト・スピーカーや具体的な講義スケジュールは、第 1 回目の授業で説明します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>イノベーション・マネジメント、経営戦略論、企業間関係論

<研究テーマ>イノベーションと企業間関係

<主要業績>

- 1.『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』（高井文子との共著）、新世社、2010 年。
- 2.「顧客との取引関係とサプライヤーの成果：日本自動車部品産業の事例」、『一橋ビジネスレビュー』, 65 巻 1 号, 2017 年 6 月。
- 3.「日本自動車産業における関係の技能の高度化と先端技術開発の深化」、『一橋ビジネスレビュー』, 54 巻 4 号, 2007 年 3 月。
- 4.「自動車部品取引のネットワーク構造とサプライヤーのパフォーマンス」, 『組織科学』, Vol.35(3), pp. 83-100, 2002 年 3 月。

【Outline and objectives】

In Workshop in Entrepreneurship, ten entrepreneurs lecture on their experience and thinking as well as discuss specific topics on the lectures with participants of workshop. The objective of this workshop is to acquire the ability to see through the essence of entrepreneurship. The main topic of Workshop in Entrepreneurship in 2019 is the "Entrepreneurs and Models of Growth of Firms".

MAN500F1 - 0044

企業家活動

山本 聡

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近年の発展が著しい企業家/起業家研究（Entrepreneurship Research）の理論的枠組みを学びながら、企業家/起業家の行動や思考・意思決定のプロセスを分析できるようになることを目的とします。適宜、事例を踏まえながら企業家/起業家の活動の実態に関する理解を深めていきます。その延長線上として、日本の経営者、企業、産業における諸事象を観察し、理解する力を養います。その際、担当教員の専門分野である中小企業やベンチャー企業に焦点を当てていきます。また、教員のスケジュールと履修者の興味・関心を踏まえた上で、ゲストスピーカーの招聘や学外視察、他大学の学生とのディスカッションなどを取り入れていきます。

【到達目標】

授業の前半では教員による講義や課題の報告・議論を行います。その上で、企業家/起業家研究に関する基礎的な知識や理論を習得します。授業の後半では教員による事例紹介や受講者に課せられたケーススタディをもとにして、ディスカッションを行い、企業家の行動や思考・意思決定のプロセスを分析できるようになることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

毎回の授業では、企業家研究に関わる1～2のトピックを示し、その周辺分野を含めた講義をインタラクティブに行います。また、受講者による報告とディスカッションも行います。ただし、①講義、②受講者による報告、③事例と全員でのディスカッションの三つの時間的配分は受講者の人数やバックグラウンドを踏まえた上で決定します。受講者には文献を読んだ上でのレジュメ報告や事例紹介も課せられます。やる気のある受講者には英文の最先端の論文なども紹介するつもりです。

なお、履修者の人数や興味により、授業計画は適宜、変更します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	企業家/起業家研究の概要	ガイダンス、自己紹介、今後の授業の進め方など
第2回	日本における企業家/起業家研究の歴史と現状	日本における企業家/起業家研究の歴史と現状を説明します。日本の中小企業・ベンチャー企業の歴史の変遷なども説明します。
第3回	企業家/起業家研究の理論①	企業家志向性など
第4回	企業家/起業家研究の理論②	エフィカシー、セレンディビティなど
第5回	企業家/起業家研究の理論③	学習志向性、市場志向性など
第6回	企業家/起業家研究の理論④	正統性など
第7回	企業家/起業家研究の理論⑤	ネットワーク理論など
第8回	企業家/起業家研究の理論⑥	ソーシャルキャピタルなど
第9回	企業家/起業家研究の理論⑦	エフェクチュエーションの諸理論 基本
第10回	企業家/起業家研究の理論⑧	エフェクチュエーションの諸理論 応用
第11回	企業家/起業家研究の理論⑨	国際的アントレプレナーシップの諸理論
第12回	企業家と産業集積	産業集積における企業家活動
第13回	企業家と商業集積	商業集積における企業家活動
第14回	振り返りとまとめ	全体のまとめとディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個人あるいはグループごとに課題を提出し、報告してもらいます。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用する場合はガイダンス時にアナウンスします。

【参考書】

S. サラスバシー『エフェクチュエーション』中央経済社
江島由裕『創造的中小企業の存亡：生存要因の実証分析』白桃書房など

【成績評価の方法と基準】

テストを実施する場合としない場合で、以下の二パターンのいずれかになります。

① 平常点 40 % 課題点 60 %

② 平常点 30 % 課題点 35 % テスト 35 %

注1）平常点は授業内での姿勢やディスカッション、リアクション・ペーパーから総合的に評価します。出席するだけでは点数はつきません。

注2）受講者の人数の多寡から、配分を変更する可能性があります。その場合は、事前に連絡します。

【学生の意見等からの気づき】

履修者同士のディスカッションを促すことで、履修者の勤務経験を踏まえた理論の理解を目指します。また、教員のスケジュールと履修者の興味・関心を踏まえた上で、ゲストスピーカーの招聘や学外視察、他大学の学生とのディスカッションなどを取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムなどを利用します。利用する場合は事前にアナウンスをします。

【その他の重要事項】

授業の進行に関しては、履修者と相談の上で、適宜、調整をしていきます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 中小企業経営論

アントレプレナーシップ論

<研究テーマ>

中小企業の国際化

国際的アントレプレナーシップ研究

<主要研究業績>

山本聡他（2014）「中小製造業の国際化プロセスと国際的企業家志向性、輸出市場志向性、学習志向性：探索的検討と仮説提示」『ベンチャーレビュー』

山本聡（2017）「中小製造業におけるドイツ企業との強靱な取引関係の構築と顧客連結能力」『中小企業学会論集』

山本聡（2017）「牡蠣養殖業におけるスタートアップ企業の海外市場参入と文化的障壁の克服」『企業家研究』

MAN500F1 - 0045

企業家史

二階堂 行宣

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・この授業は、市場経済の均衡を破壊・創造する力を持つ「革新」の遂行者である企業家に注目することで、経済発展の長期的なダイナミズムを考察することを目的とする。

・J. シュンペーターは『経済発展の理論』（1912 年）において、企業家を「創造的破壊」による「新結合」の実現者と定義し、企業家の「革新」行動によって均衡状態が攪乱されることで経済発展のダイナミズムが生じるとした。さらに A. H. コールらは、企業家の非連続的・飛躍的側面だけでなく、連続的・漸進的な側面にも注目し、均衡から不均衡を創り出すこと（創造的破壊）だけでなく、不均衡から均衡に向かう過程（競争）によって経済発展が生み出されると論じた。

・こうした企業家をめぐる理論・仮説は、実際の歴史の中でどのように観察されるのだろうか。この授業では、企業家の革新行動とその定着過程としての企業発展を、具体的な事例に基づきながら、長期の歴史的な文脈の中で考えていきたい。

【到達目標】

・近現代日本の経済・経営発展の歴史について知識を習得し、企業家活動の前提となるそれぞれの時代の経済環境を、明確に把握する。

・その上で、企業家がある時代背景と外部環境の中で、どこにビジネス・チャンスを見出し、それをいかにして掴もうとしたのか、ケース・スタディを用いながら考える。

・以上を通して、長期的な視野にもとづく戦略的行動とは何かを学び、歴史的な思考様式を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

・授業と、それに基づくディスカッションを組み合わせる。参加者による調査やプレゼンテーションも、随時取り入れる。

・各時代ごとに「時代背景 → ビジネス・チャンスの出現 → 企業家活動 → 企業の発展」という一連の流れを捉える。

・自主研究の参考のため、研究動向の紹介と文献リストの提示も併せて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・企業家分析への歴史的視点
第 2 回	幕末維新期の経営	・概説：幕末維新期の日本経済
第 3 回	幕末維新期の経営	・新興商人の登場 ・遠隔地交易の活性化
第 4 回	明治前期の経営	・概説：明治前期の日本経済
第 5 回	明治前期の経営	・政商の登場 ・「大店」の明治維新 ・企業家活動の組織化
第 6 回	産業革命期の経営	・概説：日本の産業革命
第 7 回	産業革命期の経営	・専門経営者の台頭 ・地方からの産業革命
第 8 回	第一次世界大戦期の経営	・概説：第一次大戦ブーム
第 9 回	第一次世界大戦期の経営	・大戦ブームと商社 ・好況時のリスク管理
第 10 回	両大戦間期の経営	・概説：1920～30 年代の日本経済
第 11 回	両大戦間期の経営	・都市型産業の登場 ・新興コンツェルンの成長
第 12 回	戦後復興期～高度経済成長期の経営	・概説：戦時統制経済から戦後改革へ
第 13 回	戦後復興期～高度経済成長期の経営	・概説：高度経済成長と大衆消費社会 ・流通革命
第 14 回	授業内容の復習	・東海道新幹線 ・ケース・スタディをふまえ、近現代日本の企業家活動の特徴について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内容をふまえたディスカッションでは、積極的に発言することが求められる。

・ケース・スタディの学習においては、参加者による文献・資料調査やプレゼンテーションを実施する。

【テキスト（教科書）】

・使用しない。

【参考書】

①経営史学会編『日本経営史の基礎知識』（有斐閣、2004 年）。

②宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橘川武郎『日本経営史〔新版〕』（有斐閣、2007 年）。

③三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』（東京大学出版会、2010 年）。

④宇田川勝・生島淳編『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣、2011 年）。

⑤三和良一『概説日本経済史 近現代（第 3 版）』（東京大学出版会、2012 年）。

⑥粕谷誠『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会、2012 年）。

⑦宮本又郎『企業家たちの挑戦』（中央公論新社、2013 年）。

⑧沢井実・谷本雅之『日本経済史』（有斐閣、2016 年）。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 (50%) とレポート (50%) の併用。

・レポート課題は授業の最後に指示する。

・成績評価の際は、企業家に関する知識の習得よりも、企業家活動を長期的・俯瞰的視野から体系化し、歴史的に位置づける能力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

・単なる「企業家列伝」のような授業は行わないことを心がけたい。

・むしろ、近現代の政治史・経済史の流れをふまえ、各時代の企業家をその流れの中に位置づけることで、経済・経営発展のダイナミズムを理解することに重点を置く。

【学生が準備すべき機器他】

・なし

【その他の重要事項】

・なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

・日本経済史

・日本経営史

<研究テーマ>

・鉄道事業経営と運輸政策に関する歴史研究

・オーラル・ヒストリー

<主要研究業績>

・二階堂行宣（2017）「陸運業の展開」『日本経済の歴史 4（近代 2）』岩波書店、249-277 頁。

・二階堂行宣（2015）「戦間期鉄道貨物輸送システムの形成」『経営史学』49 巻 4 号、3-24 頁。

・二階堂行宣（2014）「鉄道貨物輸送における設備・営業業務の形成」『鉄道史学』32 号、17-30 頁。

【Outline and objectives】

・ The purpose of this course is to look at the long-term dynamism of economic development by paying attention to entrepreneurs who are the performers of "innovation" with the power to destroy and create the equilibrium of market economy.

・ In this lesson, I would like to consider the innovative behavior of entrepreneurs and the development of enterprises as a process of consolidation based on concrete examples in a long-term historical context.

MAN500F1 - 0046

経営戦略論

吉田 健二

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。

【到達目標】

経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業の前半では文献のレビューに努め、後半ではそれらが実際にどのように企業において応用されているのかを学生に発表してもらったり、ビデオを見たりします。その後、皆でディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	コースの説明	コースの概要と進め方等の説明
第2回	経営戦略の概念	経営戦略とは何か
第3回	経営戦略の策定プロセス	経営戦略の策定プロセス
第4回	経営理念と企業ドメイン	経営理念、企業ドメイン
第5回	外部環境分析（1）	顧客分析、競争業者分析
第6回	外部環境分析（2）	業界分析、マクロ環境分析
第7回	自社能力分析	自社能力分析
第8回	事業戦略（1）	3つの基本戦略
第9回	事業戦略（2）	競争地位別の戦略
第10回	事業戦略（3）	製品のライフサイクル
第11回	企業戦略（1）	製品・市場マトリックス
第12回	企業戦略（2）	多角化戦略
第13回	企業戦略（3）	PPM
第14回	経営戦略の実行	経営戦略の実行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定された部分を読んでくること。

発表者は、発表の準備を行うこと。

【テキスト（教科書）】

①デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済新報社、2002年。

②沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略〔新版〕』有斐閣、2008年。

より良いテキストが見つかった場合には、変更する可能性があります。

【参考書】

①網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年。

②清水勝彦『戦略の原点』日経BP社、2007年。

③三谷宏治『経営戦略全史』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2013年。

④M. E. ポーター『競争の戦略（新訂版）』ダイヤモンド社、1995年。

⑤M. E. ポーター『競争優位の戦略』ダイヤモンド社、1985年。

⑥ジェイ・バーニー『企業戦略論（上・中・下）』ダイヤモンド社、2003年。

①②⑥は経営戦略論のテキストで、③は100年の経営戦略論の流れを描いた本で、④⑤は経営戦略論の古典と言われる本です。

他は、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

配分：クラス参加（15%）、プレゼンテーション（25%）、レポート（60%）

評価基準：4回以上欠席した場合には、単位は与えられません。プレゼンテーションは、テキストの要約と自分の会社のケースを発表します。レポートは、自分の会社の経営戦略を分析します。詳細は、第1回目に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

経営戦略論の基礎を身につけるために、分かりやすい授業にするつもりです。また、学生の発表時間をコントロールすることなどによって、授業の時間管理に努めます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>経営戦略論

<研究テーマ>経営戦略の策定と実行

<主要研究業績>

① “Perceptions about Teamwork: An Empirical Comparison of Japanese, Mexican, and American Faculty,” Association on Employment Practices and Principles: Proceedings of the 2002 Annual International Conference, pp.14-19, 2002 (with coauthors).

② “Differences in Culture and Attitudes toward Teamwork: An Empirical Comparison of Perceptions among Chinese, Japanese, Mexican, and American Faculty,” American Society of Business and Behavioral Sciences: 2006 Proceedings, pp.136-142, 2006 (with coauthors).

③ “Work Performance and Group Harmony: An Empirical Comparison of Japanese and Other Cultural Attitudes toward Teamwork,” The 2007 International Conference in Management Sciences and Decision Making: Proceedings, pp.1-16, 2007 (with coauthors).

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to learn concepts and theories of strategic management and their applications in order to gain insight into the ways in which organizations develop and implement strategies.

イノベーション・マネジメント概論

近能 善範

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イノベーションとは、「顧客に価値をもたらすような、新しい製品やサービス、新しい生産手段、新しいビジネスの仕組みなど。及び、そうしたものを創出し、経済的利益を獲得していくプロセスのこと」を意味しています。もっと単純には、「顧客に新しい価値をもたらすようなモノやサービス、仕組みを実現し、新規需要を創出すること」と考えて差し支えありません。例えば、携帯電話やパソコン、インターネットや宅配サービスの登場などは、身近なイノベーションの事例です。イノベーションは、われわれの生活を一変するインパクトを有するばかりでなく、企業や経済が持続的に成長していくために必要不可欠な役割を果たします。

こうしたイノベーションを実現していく上では、一般に、研究・技術開発の成果を製品化し、市場に投入し、それが幅広い顧客に受け入れられるまで育て上げ、なおかつ、続々と参入してくる競合他社との激しい競争に勝ち残っていくためのマネジメントが必要不可欠となります。ここでは、単なる技術マネジメントを超えた、組織や戦略に対する深い理解と実践が問われることになります。

そこで本講義では、こうしたイノベーション・マネジメントを実践していく上で重要となる組織論・戦略論の考え方や概念などを、基礎から最新の理論まで含めて幅広く身につけて、実践できるようになっていただきたいと思います。

【到達目標】

イノベーション・マネジメントを実践していく上で重要となる考え方や概念などを身につけて、実践できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

毎回の授業では、前半に講義を行い、後半は受講生の発表と全員参加の議論を行う、という構成にする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イノベーション・マネジメントとは何か、なぜ重要なのかについて学ぶ
2	企業とは何か／組織とは何か、グループとチームのマネジメント	企業とは何か／組織とは何か、グループとチームのマネジメントについて学ぶ
3	モチベーションとインセンティブのマネジメント	モチベーションとインセンティブのマネジメントについて学ぶ
4	人的ネットワークのマネジメント	人的ネットワークのマネジメントについて学ぶ
5	リーダーシップ（ミドルクラス）のマネジメント	リーダーシップ（ミドルクラス）のマネジメントについて学ぶ
6	組織構造と組織デザイン	組織構造と組織デザインのマネジメントについて学ぶ
7	組織学習と知識創造のマネジメント	組織学習と知識創造のマネジメントについて学ぶ
8	組織文化と組織変革のマネジメント	組織文化と組織変革のマネジメントについて学ぶ
9	競争戦略のマネジメント	ポジショニング戦略と資源・能力ベースの戦略について学ぶ
10	新製品開発のマネジメント	新製品開発のマネジメントについて学ぶ
11	企業間関係のマネジメント	企業間関係のマネジメントについて学ぶ
12	イノベーションのプロセス／パターン	イノベーションが、どのようなプロセスを経て、どのようなパターンを描きながら発展していくのかを学ぶ
13	イノベーションと企業の競争力	さまざまなタイプのイノベーションと企業の競争力について学ぶ
14	ビジネスモデルのマネジメント	ビジネスモデルのイノベーションについて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込み、課題のレポートを作成しておくことが求められます。

【テキスト（教科書）】

・近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』, 新世社, 2010 年。

・その他に、パワーポイントのレジュメ（毎回）、補助テキスト（適宜）、ケース（適宜）を配布します。

【参考書】

参考書は特にありません。必要があれば、講義の中で適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

・下記の合計で、成績を評価する予定です。
 ー出席＋毎回のレポート提出（A4 で 1/2～1 枚程度の簡潔なもの）が 50 %
 ー授業内でのディスカッション参加（毎回）が 50 %
 ・3 分の 2 以上の出席を最低ラインとします。

【学生の意見等からの気づき】

タイムコントロールに注意します。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配付を、法政大学授業支援システムを通じて行う予定です。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】

上記「授業計画」に記載したスケジュールは 2010 年度のものであり、本年度は変更される場合があります。授業の詳細なシラバスは、第 1 回目の講義の際に配布します。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

イノベーション・マネジメント、経営戦略論、企業間関係論

＜研究テーマ＞

イノベーションと企業間関係

＜主要研究業績＞

- 1.『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』（高井文子との共著），新世社, 2010 年。
- 2.『日本自動車産業における関係の技能の高度化と先端技術開発の深化』,『一橋ビジネスレビュー』, 54 巻 4 号, 2007 年 3 月。
- 3.『自動車部品取引のネットワーク構造とサプライヤーのパフォーマンス』,『組織科学』, Vol.35(3), pp. 83-100, 2002 年 3 月。

MAN600F1 - 0052

国際経営演習

藤澤 利治

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会人夜間修士課程2年次生を対象に、国際ビジネスに関する修士論文作成を目指すための研究指導を行います。前年度末に行われる研究プロポーザルをもとにしてコース単位で担当の指導教員が決定されています。コースを単位として配属の決まった院生が履修する科目です。

【到達目標】

一年間の少人数制個別指導を通じて、学術的に見て価値の高い修士論文の完成を目指します。研究課題の発見能力、先行研究の理解力、英語・日本語文献の読解力、インタビュー調査での質問構成力、ノートテイキング、図表の作成能力、統計的分析力、日本語文章力、論理的思考能力など高度な思考能力を養い、修士論文に役立てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なりますが、履修生の論文作成進捗状況に応じて、土曜日を利用したゼミや平日の夜間を利用した個別指導が一般的となっています。なお、修士論文の執筆を予定している1年次生は、毎年1月に修士論文のテーマに関する報告を行うことが求められており、そこで指導教員が決まります。また、修士論文を作成する2年次生は、その作成過程でコースの院生全員が参加する修士論文の中間発表会で報告する義務を負うものとします。なお、本演習は、2単位科目ですが、修了のためには4単位が必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文執筆の年間計画を策定する。
第2回	プロポーザルの作成指導①	修士論文のテーマと執筆計画の概要に関して助言を行う。
第3回	プロポーザルの作成指導②	修士論文のテーマと執筆計画の概要に関して助言を行う。
第4回	先行研究の検討①	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第5回	先行研究の検討②	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第6回	先行研究の検討③	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第7回	先行研究の検討④	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第8回	先行研究の検討⑤	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第9回	調査方法の検討①	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について議論する。
第10回	調査方法の検討②	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について議論する。
第11回	調査方法の検討③	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について議論する。
第12回	調査方法の検討④	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について議論する。
第13回	調査方法の検討⑤	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について議論する。
第14回	中間報告の準備	所属コースで行われる中間報告会での報告の準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第1回 修士論文のテーマを構想する。
- 第2～3回 修士論文のテーマと執筆計画の概要を作成する。
- 第4～8回 テーマに関連した先行研究を収集し、報告レジュメを作成する。
- 第9～13回 具体的な調査方法を考案する。
- 第14回 中間報告のための資料を作成する。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しませんが、指導教授が発表した著作、論文を読破しておくことで、指導の具体的な内容が理解可能になります。

【参考書】

- ① 洞口治夫『MBAのナレッジ・マネジメントー集合知創造の現場としての社会人大学院ー』文眞堂、2018年。＜とくに第5章、第7章、第8章。＞
- ② 洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント』白桃書房、2008年。＜とくに第11章。＞
- ③ 小池和男・洞口治夫編『経営学のフィールド・リサーチャー「現場の達人」の実践的調査手法』日本経済新聞社、2006年。

④ 小池和男『聞きとりの作法』東洋経済新報社、2000年。

【成績評価の方法と基準】

配分: 出席 (50 %)、報告 (50 %)

評価基準: 評価の基準となるのは、出席と毎回の報告です。なお、修士論文の評価基準は理論的なフレームワークの確かさ、実証分析の手堅さ、論理的な首尾一貫性、テーマの斬新性、日本語文章力などです。

【学生の意見等からの気づき】

本科目は少人数制個別指導であるため授業改善アンケートを実施しています。ただし、日常の学生からの要望を聞きながら授業改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書は必須です。インターネット端末の利用も必要です。

【その他の重要事項】

本科目を履修する学生諸君には、国際経営論、ワークショップ（国際経営）を履修しておくことを強くお勧めします。

【Outline and objectives】

In this course, research guidance will be given for preparing master's thesis on international business. Based on research proposals at the end of the previous academic year, supervising advisers in charge were already decided in the international business course. Students who are enrolled in the second year of the master's course as part-time students with business involvement are eligible to attend.

国際経営演習

藤澤 利治

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会人夜間修士課程2年次生を対象に、国際ビジネスに関する修士論文作成を目指すための研究指導を行います。前年度末に行われた研究プロポーザルの発表会をもとにしてコース単位で担当の指導教員が決定されています。夜間修士課程のコースを単位として配属の決まった院生が履修する科目です。

【到達目標】

一年間の少人数制個別指導を通じて、学術的に見て価値の高い修士論文の完成を目指します。研究課題の発見能力、先行研究の理解力、英語・日本語文献の読解力、インタビュー調査での質問構成力、ノートテイキング、図表の作成能力、統計的分析力、日本語文章力、論理的思考能力など高度な思考能力を養い、修士論文に役立てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なりますが、履修生の論文作成進捗状況に応じて、土曜日を利用したゼミや平日の夜間を利用した個別指導が一般的となっています。なお、修士論文の執筆を予定している1年次生は、毎年1月に修士論文のテーマに関する報告を行うことが求められており、そこで指導教員が決まります。また、修士論文を作成する2年次生は、その作成過程でコースの院生全員が参加する修士論文の中間発表会で報告する義務を負うものとします。なお、本演習は、2単位科目ですが、修了のためには4単位が必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文執筆の年間計画を確認する。
第2回	調査計画の作成指導①	修士論文のテーマと執筆計画の概要に関して助言を行う。
第3回	調査計画の作成指導②	修士論文のテーマと執筆計画の概要に関して助言を行う。
第4回	先行研究の検討①	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第5回	先行研究の検討②	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第6回	調査計画の作成指導③	修士論文のテーマに関する調査計画を報告し、議論する。
第7回	先行研究の検討③	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第8回	先行研究の検討④	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第9回	調査方法の検討①	調査結果の有効性について議論する。
第10回	調査方法の検討②	修士論文で選んだ研究テーマに適合的な再調査の仕方について議論する。
第11回	調査方法の検討③	修士論文で選んだ研究テーマに適合的な再調査の仕方について議論する。
第12回	調査方法の検討④	修士論文で選んだ研究テーマに適合的な再調査の仕方について議論する。
第13回	執筆論文の修正	論文の論理構成と表現について検討する。
第14回	執筆論文の最終点検	論文提出に向けて最終的な点検を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第1回 修士論文の構想を再確認する。
- 第2～5回 具体的な調査を行う。
- 第6～9回 調査結果を分析し、場合によっては追加調査を行う。
- 第10～14回 修士論文を執筆し、指導教員の助言を反映させる。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しませんが、指導教授が発表した著作や論文を読破しておくことで、指導の具体的な内容が理解可能になります。

【参考書】

- ① 洞口治夫『MBAのナレッジ・マネジメントー集合知創造の現場としての社会人大学院ー』文真堂、2018年。＜とくに第5章、第7章、第8章。＞
- ② 洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント』白桃書房、2008年。＜とくに第11章。＞
- ③ 小池和男・洞口治夫編『経営学のフィールド・リサーチー「現場の達人」の実践的調査手法』日本経済新聞社、2006年。
- ④ 小池和男『聞きとりの作法』東洋経済新報社、2000年。

【成績評価の方法と基準】

配分: 出席 (50%)、報告 (50%)

評価基準：評価の基準となるのは、出席と毎回の報告です。なお、修士論文の評価基準は理論的なフレームワークの確かさ、実証分析の手堅さ、論理的な首尾一貫性、テーマの斬新性、日本語文章力などです。

【学生の意見等からの気づき】

本科目は少人数制個別指導であるため授業改善アンケートを実施していません。ただし、日常の学生からの要望を聞きながら授業改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書は必須です。インターネット端末の利用も必要です。

【その他の重要事項】

本科目を履修する学生諸君には、国際経営論、ワークショップ（国際経営）を履修しておくことを強くお勧めします。

【Outline and objectives】

In this course, research guidance will be given for preparing master's thesis on international business. Based on research proposals at the end of the previous academic year, supervising advisers in charge were already decided in the international business course. Students who are enrolled in the second year of the master's course as part-time students with business involvement are eligible to attend.

MAN600F1 - 0052

国際経営演習

洞口 治夫

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会人夜間修士課程2年次生を対象に、国際ビジネスに関する修士論文作成を目指すための研究指導を行います。前年度末に行われる研究プロポーザルをもとにしてコース単位で担当の指導教員が決定されています。コースを単位として配属の決まった院生が履修する科目です。

【到達目標】

一年間の少人数制個別指導を通じて、学術的に見て価値の高い修士論文の完成を目指します。研究課題の発見能力、先行研究の理解力、英語・日本語文献の読解力、インタビュー調査での質問構成力、ノートテイキング、図表の作成能力、統計的分析力、日本語文章力、論理的思考能力など高度な思考能力を養い、修士論文に役立てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なりますが、履修生の論文作成進捗状況に応じて、土曜日を利用したゼミや平日の夜間を利用した個別指導が一般的となっています。なお、修士論文の執筆を予定している1年次生は、毎年1月に修士論文のテーマに関する報告を行うことが求められており、そこで指導教員が決まります。また、修士論文を作成する2年次生は、その作成過程でコースの院生全員が参加する修士論文の中間発表会で報告する義務を負うものとします。なお、本演習は、2単位科目ですが、修了のためには4単位が必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文執筆の年間計画を策定する。
第2回	プロポーザルの作成指導①	修士論文のテーマと執筆計画の概要に関して助言を行う。
第3回	プロポーザルの作成指導②	修士論文のテーマと執筆計画の概要に関して助言を行う。
第4回	先行研究の検討①	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第5回	先行研究の検討②	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第6回	先行研究の検討③	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第7回	先行研究の検討④	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第8回	先行研究の検討⑤	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第9回	調査方法の検討①	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について議論する。
第10回	調査方法の検討②	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について議論する。
第11回	調査方法の検討③	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について議論する。
第12回	調査方法の検討④	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について議論する。
第13回	調査方法の検討⑤	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について議論する。
第14回	中間報告の準備	所属コースで行われる中間報告会での報告の準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第1回 修士論文のテーマを構想する。
- 第2～3回 修士論文のテーマと執筆計画の概要を作成する。
- 第4～8回 テーマに関連した先行研究を収集し、報告レジュメを作成する。
- 第9～13回 具体的な調査方法を考案する。
- 第14～15回 中間報告のための資料を作成する。
- 第16～20回 具体的な調査を行う。
- 第21～23回 調査結果を分析し、場合によっては追加調査を行う。
- 第24～28回 修士論文を執筆し、指導教員の助言を反映させる。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しませんが、指導教授が発表した著作、論文を読破しておくことで、指導の具体的な内容が理解可能になります。

【参考書】

①洞口治夫『MBAのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文真堂、2018年、<とくに第5章、第7章、第8章。>

②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント』白桃書房、2008年。<とくに第11章。>

③小池和男『聞きとりの作法』東洋経済新報社、2000年。

④小池和男・洞口治夫編『経営学のフィールド・リサーチ「現場の達人」の実践的調査手法』日本経済新聞社、2006年。

【成績評価の方法と基準】

配分: 出席 (50%)、報告 (50%)

評価基準: 評価の基準となるのは、出席と毎回の報告です。なお、修士論文の評価基準は理論的なフレームワークの確かさ、実証分析の手堅さ、論理的な首尾一貫性、テーマの斬新性、日本語文章力などです。

【学生の意見等からの気づき】

本科目は少人数制個別指導であるため授業改善アンケートを実施していません。ただし、日常の学生からの要望を聞きながら授業改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書は必須です。インターネット端末の利用も必要です。

【その他の重要事項】

本科目を履修する学生諸君には、国際経営論、ワークショップ（国際経営）を履修しておくことを強くお勧めします。

【Outline and objectives】

In this course, research guidance will be given for preparing master's thesis on international business. Based on research proposals at the end of the previous academic year, supervising advisers in charge were already decided in the international business course. Students who are enrolled in the second year of the master's course as part-time students with business involvement are eligible to attend.

国際経営演習

洞口 治夫

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会人夜間修士課程2年次生を対象に、国際ビジネスに関する修士論文作成を目指すための研究指導を行います。前年度末に行われた研究プロポーザルの発表会をもとにしてコース単位で担当の指導教員が決定されています。夜間修士課程のコースを単位として配属の決まった院生が履修する科目です。

【到達目標】

一年間の少人数制個別指導を通じて、学術的に見て価値の高い修士論文の完成を目指します。研究課題の発見能力、先行研究の理解力、英語・日本語文献の読解力、インタビュー調査での質問構成力、ノートテイキング、図表の作成能力、統計的分析力、日本語文章力、論理的思考能力など高度な思考能力を養い、修士論文に役立てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なりますが、履修生の論文作成進捗状況に応じて、土曜日を利用したゼミや平日の夜間を利用した個別指導が一般的となっています。なお、修士論文の執筆を予定している1年次生は、毎年1月に修士論文のテーマに関する報告を行うことが求められており、そこで指導教員が決まります。また、修士論文を作成する2年次生は、その作成過程でコースの院生全員が参加する修士論文の中間発表会で報告する義務を負うものとします。なお、本演習は、2単位科目ですが、修了のためには4単位が必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文執筆の年間計画を確認する。
第2回	調査計画の作成指導①	修士論文のテーマと執筆計画の概要に関して助言を行う。
第3回	調査計画の作成指導②	修士論文のテーマと執筆計画の概要に関して助言を行う。
第4回	先行研究の検討①	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第5回	先行研究の検討②	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第6回	調査計画の作成指導③	修士論文のテーマに関する調査計画を報告し、議論する。
第7回	先行研究の検討③	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第8回	先行研究の検討④	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第9回	調査方法の検討①	調査結果の有効性について議論する。
第10回	調査方法の検討②	修士論文で選んだ研究テーマに適合的な再調査の仕方について議論する。
第11回	調査方法の検討③	修士論文で選んだ研究テーマに適合的な再調査の仕方について議論する。
第12回	調査方法の検討④	修士論文で選んだ研究テーマに適合的な再調査の仕方について議論する。
第13回	執筆論文の修正	論文の論理構成と表現について検討する。
第14回	中間報告の準備①	所属コースで行われる中間報告会での報告の準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第1回 修士論文のテーマを構想する。
- 第2～3回 修士論文のテーマと執筆計画の概要を作成する。
- 第4～8回 テーマに関連した先行研究を収集し、報告レジュメを作成する。
- 第9～13回 具体的な調査方法を考案する。
- 第14～15回 中間報告のための資料を作成する。
- 第16～20回 具体的な調査を行う。
- 第21～23回 調査結果を分析し、場合によっては追加調査を行う。
- 第24～28回 修士論文を執筆し、指導教員の助言を反映させる。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しませんが、指導教授が発表した著作や論文を読破しておくことで、指導の具体的な内容が理解可能になります。

【参考書】

- ①洞口治夫『MBAのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文真堂、2018年。
- ②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント』白桃書房、2008年。

＜とくに第11章。＞

③小池和男『聞きとりの作法』東洋経済新報社、2000年。

④小池和男・洞口治夫編『経営学のフィールド・リサーチ－「現場の達人」の実践的調査手法』日本経済新聞社、2006年。

【成績評価の方法と基準】

配分: 出席 (50%)、報告 (50%)

評価基準：評価の基準となるのは、出席と毎回の報告です。なお、修士論文の評価基準は理論的なフレームワークの確かさ、実証分析の手堅さ、論理的な首尾一貫性、テーマの斬新性、日本語文章力などです。

【学生の意見等からの気づき】

本科目は少人数制個別指導であるため授業改善アンケートを実施していません。ただし、日常の学生からの要望を聞きながら授業改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書は必須です。インターネット端末の利用も必要です。

【その他の重要事項】

本科目を履修する学生諸君には、国際経営論、ワークショップ（国際経営）を履修しておくことを強くお勧めします。

【Outline and objectives】

In this course, research guidance will be given for preparing master's thesis on international business. Based on research proposals at the end of the previous academic year, supervising advisers in charge were already decided in the international business course. Students who are enrolled in the second year of the master's course as part-time students with business involvement are eligible to attend.

MAN600F1 - 0052

国際経営演習

高橋 理香

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会人夜間修士課程2年次生を対象に、国際ビジネスに関する修士論文作成を目指すための研究指導を行います。前年度末に行われる研究プロポーザルをもとにしてコース単位で担当の指導教員が決定されています。コースを単位として配属の決まった院生が履修する科目です。

【到達目標】

一年間の少人数制個別指導を通じて、学術的に見て価値の高い修士論文の完成を目指します。研究課題の発見能力、先行研究の理解力、英語・日本語文献の読解力、インタビュー調査での質問構成力、ノートテイキング、図表の作成能力、統計的分析力、日本語文章力、論理的思考能力など高度な思考能力を養い、修士論文に役立てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なりますが、履修生の論文作成進捗状況に応じて、土曜日を利用したゼミや平日の夜間を利用した個別指導が一般的となっています。なお、修士論文の執筆を予定している1年次生は、毎年1月に修士論文のテーマに関する報告を行うことが求められており、そこで指導教員が決まります。また、修士論文を作成する2年次生は、その作成過程でコースの院生全員が参加する修士論文の中間発表会で報告する義務を負うものとします。なお、本演習は、2単位科目ですが、修了のためには4単位が必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文執筆の年間計画を策定する。
第2回	プロポーザルの作成指導①	修士論文のテーマと執筆計画の概要に関して助言を行う。
第3回	プロポーザルの作成指導②	修士論文のテーマと執筆計画の概要に関して助言を行う。
第4回	先行研究の検討①	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第5回	先行研究の検討②	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第6回	先行研究の検討③	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第7回	先行研究の検討④	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第8回	先行研究の検討⑤	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第9回	調査方法の検討①	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について議論する。
第10回	調査方法の検討②	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について議論する。
第11回	調査方法の検討③	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について議論する。
第12回	調査方法の検討④	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について議論する。
第13回	調査方法の検討⑤	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について議論する。
第14回	中間報告の準備	所属コースで行われる中間報告会での報告の準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第1回 修士論文のテーマを構想する。
- 第2～3回 修士論文のテーマと執筆計画の概要を作成する。
- 第4～8回 テーマに関連した先行研究を収集し、報告レジュメを作成する。
- 第9～13回 具体的な調査方法を考案する。
- 第14回 中間報告のための資料を作成する。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しませんが、指導教授が発表した著作、論文を読破しておくことで、指導の具体的な内容が理解可能になります。

【参考書】

- ① 洞口治夫『MBAのナレッジ・マネジメントー集合知創造の現場としての社会人大学院ー』文眞堂、2018年。＜とくに第5章、第7章、第8章。＞
- ② 洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント』白桃書房、2008年。＜とくに第11章。＞
- ③ 小池和男・洞口治夫編『経営学のフィールド・リサーチー「現場の達人」の実践的調査手法』日本経済新聞社、2006年。

④ 小池和男『聞きとりの作法』東洋経済新報社、2000年。

【成績評価の方法と基準】

配分: 出席 (50 %)、報告 (50 %)

評価基準: 評価の基準となるのは、出席と毎回の報告です。なお、修士論文の評価基準は理論的なフレームワークの確かさ、実証分析の手堅さ、論理的な首尾一貫性、テーマの斬新性、日本語文章力などです。

【学生の意見等からの気づき】

本科目は少人数制個別指導であるため授業改善アンケートを実施しています。ただし、日常の学生からの要望を聞きながら授業改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書は必須です。インターネット端末の利用も必要です。

【その他の重要事項】

本科目を履修する学生諸君には、国際経営論、ワークショップ（国際経営）を履修しておくことを強くお勧めします。

【Outline and objectives】

In this course, research guidance will be given for preparing master's thesis on international business. Based on research proposals at the end of the previous academic year, supervising advisers in charge were already decided in the international business course. Students who are enrolled in the second year of the master's course as part-time students with business involvement are eligible to attend.

国際経営演習

高橋 理香

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会人夜間修士課程2年次生を対象に、国際ビジネスに関する修士論文作成を目指すための研究指導を行います。前年度末に行われた研究プロポーザルの発表会をもとにしてコース単位で担当の指導教員が決定されています。夜間修士課程のコースを単位として配属の決まった院生が履修する科目です。

【到達目標】

一年間の少人数制個別指導を通じて、学術的に見て価値の高い修士論文の完成を目指します。研究課題の発見能力、先行研究の理解力、英語・日本語文献の読解力、インタビュー調査での質問構成力、ノートテイキング、図表の作成能力、統計的分析力、日本語文章力、論理的思考能力など高度な思考能力を養い、修士論文に役立てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なりますが、履修生の論文作成進捗状況に応じて、土曜日を利用したゼミや平日の夜間を利用した個別指導が一般的となっています。なお、修士論文の執筆を予定している1年次生は、毎年1月に修士論文のテーマに関する報告を行うことが求められており、そこで指導教員が決まります。また、修士論文を作成する2年次生は、その作成過程でコースの院生全員が参加する修士論文の中間発表会で報告する義務を負うものとします。なお、本演習は、2単位科目ですが、修了のためには4単位が必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文執筆の年間計画を確認する。
第2回	調査計画の作成指導①	修士論文のテーマと執筆計画の概要に関して助言を行う。
第3回	調査計画の作成指導②	修士論文のテーマと執筆計画の概要に関して助言を行う。
第4回	先行研究の検討①	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第5回	先行研究の検討②	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第6回	調査計画の作成指導③	修士論文のテーマに関する調査計画を報告し、議論する。
第7回	先行研究の検討③	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第8回	先行研究の検討④	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第9回	調査方法の検討①	調査結果の有効性について議論する。
第10回	調査方法の検討②	修士論文で選んだ研究テーマに適合的な再調査の仕方について議論する。
第11回	調査方法の検討③	修士論文で選んだ研究テーマに適合的な再調査の仕方について議論する。
第12回	調査方法の検討④	修士論文で選んだ研究テーマに適合的な再調査の仕方について議論する。
第13回	執筆論文の修正	論文の論理構成と表現について検討する。
第14回	執筆論文の最終点検	論文提出に向けて最終的な点検を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第1回 修士論文の構想を再確認する。
- 第2～5回 具体的な調査を行う。
- 第6～9回 調査結果を分析し、場合によっては追加調査を行う。
- 第10～14回 修士論文を執筆し、指導教員の助言を反映させる。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しませんが、指導教授が発表した著作や論文を読破しておくことで、指導の具体的な内容が理解可能になります。

【参考書】

- ① 洞口治夫『MBAのナレッジ・マネジメントー集合知創造の現場としての社会人大学院ー』文真堂、2018年。＜とくに第5章、第7章、第8章。＞
- ② 洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント』白桃書房、2008年。＜とくに第11章。＞
- ③ 小池和男・洞口治夫編『経営学のフィールド・リサーチー「現場の達人」の実践的調査手法』日本経済新聞社、2006年。
- ④ 小池和男『聞きとりの作法』東洋経済新報社、2000年。

【成績評価の方法と基準】

配分: 出席 (50%)、報告 (50%)

評価基準：評価の基準となるのは、出席と毎回の報告です。なお、修士論文の評価基準は理論的なフレームワークの確かさ、実証分析の手堅さ、論理的な首尾一貫性、テーマの斬新性、日本語文章力などです。

【学生の意見等からの気づき】

本科目は少人数制個別指導であるため授業改善アンケートを実施していません。ただし、日常の学生からの要望を聞きながら授業改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書は必須です。インターネット端末の利用も必要です。

【その他の重要事項】

本科目を履修する学生諸君には、国際経営論、ワークショップ（国際経営）を履修しておくことを強くお勧めします。

【Outline and objectives】

In this course, research guidance will be given for preparing master's thesis on international business. Based on research proposals at the end of the previous academic year, supervising advisers in charge were already decided in the international business course. Students who are enrolled in the second year of the master's course as part-time students with business involvement are eligible to attend.

MAN600F1 - 0052

国際経営演習

李 瑞雪

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会人夜間修士課程2年次生を対象に、国際ビジネスに関する修士論文作成を目指すための研究指導を行います。前年度末に行われる研究プロポーザルをもとにしてコース単位で担当の指導教員が決定されています。コースを単位として配属の決まった院生が履修する科目です。

【到達目標】

一年間の少人数制個別指導を通じて、学術的に見て価値の高い修士論文の完成を目指します。研究課題の発見能力、先行研究の理解力、英語・日本語文献の読解力、インタビュー調査での質問構成力、ノートテイキング、図表の作成能力、統計的分析力、日本語文章力、論理的思考能力など高度な思考能力を養い、修士論文に役立てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なりますが、履修生の論文作成進捗状況に応じて、土曜日を利用したゼミや平日の夜間を利用した個別指導が一般的となっています。なお、修士論文の執筆を予定している1年次生は、毎年1月に修士論文のテーマに関する報告を行うことが求められており、そこで指導教員が決まります。また、修士論文を作成する2年次生は、その作成過程でコースの院生全員が参加する修士論文の中間発表会で報告する義務を負うものとします。なお、本演習は、2単位科目ですが、修了のためには4単位が必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文執筆の年間計画を策定する。
第2回	プロポーザルの作成指導①	修士論文のテーマと執筆計画の概要に関して助言を行う。
第3回	プロポーザルの作成指導②	修士論文のテーマと執筆計画の概要に関して助言を行う。
第4回	先行研究の検討①	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第5回	先行研究の検討②	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第6回	先行研究の検討③	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第7回	先行研究の検討④	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第8回	先行研究の検討⑤	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第9回	調査方法の検討①	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について議論する。
第10回	調査方法の検討②	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について議論する。
第11回	調査方法の検討③	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について議論する。
第12回	調査方法の検討④	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について議論する。
第13回	調査方法の検討⑤	修士論文で選んだ研究テーマに適切な調査の仕方について議論する。
第14回	中間報告の準備	所属コースで行われる中間報告会での報告の準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第1回 修士論文のテーマを構想する。
- 第2～3回 修士論文のテーマと執筆計画の概要を作成する。
- 第4～8回 テーマに関連した先行研究を収集し、報告レジュメを作成する。
- 第9～13回 具体的な調査方法を考案する。
- 第14回 中間報告のための資料を作成する。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しませんが、指導教授が発表した著作、論文を読破しておくことで、指導の具体的な内容が理解可能になります。

【参考書】

- ① 洞口治夫『MBAのナレッジ・マネジメントー集合知創造の現場としての社会人大学院ー』文眞堂、2018年。＜とくに第5章、第7章、第8章。＞
- ② 洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント』白桃書房、2008年。＜とくに第11章。＞
- ③ 小池和男・洞口治夫編『経営学のフィールド・リサーチャー「現場の達人」の実践的調査手法』日本経済新聞社、2006年。

④ 小池和男『聞きとりの作法』東洋経済新報社、2000年。

【成績評価の方法と基準】

配分: 出席 (50 %)、報告 (50 %)

評価基準: 評価の基準となるのは、出席と毎回の報告です。なお、修士論文の評価基準は理論的なフレームワークの確かさ、実証分析の手堅さ、論理的な首尾一貫性、テーマの斬新性、日本語文章力などです。

【学生の意見等からの気づき】

本科目は少人数制個別指導であるため授業改善アンケートを実施しています。ただし、日常の学生からの要望を聞きながら授業改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書は必須です。インターネット端末の利用も必要です。

【その他の重要事項】

本科目を履修する学生諸君には、国際経営論、ワークショップ（国際経営）を履修しておくことを強くお勧めします。

【Outline and objectives】

In this course, research guidance will be given for preparing master's thesis on international business. Based on research proposals at the end of the previous academic year, supervising advisers in charge were already decided in the international business course. Students who are enrolled in the second year of the master's course as part-time students with business involvement are eligible to attend.

国際経営演習

李 瑞雪

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会人夜間修士課程2年次生を対象に、国際ビジネスに関する修士論文作成を目指すための研究指導を行います。前年度末に行われた研究プロポーザルの発表会をもとにしてコース単位で担当の指導教員が決定されています。夜間修士課程のコースを単位として配属の決まった院生が履修する科目です。

【到達目標】

一年間の少人数制個別指導を通じて、学術的に見て価値の高い修士論文の完成を目指します。研究課題の発見能力、先行研究の理解力、英語・日本語文献の読解力、インタビュー調査での質問構成力、ノートテイキング、図表の作成能力、統計的分析力、日本語文章力、論理的思考能力など高度な思考能力を養い、修士論文に役立てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なりますが、履修生の論文作成進捗状況に応じて、土曜日を利用したゼミや平日の夜間を利用した個別指導が一般的となっています。なお、修士論文の執筆を予定している1年次生は、毎年1月に修士論文のテーマに関する報告を行うことが求められており、そこで指導教員が決まります。また、修士論文を作成する2年次生は、その作成過程でコースの院生全員が参加する修士論文の中間発表会で報告する義務を負うものとします。なお、本演習は、2単位科目ですが、修了のためには4単位が必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文執筆の年間計画を確認する。
第2回	調査計画の作成指導①	修士論文のテーマと執筆計画の概要に関して助言を行う。
第3回	調査計画の作成指導②	修士論文のテーマと執筆計画の概要に関して助言を行う。
第4回	先行研究の検討①	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第5回	先行研究の検討②	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第6回	調査計画の作成指導③	修士論文のテーマに関する調査計画を報告し、議論する。
第7回	先行研究の検討③	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第8回	先行研究の検討④	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第9回	調査方法の検討①	調査結果の有効性について議論する。
第10回	調査方法の検討②	修士論文で選んだ研究テーマに適合的な再調査の仕方について議論する。
第11回	調査方法の検討③	修士論文で選んだ研究テーマに適合的な再調査の仕方について議論する。
第12回	調査方法の検討④	修士論文で選んだ研究テーマに適合的な再調査の仕方について議論する。
第13回	執筆論文の修正	論文の論理構成と表現について検討する。
第14回	執筆論文の最終点検	論文提出に向けて最終的な点検を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第1回 修士論文の構想を再確認する。
- 第2～5回 具体的な調査を行う。
- 第6～9回 調査結果を分析し、場合によっては追加調査を行う。
- 第10～14回 修士論文を執筆し、指導教員の助言を反映させる。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しませんが、指導教授が発表した著作や論文を読破しておくことで、指導の具体的な内容が理解可能になります。

【参考書】

- ① 洞口治夫『MBAのナレッジ・マネジメントー集合知創造の現場としての社会人大学院ー』文真堂、2018年。＜とくに第5章、第7章、第8章。＞
- ② 洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント』白桃書房、2008年。＜とくに第11章。＞
- ③ 小池和男・洞口治夫編『経営学のフィールド・リサーチー「現場の達人」の実践的調査手法』日本経済新聞社、2006年。
- ④ 小池和男『聞きとりの作法』東洋経済新報社、2000年。

【成績評価の方法と基準】

配分: 出席 (50%)、報告 (50%)

評価基準：評価の基準となるのは、出席と毎回の報告です。なお、修士論文の評価基準は理論的なフレームワークの確かさ、実証分析の手堅さ、論理的な首尾一貫性、テーマの斬新性、日本語文章力などです。

【学生の意見等からの気づき】

本科目は少人数制個別指導であるため授業改善アンケートを実施していません。ただし、日常の学生からの要望を聞きながら授業改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書は必須です。インターネット端末の利用も必要です。

【その他の重要事項】

本科目を履修する学生諸君には、国際経営論、ワークショップ（国際経営）を履修しておくことを強くお勧めします。

【Outline and objectives】

In this course, research guidance will be given for preparing master's thesis on international business. Based on research proposals at the end of the previous academic year, supervising advisers in charge were already decided in the international business course. Students who are enrolled in the second year of the master's course as part-time students with business involvement are eligible to attend.

MAN500F1 - 0053

ワークショップ（国際経営）

李 瑞雪

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営コースの 2019 年度ワークショップは、「一帯一路構想と国際ビジネスの新展開」というテーマを設定します。このテーマに関連する実務家や、本学 MBA を修了して国際ビジネスで活躍する OB などを招いてレクチャーを行ってもらい、質疑応答や議論を通じてテーマに関する理解を深めます。グローバル企業の事例を中心として、企業戦略、国際ビジネス、グローバルサプライチェーン、国際物流、地域統合などのテーマについて議論します。

【到達目標】

ゲスト・スピーカーの講義と、質疑応答、ディスカッションを通して、実務に関する理解を深めるとともに、理論を実務で裏付けて理解し、かつ実務プロセスの必要性を理論で裏付けて理解できるようになることを目標とします。講義の内容についてノートを取り、レポートにまとめる、という作業を通じて、取材内容を文章にまとめる、という社会科学的調査の基礎を学習します。また、様々なゲスト講師によるプレゼンテーションを学びながら、参加学生によるプレゼンテーション技法の学習に役立てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業は、実務家を中心としたゲスト・スピーカーによる講演と、担当教員による講義、履修生によるプレゼンテーションから構成されます。ゲスト・スピーカーの講演内容を素材にして、国際経営の最前線で何が生じており、それら事象を経営学の理論からどうとらえるかについて検討します。国際ビジネスにおいて豊富な経験をもつ大手物流企業、製造企業の経営者や実務担当者を招へいする予定です。ゲスト講師の講演のほかには、担当教員（李）は国際経営論、経営戦略論、国際物流論に関する概論的紹介をも適宜行う予定です。また、履修生には国際経営の実態分析を中心にショート・プレゼンテーションを行う時間を設けて、ディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義概要とオリエンテーション、担当教員の研究領域紹介。
2	ゲスト・スピーカーの講演	グローバル企業の実務家をゲスト講師として招き、講義をしてもらいます。毎回の講演後に、質疑応答とディスカッションを行い、翌週に小レポートを提出します。
3	ゲスト・スピーカーの講演	グローバル企業の実務家をゲスト講師として招き、講義をしてもらいます。毎回の講演後に、質疑応答とディスカッションを行い、翌週に小レポートを提出します。
4	ゲスト・スピーカーの講演	グローバル企業の実務家をゲスト講師として招き、講義をしてもらいます。毎回の講演後に、質疑応答とディスカッションを行い、翌週に小レポートを提出します。
5	ゲスト・スピーカーの講演	グローバル企業の実務家をゲスト講師として招き、講義をしてもらいます。毎回の講演後に、質疑応答とディスカッションを行い、翌週に小レポートを提出します。
6	ゲスト・スピーカーの講演	グローバル企業の実務家をゲスト講師として招き、講義をしてもらいます。毎回の講演後に、質疑応答とディスカッションを行い、翌週に小レポートを提出します。
7	前半のまとめ。国際経営の基礎理論の紹介。	5 人のゲスト講師の講演内容について総括ディスカッションを行います。担当教員により国際経営に関する基礎理論の紹介をします。
8	ゲスト・スピーカーの講演	グローバル企業の実務家をゲスト講師として招き、講義をしてもらいます。毎回の講演後に、質疑応答とディスカッションを行い、翌週に小レポートを提出します。

9	ゲスト・スピーカーの講演	グローバル企業の実務家をゲスト講師として招き、講義をしてもらいます。毎回の講演後に、質疑応答とディスカッションを行い、翌週に小レポートを提出します。
10	ゲスト・スピーカーの講演	グローバル企業の実務家をゲスト講師として招き、講義をしてもらいます。毎回の講演後に、質疑応答とディスカッションを行い、翌週に小レポートを提出します。
11	ゲスト・スピーカーの講演	グローバル企業の実務家をゲスト講師として招き、講義をしてもらいます。毎回の講演後に、質疑応答とディスカッションを行い、翌週に小レポートを提出します。
12	履修生によるプレゼンテーション	関心のある企業の国際経営の取り組みについて、その実態分析を含めてプレゼンします。
13	履修生によるプレゼンテーション	関心のある企業の国際経営の取り組みについて、その実態分析を含めてプレゼンします。
14	履修生によるプレゼンテーション	関心のある企業の国際経営の取り組みについて、その実態分析を含めてプレゼンします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 第 1 回の授業で紹介するゲスト講師の所属企業の概要を、インターネットサイトを通じて事前に調べておきましょう。
2. 履修生自身の関心のある企業 2 社の国際化への取り組みについて情報収集し、プレゼンに備えて下さい。

【テキスト（教科書）】

テキストはとくに指定しません。

【参考書】

講義中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

配分：グループあるいは個人での報告（30%）、ディスカッションへの貢献（40%）、レポート（30 %）
評価基準：毎回の質疑応答での発言や議論、グループあるいは個人での報告、レポートの内容から成績評価を行います。レポートについては講義の中で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の関心に合わせたゲスト・スピーカの招聘をするように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

用語確認のための電子辞書およびインターネット利用可能な端末（スマホ、パソコンなど）。

【その他の重要事項】

90 分 × 2 時限の連続授業です。

【担当教員の専門分野等】

李瑞雪

<専門領域>

ロジスティクスマネジメント論、経営戦略論

<研究テーマ>

新興国市場におけるロジスティクス戦略。中国物流産業の高度化。

<主要研究業績>

- ①『中国物流産業論—高度化の軌跡とメカニズム—』白桃書房、2014 年。
- ②『日本企業物流与供应链管理案例精選』中国財富出版社、2013 年。
- ③「ロジスティクス戦略論の再検討：新興国市場におけるロジスティクス戦略の理論枠組みに関する予備的考察」『経営志林』(ISSN 0287-0975) 第 49 巻 第 4 号、pp.29-47。
- ④『変わる中国変わらない中国』全日出版、2003 年。

【Outline and objectives】

The 2019 workshop of the International Business Course sets the theme of "Belt and Route Initiative and New Development of International Business". We will invite professionals related to this theme and OBs who are active in international business after they graduated from the MBA Course of Hosei University as guest speakers. Lectures given by the guest speakers and Q&A with the speakers will help understand key theories related to strategic management, international business, global supply chain, international logistics, and regional economy integration.

国際経営論

洞口 治夫

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営論とは、企業経営の国際化に伴う諸問題を解決するための学問的アプローチの総称です。企業の海外進出は、大企業のみならず中小企業にとっても採用される経営戦略になっています。しかし、本国での戦略やプラクティスを海外で追求しようとしても、本国と外国との様々な相違のために競争優位を得られない場合も多いでしょう。MBA学生諸君が国際経営論を学ぶことによって、企業経営の国際化に伴うどのような課題があるのかを理解することができます。

【到達目標】

国際経営の理論に基づいて企業経営の実態を理解することで、海外における事業活動を分析する能力を身につけます。多国籍企業の理論を学習し、国際経営における諸問題の理解に役立てます。MBAの共通言語としての経営戦略論・経営組織論・経営管理論の基礎を学習するとともに、英文でのケースを読み、理解し、議論できる能力を身につけます。『国際ビジネス研究』、『アジア経済』、Journal of International Business Studies、Strategic Management Journal、Research Policy など、国際経営理論を用いて書かれた学術論文を読むスキルを身につけ、さらに高度な研究能力の育成を目指す学生諸君への指針とします。修士論文作成のための研究手法を紹介し、具体的な例とともに研究の手順を理解していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義、ケースの読解、論文の読解、学生相互の議論、学術的な研究方法の紹介、ビデオ教材の理解といった内容から構成されています。国際経営を理解するために必要な理論を講義した後、ケースや論文の内容を確認し、意思決定課題を学生相互で議論します。講義の中盤では、学生が課題についてプレゼンテーションを行い、それについて議論していきます。参加学生の英語力に応じて、それを高める形式での会話やリスニングも随時行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要と国際経営論のオリエンテーション
2	国際経営の研究手法	質的調査方法と量的調査方法
3	国際経営を研究するための経営理論 (1)	取引コスト理論、限定された合理性、エージェンシー理論、モラルハザード、機会主義。教科書第 3 章。
4	国際経営を研究するための経営理論 (2)	リソース・ベースド・ビュー、経営資源、制度理論。教科書第 3 章。
5	企業の国際化理論	内部化理論、OLI パラダイム、PLC 理論。教科書第 3 章。
6	エントリー戦略としての輸出・輸入	インボイス、輸出信用状の意義、ロジスティクス産業の役割。教科書第 2 章。
7	直接投資	エントリー・モードの類型、グリーンフィールド、M&A、エントリー・タイミング。教科書第 2 章。
8	ライセンスと OEM	特許、フランチャイズ、ブランド・マネジメント、コンテンツビジネス。教科書第 2 章。
9	プラント輸出	エンジニアリング産業、貸借対照表と損益計算書。教科書第 2 章。
10	ジョイント・ベンチャー	出資比率の意味、商社の役割、現地企業の配当政策。教科書第 2 章。
11	国際提携戦略	グローバル戦略的提携のマネジメント、アライアンス、ネットワーク構築。教科書第 2 章。
12	フィージビリティ・スタディ	経済環境、収益性評価、NPV、IRR
13	国際 M&A	国際 M&A の動機、デューデリジェンス、Post Merger Integration、参入と退出。教科書第 8 章。
14	資産評価と収益性評価	有形資産、無形資産、NPV と不確実性、ROE、ROA。教科書第 8 章。
15	前半の復習と中間試験	基礎概念の復習と学習成果の確認。
16	グローバル・ビジネス環境	企業が海外で直面する外部環境、Liabilities of foreignness、文化的距離。教科書第 9 章。

17	外国為替レートの基礎理論	購買力平価、金利平価、オーバーシュート、ニュースの役割、ランダムウォーク。教科書第 13 章。
18	国際組織の類型	エスノセントリック、ポリセントリック、リージョセントリック、ジオセントリック。教科書第 9 章。
19	国際企業戦略の類型	グローバル戦略、マルチ・ドメスティック戦略、インターナショナル戦略。教科書第 9 章。
20	外国為替レートの変動要因	直物、先物、オプション、利子率。教科書第 13 章。
21	確率の変動の理解	二項分布、正規分布、指数関数、ランダムウォークへのドリフト。教科書第 13 章。
22	オプションとリアルオプション	延期の意味、先物への保険、オーバーシュート、ニュースの構造。教科書第 13 章。
23	イノベーション・マネジメント	生産管理論の進化、要素技術開発と製品開発。教科書第 6 章。
24	知識管理の理論	暗黙知、形式知、集合知。教科書第 6 章。
25	国際マーケティング戦略 (1)	事例研究。HBS の英文ケース：Levendary Café
26	国際マーケティング戦略 (2)	現地適応とグローバル統合。HBS の英文ケース：Levendary Café
27	海外子会社の人的資源管理	海外子会社の人材戦略、海外派遣ローテーションとモチベーション。教科書第 14 章。
28	講義全体の理解確認	筆記試験ないしレポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①教科書の購入と構成の理解、②国際経営戦略の研究に活用される理論に関する文献の講読、③配布文献の講読、④グローバル戦略的提携に関する事前調査、⑤統計学の復習
⑥配布ケースの講読、⑦全講義の復習

【テキスト（教科書）】

(1) 原田順子・洞口治夫編著 (2019)『改訂新版 国際経営』放送大学教育振興会。

<まったく同じタイトルで同じ著者による、原田順子・洞口治夫編著 (2013)『新訂 国際経営』放送大学教育振興会、があるが内容が異なるので間違えないように。>

(2) ハーバード・ビジネススクールの英文ケース：Levendary Café: The China Challenge. 著者 Christopher A. Bartrett and Arar Han. 製品番号 4357. このケースを購入するためには、<http://hbr.org/store> のサイトから case を選択し、タイトルを記入して検索します。7 ドル前後で PDF を購入できます。購入にはクレジットカードが必要です。登録ユーザーとなるには <http://ch.hbsp.harvard.edu/cb/register> のサイトから Higher Education Individual に必要事項を記入して register をします。その後、上記のタイトルを入力し、show detail から PDF を購入します。著作権が保護されているのでコピーは避けて下さい。また、そのほかのケースを利用する場合には授業内で指示します。

【参考書】

- (1) 洞口治夫『日本企業の海外直接投資』東京大学出版会、1992 年。
- (2) 洞口治夫『グローバリズムと日本企業』東京大学出版会、2002 年。
- (3) 洞口治夫 (2009)『集合知の経営－日本企業の知識管理戦略－』文真堂。
- (4) フィリップ・コトラー他著『ASEAN マーケティング－成功企業の地域戦略とグローバル価値創造－』洞口治夫監訳、マクグロウヒル・エデュケーション、2007 年。
- (5) John Daniels, Lee Radebaugh, Daniel Sullivan, International Business: Environments and Operations, 2011, Pearson Education; Global ed of 14th revised ed 版, 2012.
- (6) A. C. チャン、K. ウェインライト『現代経済学の数学基礎 (上)』シーエービー出版。
- (7) 東北大学統計グループ『これだけは知っておこう！統計学』有斐閣、2002 年。
- (8) 岩田暁一『経済分析のための統計的方法』東洋経済新報社、1983 年。
- (9) P.G. ホーエル『初等統計学』培風館、1981 年。
- (10) 星野匡郎・田中久松『R による実証分析－回帰分析から因果分析へ－』オーム社、2016 年。
- (11) 山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

授業参加（出席と議論への参加）：28 %
宿題およびプレゼンテーションなどクラスへの貢献：12 %
中間試験：20 %
期末試験：40 %

中間試験および期末試験は、筆記試験ないしターム・ペーパー（レポート）によって行います。その評価にはペーパー自体とペーパーに関するプレゼンテーションの評価を含む場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートからの示唆を要約すると、より高度な理論をよりわかりやすく講義し、学生相互のディスカッションの時間をとることによって記憶に定着させることが要望されているようです。英語での講義、輪読やディスカッションを望む声と、それを難しいと感じる声が目立っています。英語については基礎的な学力を錬成して応用に結びつけていくことを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

インターネット、授業支援システム、パワーポイントなど。

【その他の重要事項】

この授業を履修する学生諸君には経営学基礎、統計データ解析、経営戦略論、経営組織論の授業を履修することをお薦めします。英語については高校生修了レベルの文法知識と大学生修了レベルの語彙（ボキャブラリー）能力を前提としています。語彙については辞書で補うことが可能でしょう。また、本授業を通じて英語のリスニング、スピーキングの能力養成を試みていきます。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞国際経営論

＜研究テーマ＞海外直接投資論、多国籍企業のイノベーション戦略

＜主要研究業績＞

①＜単著＞ Collective Knowledge Management: Foundations of International Business in the Age of Intellectual Capitalism, Edward Elgar Publishing, 2014.

②＜共編著＞ Japanese Foreign Direct Investment and the East Asian Industrial System: Case Studies from the Automobile and Electronics Industries, 2002 年版ペーパーバック, Springer, 2014.

③＜論文＞"Hardy-Weinberg equilibrium and mixed strategy equilibrium in game theory," Theoretical Economics Letters, vol.3, no.2, pp.85-89, 2013.

【Outline and objectives】

International management theory is a general term for academic approaches to solve various problems associated with internationalization of corporate management. The overseas expansion of companies is a management strategy that is adopted not only for large companies but also for small and medium enterprises. However, even if you try to pursue strategies and practices in your country overseas, there are many cases where competitive advantage can not be obtained due to various differences between home country and foreign country. As MBA students learn about international management theory, you can understand what challenges are associated with internationalization of corporate management.

ECNc500F1 - 0055

地域経済研究（アメリカ）

河村 哲二

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バックス・アメリカナの世界政治経済体制の中心を占めてきたアメリカ経済の現状とその問題点およびそのグローバルな影響を、資本主義経済の発展の歴史と現状の位相の解明の理論的方法と合わせて学び、アメリカ経済の変貌とその世界的な意義を理解することを目指す。

【到達目標】

バックス・アメリカナの盛衰という長期・歴史的視点にたつて、アメリカ経済の現状とその問題点、およびそのグローバルなインパクトを理解することを目指す。とくに、1980年代以降の企業・金融・情報グローバル化と政府機能の新自由主義的転換や、著しい「ファイナンスリゼーション」（金融化）・金融市場の「カジノ化」を伴うアメリカ経済のグローバル化のプロセスについて理解し、「グローバル・シティ」と「新帝国循環」が複合したアメリカ経済のグローバルな規模での新たな発展構造である「グローバル成長連関」と、2000年代末のアメリカを震源として発生したグローバル金融危機・経済危機のもつ意味と影響をグローバル経済の変貌とともに明らかにすることを通じ、バックス・アメリカナの転換についての展望を得ることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

テキストと講義スライドを用いたレクチャー、および受講生の質疑を通じた議論を組み合わせて進める。受講生は、授業支援システムにアップロードされる講義資料と、適宜指示されるテキストの当該箇所を予習・講義中・復習に用いて理解を深める。随時、講義内容について、小レポートを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	序論 バックス・ブリタニカとバックス・アメリカナ：資本主義の発展段階とアメリカ (1) 資本主義の歴史的展開の概要と中間理論・歴史理論	序論その1：資本主義の歴史的展開の概要と純粋理論の限界／資本主義の現状と発展の歴史過程をとらえる方法。
第2回	(2) 原理論と段階論—宇野理論の段階論とその問題点	序論その2：宇野弘蔵「三段階論」における純粋理論と歴史理論の方法。
第3回	(3) 段階論の方法と制度形成の理論	序論その3：「資本のロジック」と制度形成の理論：ハイブリダイゼーション・ダイナミズム。
第4回	第I部 第1章 バックス・ブリタニカ段階 (1) 資本主義経済の生成	第1章その1：近代資本主義の生成（世界市場の発展・重商主義・原始的蓄積・市民革命・産業革命）。
第5回	(2) バックス・ブリタニカ・システムの確立	第1章その2：イギリスを中心とする資本主義世界編成の確立とその特徴・周期的恐慌
第6回	(3) バックス・ブリタニカ・システムの変容	第1章その3：資本主義経済の変質（後発資本主義の台頭、株式会社の発展と金融資本、帝国主義政策と第一次大戦、限界革命）・金融資本論。
第7回	第2章 バックス・アメリカナ段階への移行 (1) 第一次大戦と戦間期資本主義	第2章その1：第一次大戦と資本主義世界編成の変質。
第8回	(2) 世界大恐慌とその意義	第2章その2：世界大恐慌のインパクトと資本主義世界編成の解体、「ケインズ革命」と経済理論の革新。
第9回	第3章 戦後バックス・アメリカナの形成と確立 (1) 第二次大戦の戦時経済の意義	第3章その1：第2次大戦戦時経済の意義と戦後バックス・アメリカナ・システムの形成。
第10回	(2) 戦後バックス・アメリカナ・システムの確立とその特徴	第3章その2：戦後バックス・アメリカナの資本蓄積構造とメカニズムと新古典派理論。
第11回	(3) 戦後バックス・アメリカナ・システムの変質と転換	第3章その3：戦後バックス・アメリカナの資本蓄積構造とメカニズムの衰退とグローバル資本主義化。

発行日：2019/5/1

第12回	第4章 グローバル資本主義の展開とその危機 (1)戦後パックス・アメリカナへの衰退とグローバル資本主義	第4章その1：グローバル資本主義化の進展と経済理論の転換。
第13回	(2)「グローバル成長連関」の登場とその危機	第4章その2：「グローバル成長連関」とグローバル金融危機。
第14回	(3)グローバル資本主義の現状の諸相	第4章その3：「グローバル成長連関」の危機と現状の概要。
第15回	第I部 小括	第I部まとめ：資本主義の発展段階と現状の歴史的位相の解明の理論的方法。
第16回	第II部 序論－1 アメリカ経済の現状とグローバル金融危機・経済危機をとらえる視点	2000年代末のアメリカ発のグローバル金融危機・経済危機の意義を解明する基本視点とは何か？
第17回	II序論－2 アメリカ経済のグローバル化の意義	戦後パックス・アメリカナへの衰退とアメリカ経済のグローバル化の意義。
第18回	1.「グローバル成長連関」の出現 (1)企業・金融・情報のグローバル化と新自由主義	「グローバル成長連関」の出現1：アメリカ経済のグローバル化の主な側面。
第19回	(2)グローバル・シティと「新帝国循環」	「グローバル成長連関」の出現2：グローバル・シティの発展とアメリカを焦点とする国際的資金循環構造の出現。
第20回	(3)「グローバル成長連関」とアメリカ経済	「グローバル成長連関」の出現3：アメリカ経済の新たな成長構造の出現と特徴。
第21回	2. 1990年代のアメリカの長期好況 (1)「ニューエコノミー」とITブーム	グローバル資本主義化とアメリカ経済1：1990年代の長期好況の特徴と問題点。
第22回	(2)1990年代長期好況の限界と「住宅ブーム」	グローバル資本主義化とアメリカ経済2：1990年代長期好況の終焉と2000年代「住宅ブーム」の発展。
第23回	(3)「シャドウ・バンキング・システム」の発展	グローバル資本主義化とアメリカ経済3：「シャドウ・バンキング・システム」の発展とサブプライム問題。
第24回	3. アメリカ発のグローバル金融危機とその影響 (1)「サブプライム危機」の進行	アメリカ発のグローバル金融危機・経済危機の原因とプロセス1：「サブプライム危機」の展開と金融危機の拡大。
第25回	(2)アメリカ発のグローバル金融危機への発展	アメリカ発のグローバル金融危機・経済危機の原因とプロセス2：危機の「第一幕」と「グローバル成長連関」。
第26回	(3)EU・ユーロゾーン危機	アメリカ発のグローバル金融危機・経済危機の原因とプロセス3：「危機の第二幕」。
第27回	4. グローバル金融危機・経済危機のインパクト (1)緊急財政・金融対策とその限界 (2)アメリカ経済の回復過程の特徴と問題点	グローバル金融危機・経済危機のインパクト：財政・金融対策の展開とその限界/アメリカ経済の回復過程の特徴
第28回	まとめと展望	アメリカ経済発展の歴史的経緯と特徴およびパックス・アメリカナの変質の現状と展望。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義スライド資料とテキスト・参考文献の当該箇所の予習・復習をする。Web 検索や参考文献などを用いて、関連事項を自ら調べて要点をまとめる。毎回の講義終了後、要点と疑問点をまとめ、次回講義の冒頭に提出する（A4版1頁程度）。おおむね1ヶ月に一度、小レポートにまとめて提出する。

【テキスト（教科書）】

講義前半について使用するテキストは指定しないが、山口他編『経済学Ⅱ』（有斐閣、1980年、定価4,536円）、河村哲二『パックス・アメリカナへの形成』（東洋経済新報社、1995年、4104円）、同『現代アメリカ経済』（有斐閣、2003年、2415円）、その他関連文献の必要箇所を適宜指示して使用する。講義後半については、河村哲二著『現代アメリカ経済』（有斐閣、2003年）およびSGCIME 編・河村哲二他著『グローバル資本主義の変容と中心部経済』（日本経済評論社、2015年）、河村哲二編著『グローバル金融危機の衝撃と新興経済の変貌』（ナカニシヤ出版、2018年、4104円）を基本テキストとする。

【参考書】

全体の入門書として、河村哲二・弘兼憲史著『アメリカ経済入門』（幻冬舎、2009年）、講義後半については、『現代経済の解説第3版』（御茶の水書房、2017年）を用いる。また、講義の主要ブロックそれぞれについて、基本文献と資料を適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末の総合レポート（70％）および毎回の講義のまとめレポート（概ね1ヶ月に一度を予定）（20％）、および平常点（10％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の自主的な議論を重視する。

【学生が準備すべき機器他】

講義スライド投影用プロジェクターを使用。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>アメリカ経済・グローバル経済論、理論経済学
<主要研究業績>

『現代アメリカ経済』有斐閣、2003年（単著）。

『第二次大戦期アメリカ戦時経済の研究―「戦時経済システム」の形成と「大不況」からの脱却過程』御茶の水書房、1998年（単著）。

『パックス・アメリカナへの形成―アメリカ「戦時経済システム」の分析』東洋経済新報社、1995年（単著）。

『知識ゼロからのアメリカ経済入門』幻冬舎、2009年（共著）。

Hybrid Factories in the United States under the Global Economy, Oxford University Press, 2011（編著）。

『グローバル資本主義と段階論』（御茶の水書房、2016年）。その他著書・論文多数。

【Outline and objectives】

This lecture discusses the historical development and the current state of the U. S. economy from the perspective of the "Stages Theory" of the historical development of capitalism. Through the whole discussions, it aims at elucidating the major futures and their transfiguration of the modern capitalist system in the Pax American Stage, including the major differences from the capitalist system of the predecessor stage of Pax Britannica Stage, thereby aims at deepening the understanding of the major features of the contemporary global capitalism and its transformation.

ECNe500F1 - 0057

地域経済研究（アジア）

苑 志佳

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は東アジアおよび中国経済を中心にこの地域の経済発展過程と発展条件、経済発展の背景と要因、経済発展の特徴・形態などについて様々な視点から研究する。講義内容が前半と後半によって構成される。講義の前半は、東アジア地域の経済発展に関わる内容であり、理論から実証研究まで東アジア経済を徹底検証する。後半では、世界の新興経済大国—中国を中心に講義する。具体的には「改革・開放」方針の導入を境に中国経済はどのように経済大国になったかを問題意識とし、中国経済の過去・現在および今後について分析・研究する。

【到達目標】

- ①アジア経済の研究視点、方法について理解する；
- ②アジア経済の発展に関わる諸説および理論をマスターする；
- ③中国経済の発展メカニズムおよび移行過程を理解することができる；
- ④中国経済の高度成長の背景・要因および特徴についてマスターすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本講義は教員講義を中心に出席者による討論という方式を採用する。毎回の授業は、1つのテーマを中心に教員がまず講義して論点を絞り出し、出席者全員参加の形式で討論することによって内容への理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期		
回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業全体に関する説明
第2回	アジア地域研究にあたって	東アジア・中国経済の現状と問題提起
第3回	東アジア経済の研究視点	東アジア経済の研究手法
第4回	アジア経済研究の歴史	アジア経済研究の理論
第5回	東アジア経済発展の背景	東アジア経済発展条件
第6回	戦後の東アジア経済発展の条件	内部条件と外部条件
第7回	政府か、市場か	政府主導型モデル
第8回	東アジア経済発展と政府の役割	東アジア経済の発展戦略
第9回	東アジア経済発展の担い手	欧米と異なる特徴
第10回	鼎構造	三位一体型構造の検証
第11回	対内直接投資と途上国経済	外資と東アジアの経済発展
第12回	何故外資が必要か	対内直接投資の役割・意義の検証
第13回	華人・華僑とは	東アジア地域の華人・華僑の歴史
第14回	東アジア経済と華人・華僑資本	東南アジアを中心とする検証
第15回	「チャイナ・ミラクル」	中国経済をどうみるか
第16回	改革・開放	制度移行の背景と過程
第17回	「北京コンセンサス」	中国経済の発展モデル
第18回	「漸進主義的」市場化改革	比較制度分析による検証
第19回	中国経済制度の改革（1）	財政改革
第20回	中国経済制度の改革（2）	企業改革
第21回	対外開放の狙いと効果	開放の過程と結果
第22回	国際分業へ関わり	対外貿易の役割
第23回	海外資本の「引進來」	外資対中進出の過程
第24回	中国の経済発展と対内直接投資の役割	中国経済成長への外資の貢献
第25回	中国資本の「走出去」	中国企業の対外直接投資
第26回	中国経済のグローバル化	世界経済へのインパクト
第27回	世界経済との付き合い	日中経済
第28回	世界覇権になるか	米中経済を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①週の授業終了後に参考文献や予習資料などを指定するので、これを予習する。
- ②授業時に配布される教材や資料を復習し、次の授業時に問題提起を考える。
- ③授業の予定テーマに関連する資料を自ら収集し、これを持って授業討論に臨む。

【テキスト（教科書）】

少数の教科書を持って本授業の内容をカバーしきれないため、テキストを使用しない方針。その代わりに教員が用意する独自の教材を使用する。

【参考書】

- (1) 北原 淳・西澤信善編著 [2004] 『アジア経済論』ミネルヴァ書房。
- (2) 星野妙子・末廣昭編 [2006] 『ファミリービジネスのトップマネジメント』岩波書店。
- (3) 末廣昭著 [2000] 『キャッチアップ型工業化論—アジア経済の軌跡と展望』名古屋大学出版会。
- (4) 渡辺利夫編 [1997] 『アジア経済読本』東洋経済新報社。
- (5) 南 亮進・牧野文夫編 [2012] 『中国経済入門』（第3版）日本評論社。
- (6) 加藤弘之・上原一慶編 [2011] 『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
- (7) 毛里和子 [1997] 『改革・開放時代の中国』日本国際問題研究所。
- (8) 苑 志佳著 [2009] 『現代中国企業変革の担い手—多様化する企業制度とその焦点』批評社。
- (9) 苑 志佳 [2014] 『中国企業対外直接投資のフロンティア—「後発国型多国籍企業」の対アジア進出と展開—』創成社。
- (10) 加藤弘之 [2016] 『中国経済学入門—「曖昧な制度」はいかに機能しているか』名古屋大学出版会

【成績評価の方法と基準】

配分方針

- (1) 出席（40点）：出席状況は成績評価の最重要指標の1つ。
- (2) 平常点（30点）：予習状況、報告準備状況、問題提起のレベルなどを考慮する。
- (3) クラス討論への貢献点（30点）：クラス討論への参加を強く勧める。質問の有無やコメントの質をも重視する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善にかかわるご意見、アイデアなどあれば、教室内だけでなく、メールなどを通して率直に発言してください。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、プロジェクタ、スクリーンが必要（教員による用意）。学生によるPC、i-Padなどの持ち込みと使用（事前にダウンロードしたファイルを表示する電子機器）を薦める。

【その他の重要事項】

やむを得ない事情によって欠席する場合、必ず事前に連絡してください。

【担当教員の専門分野等】

- <専門領域>世界経済論（アジア経済、中国経済）
- <研究テーマ>中国の産業競争力の実証研究、中国対外直接投資の研究
- <主要研究業績>①『現代中国企業変革の担い手—多様化する企業制度とその焦点』（単著、批評社、2009年）
- ②『中国社会主义市场经济の現在』（共著、御茶ノ水書房、2011年）。
- ③『中国多国籍企業の海外経営』（共著、日本評論社、2013年）
- ④『中国企業対外直接投資のフロンティア——「後発国型多国籍企業」の対アジア進出と展開——』（単著、創成社、2014年）
- ⑤『グローバル競争下の自動車産業——新興国市場における攻防と日本メーカーの戦略』（共著、日刊自動車新聞社、2014年）
- ⑥『21世紀資本主義世界のフロンティア—経済・環境・文化・言語による重層的分析—』（共編、批評社、2017年4月）

【Outline and objectives】

This course will concentrate the research on East Asian and Chinese economic development by taking different point of views. The special attention will be given to the concerns like, why economic high growth in the area has been realized so successfully, what backgrounds, conditions and characteristics existed there, and so on. The course is consisted of two parts. The first part focuses on East Asia study. Various theories, models and hypothesis will be introduced and demonstrated. The second part will study a newly emerging economic power in East Asia – China. The “China miracle” will be discussed in detail.

MAN500F1 - 0058

国際人事

白木 三秀

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、国境を越えて経営活動を展開する多国籍企業における人的資源管理（国際ヒューマン・リソース・マネジメント：IHRM）の諸特徴、諸課題について理論的、実証的に検討を加えることにある。理論的な議論をまず整理し、その後、アジアを中心に活動する日米欧の多国籍企業を取り上げ、その内部固有の論理を具体的な事例を踏まえながら実証的に検討する。と同時に、日本人派遣者に対する現地スタッフの評価や日本人派遣者固有の諸課題について検討し、選抜や育成について議論を展開したい。

【到達目標】

アジアにおける多国籍企業、とりわけ日本の多国籍企業の国際人的資源管理の現状と諸課題についてロジカルかつ現実的に自説を構築・展開できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

この講義の特徴は、事例と実証研究結果を多く用いる点にある。授業のテーマをより深く、確実に自分のものとするために、全員での議論を多く行う。そのためには発表者の内容や意見をよく聞くだけでなく、事前に各回の課題を調べ、自分の意見を整理しておく必要がある。講義内容の充実、ひとえに受講者の積極的な参加にかかっている。受講者の積極的かつクリエイティブな参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	講義への導入	オリエンテーション；講義の構成と進め方、評価方法についての説明
第2回	多国籍企業のHRM（1）	多国籍企業とIHRMに関する概論
第3回	多国籍企業のHRM（2）	IHRMの理論的検討
第4回	日本の多国籍企業の概観	日本の多国籍企業の諸課題：概観
第5回	事例研究（1）	東南アジアにおける多国籍企業：事例研究（1）
第6回	事例研究（2）	東南アジアにおける多国籍企業：事例研究（2）
第7回	グローバル人材とは？	国際人材育成の検討
第8回	日本人海外派遣者とキャリア（1）	海外派遣とキャリア形成（1）
第9回	日本人海外派遣者とキャリア（2）	海外派遣とキャリア形成（2）
第10回	日本人海外派遣者とミッション（1）	海外派遣者のミッションとその達成度（1）
第11回	日本人海外派遣者とミッション（2）	海外派遣者のミッションとその達成度（2）
第12回	多国籍企業と労働市場	アジアの労働市場と多国籍企業
第13回	国際HRMの諸課題（1）	日本の多国籍企業のIHRMの今後（1）
第14回	国際HRMの諸課題（2）	日本の多国籍企業のIHRMの今後（2）ならびに、全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

提示された教科書、参考書の授業のテーマの関連分野を事前に目を通しておくこと。さらには、自らの問題意識により新聞、雑誌の関連記事にも目配りし、関連事情を理解しておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

1. 白木三秀著『国際人的資源管理の比較分析』有斐閣、2006年。
2. 白木三秀編著『グローバル・マネジャーの育成と評価』早稲田大学出版部、2014年。
3. 白木三秀編著『人的資源管理の力』文真堂、2018年。

【参考書】

1. ドーリンジャー&ビオレ著（白木監訳）『内部労働市場とマンパワー分析』早稲田大学出版部、2007年。
 2. 白木編著『チェンジン・チャイナの人的資源管理』白桃書房、2011年。
 3. 吉原・白木・新宅・浅川編著『ケースに学ぶ国際経営』有斐閣、2014年。
- 他の文献については講義中、必要に応じて適宜紹介の予定。

【成績評価の方法と基準】

講義への参加度、すなわち授業中の発言・コメントの回数と内容（50%）、発表報告・レジュメの回数と内容（50%）などにより総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

参加学生が、日本人か留学生か、社会人であるかそうでないかなどにより、授業での理解度や内容面での関心分野が大きく異なるため、どのように受講生の関心を引き付けていくかが極めて重要であることが分かる。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

人的資源管理、社会政策

<研究テーマ>

国際人的資源管理の比較分析、海外派遣者の人的資源管理

<主要研究業績>

最近の著書

『国際人的資源管理の比較分析』（単著、有斐閣、2006年）、

『チェンジン・チャイナの人的資源管理』（編著、白桃書房、2011年）、

『グローバル・マネジャーの育成と評価』（編著、早稲田大学出版部、2014年）、

『人的資源管理の力』（編著、文真堂、2018年）、等。

【Outline and objectives】

The objective of this lecture is to provide the theoretical background of international human resource management and its application on to the real business scene, especially the operation of Japanese multinational companies in the comparative context. Also, from the aspect of expatriate management, I want to consider the characteristics and issues of Japanese expatriates sent to Asian countries.

MAN500F1 - 0061

国際会計論

松井 泰則

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日のグローバル資本市場における開示制度の中で、財務会計にかかわる高度な知識と技術を理解したうえで、国際連結財務諸表を正しく読み取ることができるようになることを目的とする。特に連結財務諸表の仕組みと、IFRSの構造上の概念を正しく理解していくことに重点を置く。また、簿記ならびに会計の歴史は、今日の国際会計を理解する上で不可欠な教養であることから、その概要は理解しておく必要がある。

【到達目標】

国際資本市場での財務会計上の基本的な概念を理解することにより、国際的な（具体的にはIFRSのもとでの）会計利益計算の考え方を理解する。そのために、IFRSならびにASBJ基準において重要とされる財務会計基準を取り上げ各会計処理について理解を深めていきたい。特に議論の過程では、単なる会計処理的な計算的な問題としてではなく、その基底にある資産概念あるいは利益概念などの会計概念を正しく把握したうえで理解することが重要である。こうした今日の財務会計の仕組みに対して、会計の有する本質的な課題を念頭に置いて理解できるようにすることを最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

IFRSならびにASBJ基準に関して、重要な財務会計基準を取り上げ議論を深めていく。具体的には、まずは講義の前半では、財務会計における基本財務諸表（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結キャッシュ・フロー計算書）についての理解を中心に学習を進めていく。続く後半では、IFRSに規定される重要な基準について講義形式で理解を深めていく。最後に総括として、今日のグローバル資本市場と企業財務会計との関連性について将来を展望しながら、国際的視点からその課題を探っていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	An Introduction to Financial Statements	今日の国際資本市場における財務諸表の役割と今後の展望。
第2回	The Balance sheet	貸借対照表に関して、資産・負債・純資産のそれぞれの概念に対する理論的考察。
第3回	The Income Statement	利益計算に関して、新しい利益概念としての包括利益に対する理論的考察。
第4回	The Statement of Cash Flows	キャッシュ・フロー計算書の仕組みと読解。
第5回	How the Financial Statements Relate to Each Other	基本財務諸表間の連関についての考察と実務上のポイント。
第6回	Generally Accepted Accounting Principles and International Financial Reporting Standards(IFRS)	主要各国の会計基準：英米型会計基準 vs 独仏型会計基準。国際財務報告基準の概要。
第7回	日本で提要される4つの会計基準について	4つの会計基準。日本基準 IFRS JMIS SEC基準
第8回	会計の歴史と国際会計	簿記の歴史と会計基準の発達史。利益計算構造に関する学説的分析。
第9回	利益構造論と会計概念	資産負債アプローチ vs 費用収益アプローチ。 IFRSにおける利益概念と計算構造。
第10回	IFRS 各論研究1	主に貸借対照表に関連する会計処理を中心に、各会計基準を理解・究明する。
第11回	IFRS 各論研究2	主に損益計算書に関連する会計処理を中心に、各会計基準を理解・究明する。
第12回	IFRS 各論研究3	その他、連結財務諸表作成上、重要と思われる特殊かつ重要な会計基準を理解・究明する。
第13回	ビジネスモデルの変化と会計パラダイムのシフト	多国籍企業会計と今日の経済取引：金融商品取引と経済価値の変動と会計測定。
第14回	総括	今日の財務会計の意義と抱えている限界、そして将来への展望。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に簿記・会計の基礎知識を習得していることを本講義の受講前提としている。そのレベルについては必ずしも高いレベルを要求するものではないが、各自において日々そのレベルアップを図ってほしい。

【テキスト（教科書）】

毎回の講義中において、資料等を配布しながら講義を進めていくので、授業テキストとしての特定の書籍の使用予定はないが、必要な場合あるいはテーマによっては適宜、授業中において著書や論文等を紹介していく。

【参考書】

必要な場合あるいはテーマによっては適宜、授業中において関連する著書や論文等を紹介していきたい。

【成績評価の方法と基準】

平常点 60 点、レポート課題 40 点

【学生の意見等からの気づき】

会計学は、簿記など専門的要素の強い学問であり、したがって一方的な講義形式になりがちだが、可能な限り理解しやすいように心がけて講義を行っていくつもりである。このためにも学生からの質問や要望も受けやすいオープンな雰囲気づくりを心がけるとともに、学生からの質問に対しては、その都度、耳を傾けながら進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本講義の担当教員（松井泰則）は、日本公認会計士試験委員の担当経験を有することから、会計学を学習する際の重要な論点となる理論ならびに計算についての学習アドバイスも行っていくたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際会計論

<研究テーマ>

IFRS

<主要研究業績>

各国比較会計制度論

【Outline and objectives】

This course serves about the principles and practices of international accounting in global markets. The course will focus on the followings.

The Basic Financial Statements: The Balance Sheet, The Income Statement, The Statement of Cash Flow.

Accounting Standards in Japan.

Accounting Theory and History. Study on International Financial Reporting Standards (IFRS).

International Accounting Perspective.

国際金融論

中村 周史

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際金融における問題や現象を読み解くための基礎的な概念と理論を理解してもらいます。

【到達目標】

国際金融に関する基本的な概念や枠組みを理解し、現実の国際金融における諸問題を自ら論理的に考察できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式にて進めます。前半 14 回まではミクロ的な視点から、後半 14 回はマクロ的な視点から国際金融を扱っていきます。なお、講義中も適宜質問を受け付けます。質問等や学生の理解が全体として不十分であると感ずる点があった場合には、次回の講義までに別途資料をアップロードし、次回講義冒頭で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	国際金融とは？	国際金融論の導入として、その定義や範囲を説明し、具体的な問題や現象を紹介する。
第 2 回	金融取引の本質と国際金融の難しさ	金融取引とはどのような取引かを理解し、国際金融取引がなぜ必要で難しいのかを説明する。
第 3 回	貨幣と物価、外国為替相場	貨幣が本質的にどのような機能を持つのかを整理し、物価や為替相場との関係を学ぶ。
第 4 回	外国為替市場と為替相場の種類	外国為替市場ではどのような取引が行われているのかを理解し、基礎的な知識を身に着ける。
第 5 回	為替レートの決定要因：購買力平価	商品裁定と物価、為替相場の関係について理解する。
第 6 回	為替レートの決定要因：金利平価	金利裁定が為替相場に与える影響について理解する。
第 7 回	為替レートの決定要因：アセットアプローチ	通貨の需給バランスが為替相場に与える影響について理解する。
第 8 回	為替レートの決定要因：効率的市場とマイクロストラクチャー	市場参加者の取引行動から超短期の為替変動の背景を学ぶ。
第 9 回	改めて国際金融市場とは？	国際金融市場の定義、参加者とその目的について理解する。
第 10 回	投機の機能とタックスヘイブン	国際金融市場に対する批判について説明する。
第 11 回	為替リスクとデリバティブ市場	為替リスクの種類とそれを管理するためのデリバティブ市場について学ぶ。
第 12 回	国際資本フローと外国為替市場取引の変遷	国際資本フローや外国為替市場取引がどのような変化を遂げたのか、概観する。
第 13 回	国際証券投資	国境を超えた証券投資に関する基礎知識を身に着ける。
第 14 回	為替レートの実際：市場別価格設定行動と決済通貨	企業の為替リスクマネジメントについて学ぶ。
第 15 回	国民経済計算の仕組み	マクロにおける国際金融を学ぶ端緒として、GDP の性質や特徴を学ぶ。
第 16 回	国際収支と対外資産	国際収支統計の構成や為替相場がマクロ経済に与える影響を学ぶ。
第 17 回	経済分析のためのツール：準備編	簡単なマクロ経済モデルとして、IS-LM の詳細を学ぶ。
第 18 回	経済分析のためのツール：分析編	IS-LM モデルを使って、閉鎖経済の場合にマクロ経済政策がどのような影響を経済に及ぼすのかを理解する。
第 19 回	マクロ経済政策と国際金融	マンデルフレミング・モデルを用いて、為替相場や資本規制によってマクロ経済政策の影響がどう変わるのかを学ぶ。
第 20 回	外国為替相場制度とその仕組み	為替制度の種類とその特徴について理解する。
第 21 回	国際通貨体制の歴史	過去から現在に至るまでの国際通貨体制の変遷を学ぶ。

第 22 回 新しい国際通貨体制の模索

第 23 回 最適通貨圏の理論

第 24 回 EU と通貨統合

第 25 回 通貨危機の仕組みと金融危機の関係

第 26 回 アジア通貨危機による教訓と変化

第 27 回 グローバルインバランスと世界金融危機

第 28 回 ユーロ圏債務危機

過去の歴史や現在の国際協調体制から、新しい国際通貨体制について考える。
通貨統合を行うための条件について理解する。
通貨統合を行うまでに EU が歩んできた道のりと、現在直面している問題について学ぶ。
通貨危機が生じる仕組みと、金融危機へと発展する背景を理解する。
アジア通貨危機が何故発生し、拡大していったのかを学ぶ。
米国の経済危機が何故世界金融危機に発展したのか、グローバルインバランスの観点から説明する。
ギリシャの財政危機がユーロ圏全体に何故波及したのかを説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業前に授業支援システムを通じて講義資料の配布を行います。必ず目を通し予習しておくこと。また、適宜課題を出しますので、それを中心に復習を行ってください。

【テキスト（教科書）】

こちらで作成した講義資料を基に、講義を行うため、特定のテキストは指定しません。講義資料は事前に web で配布するため、必ず各自持参してください。

【参考書】

藤井英次『コア・テキスト国際金融論 第 2 版』、新世社、2013 年。
Krugman, Paul R., Maurice Obstfeld, and Marc Melitz, International Economics: Theory & Policy: Global Edition, 10th revised ed., Pearson Education Limited, 2014.

【成績評価の方法と基準】

中間課題 40 %、期末課題を 60 % として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

初年度であるため、特にありません。わかりやすい講義を心掛けます。

【その他の重要事項】

経済学は積み重ね型の学問ですので、出席は必ず行い、分からない点についてはすぐに質問を行なうよう心掛けてください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際金融、金融政策

<研究テーマ>

新興国における最適な為替政策運営に関する研究：移民送金と国際信用収縮の視点

【Outline and objectives】

This course provides fundamental ideas and frameworks to solve present problems and phenomena in international finance.

MAN600F1 - 0065

人材・組織マネジメント演習

佐野 哲

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、各指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

【Outline and objectives】

In this seminar, you will learn the basic elements of research yourself. In other words, you will learn about how to add some new findings to a research area based on the appropriate method.

MAN600F1 - 0065

人材・組織マネジメント演習

佐野 哲

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、各指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

【Outline and objectives】

In this seminar, you will learn the basic elements of research yourself. In other words, you will learn about how to add some new findings to a research area based on the appropriate method.

MAN600F1 - 0065

人材・組織マネジメント演習

西川 真規子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、各指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんです。テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

【Outline and objectives】

In this seminar, you will learn the basic elements of research yourself. In other words, you will learn about how to add some new findings to a research area based on the appropriate method.

MAN600F1 - 0065

人材・組織マネジメント演習

西川 真規子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、各指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

【Outline and objectives】

In this seminar, you will learn the basic elements of research yourself. In other words, you will learn about how to add some new findings to a research area based on the appropriate method.

MAN600F1 - 0065

人材・組織マネジメント演習

奥西 好夫

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、各指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

【Outline and objectives】

In this seminar, you will learn the basic elements of research yourself. In other words, you will learn about how to add some new findings to a research area based on the appropriate method.

MAN600F1 - 0065

人材・組織マネジメント演習

奥西 好夫

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、各指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

【Outline and objectives】

In this seminar, you will learn the basic elements of research yourself. In other words, you will learn about how to add some new findings to a research area based on the appropriate method.

MAN600F1 - 0065

人材・組織マネジメント演習

長岡 健

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、各指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

【Outline and objectives】

In this seminar, you will learn the basic elements of research yourself. In other words, you will learn about how to add some new findings to a research area based on the appropriate method.

MAN600F1 - 0065

人材・組織マネジメント演習

長岡 健

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、各指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

【Outline and objectives】

In this seminar, you will learn the basic elements of research yourself. In other words, you will learn about how to add some new findings to a research area based on the appropriate method.

MAN600F1 - 0065

人材・組織マネジメント演習

小川 憲彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、各指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

【Outline and objectives】

In this seminar, you will learn the basic elements of research yourself.
In other words, you will learn about how to add some new findings to a research area based on the appropriate method.

MAN600F1 - 0065

人材・組織マネジメント演習

小川 憲彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、各指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

【Outline and objectives】

In this seminar, you will learn the basic elements of research yourself. In other words, you will learn about how to add some new findings to a research area based on the appropriate method.

MAN600F1 - 0065

人材・組織マネジメント演習

岸 真理子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、各指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

【Outline and objectives】

In this seminar, you will learn the basic elements of research yourself.
In other words, you will learn about how to add some new findings to a research area based on the appropriate method.

MAN600F1 - 0065

人材・組織マネジメント演習

岸 真理子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、各指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

【Outline and objectives】

In this seminar, you will learn the basic elements of research yourself. In other words, you will learn about how to add some new findings to a research area based on the appropriate method.

MAN600F1 - 0065

人材・組織マネジメント演習

佐野 嘉秀

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、各指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

【Outline and objectives】

In this seminar, you will learn the basic elements of research yourself. In other words, you will learn about how to add some new findings to a research area based on the appropriate method.

MAN600F1 - 0065

人材・組織マネジメント演習

佐野 嘉秀

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、各指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

【Outline and objectives】

In this seminar, you will learn the basic elements of research yourself. In other words, you will learn about how to add some new findings to a research area based on the appropriate method.

MAN600F1 - 0065

人材・組織マネジメント演習

永山 晋

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、各指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

【Outline and objectives】

In this seminar, you will learn the basic elements of research yourself. In other words, you will learn about how to add some new findings to a research area based on the appropriate method.

MAN600F1 - 0065

人材・組織マネジメント演習

永山 晋

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、各指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

【Outline and objectives】

In this seminar, you will learn the basic elements of research yourself. In other words, you will learn about how to add some new findings to a research area based on the appropriate method.

MAN500F1 - 0066

ワークショップ（人材・組織マネジメント）

長岡 健

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材と組織のマネジメントにおいて、「変化」は避けることのできない現象である。ビジネス環境の変化、戦略の転換、組織内に発生する硬直化などに伴い、さまざまな規模で「変化への対応」が絶えず要求されている。この授業では、実務家や研究者をゲスト講師として招き、様々なビジネス分野における事例や、実践的研究について紹介してもらう。そして、「ビジネス環境の変化にいかに対応するか」という問題意識を起点として、これらの事例／実践的研究に対する検討を進める。今年度は、「組織変革の戦略と方法」、「ダイバーシティ推進の可能性と課題」、「人材／組織マネジメントの新潮流を探る」という3つの視点から、今日の人材／組織マネジメントが直面する諸問題に対する洞察力を磨いていくことをめざす。

【到達目標】

- 1) 授業で取り上げた「組織変革戦略／方法」の事例を分析し、その組織マネジメント上の可能性と課題を理解する。
- 2) 授業で取り上げた「ダイバーシティ推進」の事例を分析し、その人材マネジメント上の可能性と課題を理解する。
- 3) 授業で取り上げた事例の分析／検討を通じて、人材／組織マネジメントの今日の課題の所在を知ると共に、その背後にある社会環境の変化について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

（ゲスト講義）〈担当教員の講義〉の基本的な進め方は以下の通り。

- | | |
|---------------------|---------|
| 1) ゲスト講義（事例の紹介） | ： 100 分 |
| 2) 検討課題についてのグループ討議 | ： 40 分 |
| 3) グループ討議の結果報告＆全体討議 | ： 40 分 |
| 4) 教員による総括（まとめ講義） | ： 20 分 |

〈グループ発表〉では、少人数のグループで「ゲスト講義の要約」「興味深かった点」「疑問点/問題点」を検討し、20分程度の発表を行う。加えて、クラス全体でのディスカッション、及び、担当教員による関連する理論の解説を通じて考察を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	〈担当教員の講義 1〉 ・授業のねらいと進め方 ・ビジネスにおける実践と研究の関係
第2回	導入講義	〈担当教員の講義 2〉 ・組織変革の戦略と方法に関する導入講義 ・ダイバーシティ・マネジメントに関する導入講義
第3回	組織変革の戦略と方法 (1)	〈ゲスト講義 1〉 組織変革の戦略と方法に関する事例の紹介と検討
第4回	組織変革の戦略と方法 (2)	〈ゲスト講義 2〉 組織変革の戦略と方法に関する事例の紹介と検討
第5回	ダイバーシティ推進の可能性と課題 (1)	〈ゲスト講義 3〉 ダイバーシティ・マネジメントに関する事例の紹介と検討
第6回	ダイバーシティ推進の可能性と課題 (2)	〈ゲスト講義 4〉 ダイバーシティ・マネジメントに関する事例の紹介と検討
第7回	中間報告会 (1)	〈グループ発表 1〉 ゲスト講義1～4についてのグループ発表とまとめ講義
第8回	組織変革の戦略と方法 (3)	〈ゲスト講義 5〉 組織変革の戦略と方法に関する事例の紹介と検討
第9回	組織変革の戦略と方法 (4)	〈ゲスト講義 6〉 組織変革の戦略と方法に関する事例の紹介と検討

第10回	ダイバーシティ推進の可能性と課題 (3)	〈ゲスト講義 7〉 ダイバーシティ・マネジメントに関する事例の紹介と検討
第11回	ダイバーシティ推進の可能性と課題 (4)	〈ゲスト講義 8〉 ダイバーシティ・マネジメントに関する事例の紹介と検討
第12回	中間報告会 (2)	〈グループ発表 2〉 ゲスト講義5～8についてのグループ発表とまとめ講義
第13回	人材／組織マネジメントの新潮流を探る (1)	〈ゲスト講義 9〉 人材マネジメントの新潮流に関する事例の紹介と検討
第14回	人材／組織マネジメントの新潮流を探る (2)	〈ゲスト講義 10〉 組織マネジメントの新潮流に関する事例の紹介と検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 授業内での検討をもとに、ゲスト講義に関する気づきをまとめ、「リフレクションシート」を個人で作成する。
- 2) ゲスト講義について、授業時間外にグループで議論を行い、「中間報告会」において、グループ発表を行う。
- 2) 全授業終了後、授業全体を振り返った上で、気づきをまとめ、「最終レポート」を個人で作成する。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。

【参考書】

講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業（14回）への参画度：30%
（評価基準）出席頻度；議論での積極性；授業への貢献度。
- 2) リフレクションシート（10回）：40%
（評価基準）ゲスト講義についての理解の深さ；考察内容の深さ。
- 3) 中間報告会（2回）・最終レポート：30%
（評価基準）考察内容の妥当性/新規性/進歩性；表現の明快性。

【学生の意見等からの気づき】

「参加型」の授業運営を進めるよう心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) 資料配布や課題提出のために、授業支援システムを利用する。
- 2) プレゼンソフトを使って中間発表を行う。

【その他の重要事項】

受講者の人数、関心、理解の進捗を勘案し、受講者と相談の上で、内容や構成を修正する場合がある。

【担当教員の専門分野等】

《専門領域》
組織社会学、
経営学習論、
ポストモダン・エスノグラフィー

《研究テーマ》
組織と学習、
組織エスノグラフィー、
創造的なコラボレーションのデザイン

《主要研究業績》
『越境する対話と学び』（共著）
『ダイアログ 対話する組織』（共著）
『企業内人材育成入門』（共著）

《ウェブサイト》
<http://www.tnlab.net/>

【Outline and objectives】

In the areas of human resource management and organisation management, “change” is an indispensable phenomenon. In fact, business persons are ceaselessly required to cope with “changes” of various sizes, from a small team level to a large-scale corporate group level, in their organizational lives. Therefore, it can be said that the theme of “organisational change” has practical value in the field of organization studies. In this course, 10 guest speakers, including university-based researchers, business persons, and practitioners of NPO, deliver lectures on “organisational change” in various aspects, as they relate to the cases and/or the studies that the guest speakers are involved in. By discussing and analysing those cases and studies, we try to deepen our understanding of “organisational change”, and to find practical lessons learnt about how to cope with “change” issues in business organisations. In particular, the main objectives of this course are to deepen our understanding of the following three points, 1) strategies and methodologies for organizational change, 2) diversity management in business organisations, and 3) new trend in the areas of human resource management and organisation management.

MAN500F1 - 0067

人的資源管理論

佐野 嘉秀

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人的資源管理の基本的な考え方を学ぶとともに、個別の人的資源管理の分野、すなわち雇用区分、社員格付け、採用、教育訓練、配置転換、昇進、人事評価、賃金管理、福利厚生等について、主要な議論を把握する。また、そうした知見にてらして、参加者は、各人の身近にある企業や職場の事例をとりあげ、対応する実態や課題について報告・議論する。これらを通じ、人的資源管理にかかわる理論や議論をふまえて、人事管理の現状や課題について考える力を身につけることを目標としたい。

【到達目標】

①人事管理論の対象領域の広がり と基本的な考え方を 知る。②人事管理の個別分野に関する基礎的な理論や議論を理解する。③以上を踏まえ、身近な事例について考察する視点を 得る。④人事管理に関連する論文について批判的に検討する視点を 得る。⑤修士論文等で研究するテーマについてのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は、①人的資源管理論の基本的な理論・考え方・議論に関する講義と、②参加者による課題文献・事例の報告とディスカッションによる演習を組み合わせて進めます。できるだけ毎回、講義形式の部分に加えて、演習の部分があるようにし、参加者に深く考え、発言してもらう機会を設けます。報告・ディスカッションの準備が課題となります。授業内容に関するおよそのスケジュールは下記（授業計画）のとおりです。ただし、各テーマの授業時間の配分等については、参加者の関心に応じて柔軟に変更する可能性があります。また、順序を適宜、入れ替えることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：人的資源管理の考え方と「理論」	人的資源管理の機能と担い手、「伝統的」人事管理と人的資源管理（HRM）のちがいや「理論」について学ぶ
第 2 回	雇用区分の多様化と人材ポートフォリオ	雇用区分の多様化の現状、人材ポートフォリオの理論について理解する
第 3 回	雇用区分の設計とキャリア管理	異なる雇用区分のあいだの仕事・キャリアの設計、雇用区分間の転換の仕組みについて考える
第 4 回	社員格付け制度の機能と多様性	社員格付け（等級）制度にもとめられる要件、格付け基準の多様性について理解する
第 5 回	社員格付け制度の変化と「成果主義」	「能力主義」および「成果主義」のもとでの社員格付け制度の特徴と合理性について考える
第 6 回	労働市場の変化と採用	採用の前提となる労働市場の変化について理解する、育成（make）か採用（buy）かの選択および R J P の考え方について検討する
第 7 回	人的資源管理（HRM）のなかの人材育成（HRD）	人的資源管理のなかの人材育成の位置づけ、教育訓練の機能、配置転換の人材育成機能について理解する
第 8 回	人的資源管理の変化と人材育成	「投資」としての教育訓練の性格、変化する人的資源管理のもとでの配置転換・教育訓練について考える
第 9 回	昇進管理の機能と多様性	昇進の機能、国際的にみた日本の昇進管理の特徴、早期のエリート選抜について考える
第 10 回	昇進管理の変化と専門職制度	「フラット化」・高齢化のもとでの昇進の課題、専門職制度について検討する
第 11 回	変化のなかの賃金管理	賃金管理の基礎、「成果主義」化のなかでの賃金管理の特徴、雇用区分間の均衡処遇について考える
第 12 回	評価制度の課題と福利厚生	人事評価制度の課題のほか、福利厚生に関する近年の変化について考える
第 13 回	まとめ：人的資源管理の変化とライン・マネジャーの役割	この授業で学んだことを踏まえて、変化する人的資源管理のなかでのラインマネジャーの役割（人事部門との連携関係）について総括的に検討する
第 14 回	まとめ：人的資源管理の変化と人事部門の役割	この授業で学んだことを踏まえて、変化する人的資源管理のなかでの人事部門の役割（ライン・マネジャーとの連携関係）について総括的に検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のテーマに関連する課題の論文を授業内に提示します。受講者は、事前に論文を読んで、論点を把握し、疑問点やコメントを考えて授業にのぞんでください。それをもとに授業内で議論し、テーマに関する理解を深める予定です。また、各回について、1～2 名程度の代表者に課題論文についてのレジュメ作成を行ってもらいます。

【テキスト（教科書）】

テキストはとくに設定しません。

【参考書】

- ①日本労働研究雑誌（ <http://www.jil.go.jp/institute/zassi/> ）
- ②今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（第 2 版）』日本経済新聞社

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（20 点）、文献・事例の報告（30 点）、議論への貢献（30 点）、最終レポート（20 点）出席とともに、報告の担当回での報告内容とそれに関する参加者との議論の内容、積極度を評価します。最終的には、各自の問題関心に即した人的資源管理に関するレポートを提出してもらいます。以上を総合して最終的な評価を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

人事管理の基礎に関する体系的な講義編成、授業支援システムによる配布資料の共有、参加者の実務を踏まえたディスカッションなど、高く評価していただいている本授業の良さを大事にしたいと思います。

【その他の重要事項】

授業で利用するパワーポイント資料は、授業支援システムにて事前に入手できるようにします。履修登録後は、各自、プリントアウトして授業に持参してください。

【担当教員の専門分野等】

- <専門領域>人的資源管理・産業社会学
- <研究テーマ>雇用システムの日英比較、就業形態の多様化と人事管理、人事部門とライン管理者の人事管理上の連携 等
- <近年の主な業績（市販書籍のみ）>
 - ①「生産職種の請負・派遣社員の就業意識」佐藤博樹・大木栄一編『人材サービス産業の新しい役割』有斐閣、2014 年
 - ②「企業内キャリアと人事管理」上林千恵子編『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房、2012 年
 - ③『実証 日本の人材ビジネス—新しい働き方と人事マネジメント』（共編著）日本経済新聞社、2010 年
 - ④「非典型雇用の人材活用—非典型雇用の仕事とその割り振り」佐藤博樹編『人事マネジメント』ミネルヴァ書房、2009 年
 - ⑤「『成果主義』先進企業の変革」（共著）中村圭介・石田光男（編）『ホワイトカラーの仕事と成果』東洋経済新報社、2005 年

【Outline and objectives】

Our objective is to Learn and understand basic human resource management theories and practices. We focus on HRM practices in Japan from comparative perspectives. HRM practices can be understood as a system. We are to focus on each area of HRM system respectively. Wage system, appraisal, recruiting and selection, training and development, internal promotion and welfare are main areas of HRM. Both lecture and discussion is expected. Students are supposed to participate in the discussion actively. Making presentation is also required.

MAN500F1 - 0070

人事制度論

奥西 好夫

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、人事制度を設計、運用、評価するために必要な基礎理論（ミクロ経済学、社会心理学など）をまず簡単に学んだ上で、採用、訓練、昇進、賃金、人事評価、退職・定年、職務設計など人事制度の各パーツについて学ぶ。さらに、各パーツ相互の補完性を強調する戦略的、システマ的なモノの見方、考え方を学ぶ。

【到達目標】

現実の人事制度が運用面も含めて、「どうなっているのか」、「なぜそうなっているのか」、そして（いっそう難しいことだが）「どうしたらもっとよくなるのか」を、自ら考え、理解し、提案する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経営学専攻においては「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

ディプロマポリシーのうち、連帯社会インスティテュートにおいては「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

大きく＜基礎理論＞（①～④回）、＜各論＞（⑤～⑪回）、＜応用＞（⑫～⑭回）の3部からなる。＜基礎理論＞の授業は、講義中心に行う。＜各論＞、＜応用＞の授業は、原則として、受講者による【課題】に関する報告・討論と、講義を合わせて行う。【課題】のノルマ、分担等については、受講者数や受講者の希望を勘案して決める。報告・討論は1時間程度が目安。報告者は要点を記した簡単なハンドアウトを用意すること。

なお、これらの【課題】とは別に、本講義終了後、各人の研究報告をレポートとして提出してもらう。この最終レポートは、受講者が本講義で学んだことの成果を総括するものとして、重要な位置を占める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
①	人事制度論の概要	・人事制度論の概要 ・関連領域、方法論の紹介
②	個人の行動原理	・経済合理性 ・経済非合理性 ・不完全情報
③	取引の効率性	・効率性 ・取引費用 ・コースの定理
④	組織の公正性、人々の福祉	・さまざまな公正観 ・組織内公正性 ・いくつかの福祉指標
⑤	雇用関係と労働市場	・雇用関係の特徴 ・内部労働市場論 ・雇用関係の経済モデル
⑥	人的資本理論と訓練	・一般訓練と特殊訓練 ・OJT とキャリア
⑦	昇進	・昇進の機能 ・トーナメント ・アップ・オア・アウトなど
⑧	賃金	・賃金決定要素 ・賃金水準・格差 ・賃金プロファイル ・福利厚生
⑨	人事評価	・人事評価の目的 ・評価者 ・評価項目・方法 ・評価結果のフィードバック
⑩	採用・退職・定年	・採用量・質の決定 ・効率的な離職の理論と実際 ・定年制の理論と実際
⑪	職務設計	・職務設計の重要性 ・職務設計を考える際のポイント
⑫	多様性管理	・背景と内容 ・日本の現状と課題 ・ケースと理論
⑬	雇用形態・区分の多様化	・日本の現状と国際比較 ・背景と理論 ・課題
⑭	雇用モデルの多様性と変化	・高コミットメント HRM ・日本的雇用慣行の現状と評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業内容や課題（1週間前までに告知する）を予習した上で授業に臨む。できるだけ、授業の重心を講師による講義から、受講生間あるいは講師と受講生間の議論に移行させたい。また、【課題】で指定する文献は、報告者以外も事前に目を通し、討論に積極的に参加すること。

【テキスト（教科書）】

単一のテキストは特に用いない。各回の講義内容の簡単なレジュメ、【課題】で指定する文献は、原則として授業支援システムを用いて事前に配付する。

【参考書】

講義全体にわたる参考書として、次の文献がある。ただし、講義ではこれらの逐語的な解説をする予定はなく、各自購入する必要は必ずしもない。

①ミルグロム、ロバーツ『組織の経済学』（NTT 出版、1997 年）

②ラジャー、ギブス『人事と組織の経済学 実践編』（日本経済新聞出版社、2017 年）

③ Baron, James N. and David M. Kreps. Strategic Human Resources (John Wiley and Sons, 1999)

なお、日本の人事制度に関する副読本として、守島基博・大内伸哉『人事と法の対話』（有斐閣、2013 年）、海老原嗣生・荻野進介『人事の成り立ち』（白桃書房、2018 年）を挙げておく。

【成績評価の方法と基準】

全講義のうち出席が半分に満たない場合は、自動的に「未受講扱い」とする。最終的な成績評価は、出席状況と課題（特にレポート）の出来不出来などを踏まえ、総合的に行う。

最終レポートの評価は、【授業の到達目標】で掲げた3つの目標（「どうなっているのか」、「なぜそうなっているのか」、「どうしたらもっとよくなるのか」）を、自ら考え、理解し、提案する力）がどの程度達成されているかで判断し、総合評価の7～8割のウェイトとする。残りの2～3割はふだんの出席状況と【課題】による。

【学生の意見等からの気づき】

過去の経験では、内容が難しいとの評価が比較的多い。そこで、四則演算を超える数学は一切用いず、抽象的な概念は身近な実例を交えて説明するなど努力をしているが、不明な点はぜひ積極的に質問して欲しい。なお、自分の頭でロジカルにギリギリと物事を考えるのは「辛い」ことかもしれないが、その点については妥協するつもりはない。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを授業外でのコミュニケーション・ツールとして多用するので、事前にシステムに授業登録するとともに（事務上の履修登録とは別であることに注意）、各自の連絡先メールアドレスも登録すること。

【担当教員の専門分野】

＜専門領域＞ 労働経済学、人事制度論

＜研究テーマ＞ 人事制度、労働市場の統計分析、国際比較。特に雇用形態、賃金格差など。

＜主要研究業績＞下記サイトを参照されたい。

<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001419/profile.html>

【Outline and objectives】

First, students study basic theories such as microeconomics and social psychology which are required to design, practice and evaluate HR policies. Then, they learn various aspects of HR policies such as hiring, training, promotion, wages, performance evaluation, separation, and job design. Furthermore, they learn strategic or systematic views to synthesize the above various aspects which may well be complementary each other.

MAN500F1 - 0071

労働市場論

藤本 真

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、日本の労働市場の構造と現状について、制度的なアプローチから説明していきます。ここでいう「制度」とは、政府が法律などを通じて管理しつつ、求人者と求職者そして仲介者ら市場関係者の日々の参加によって作り上げられていく労働力需給調整システムを意味します。

現実の労働市場は、単純なマーケットメカニズムによって構造化されるものではなく、その国・地域の社会・文化や政治・経済が色濃く反映され組み上げられた「制度」から数々の制約を受けつつ、長い経緯を経て形成されてきた社会システムであるからです。具体的には、職業紹介、労働者派遣、求人広告などの「制度（事業システム）」を舞台に、それらの事業マーケット担当者（公的機関の職業相談担当者や人材紹介コンサルタントなど）の目線を加えながら、その市場の構造と規模、法の規制と経緯、需給（求人者と求職者）双方の動向、情報化・国際化・高齢化の影響などについて検討していきます。

【到達目標】

現在、日本も含め、多くの先進諸国において労働市場は、政府の法制度によって管理されています。日本の政府はこれまで、日本の労働市場に対してどう関与してきたのか、そしてその関与によって現在のマーケットがどう動き、経済社会の変化とともに今後どこへ向かうとしているのか。授業の到達目標は、こうした労働市場に関する洞察力を向上させることにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経営学専攻においては「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

ディプロマポリシーのうち、連帯社会インスティテュートにおいては「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 第1回から第3回までは、この授業の進め方などに関するイントロダクション、ガイダンスと、労働市場および日本の労働市場についての基本的な枠組みに関する講義を実施します。
2. 第4回目以降は、日本の労働市場に関わる個別のテーマを取り上げ、そのテーマについての「講義」（6時限目）と「演習」（7時限目）を行ないます。
3. 「講義」では、各回のテーマに関連して、これまでの傾向や近年の変化の動向、生じている課題や新たに進められている取り組みについてトピックを整理し、そのテーマに関する基本的な理解の促進を目指します。
4. 「演習」では、各回のテーマに関連して、現状と課題及び個人的な問題意識をまとめた参加者作成のレポートの報告に基づき、ディスカッションを行います。

5. 授業で取り上げる予定の個別テーマとしては、「授業計画」に挙げたものや、以下のようなものを考えています（「授業計画」には、2018年度の授業で取り上げたテーマとそのテーマに関わるトピックを、取り上げた順に記しています）。今年度の授業で実際に取り上げるテーマと順番については、第2回のガイダンスの際に参加者の皆さんと協議の上、決定します。

<取り上げる個別テーマの例：「授業計画」に挙げたもの以外>

- 高卒・大卒の新卒労働市場
- 公共職業訓練とキャリア形成支援の諸政策
- 職業能力評価のための社会的枠組みと課題
- 就職・キャリア形成困難者に対する支援の取り組み
- 労働市場における「差別」の問題

6. 授業期間中、マッチングや採用に関わる実務者の経験をうかがうことで、日本の労働市場についての理解をより深める機会を設ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的、取り上げるテーマ、進め方についての説明。
第2回	ガイダンス（6時限目）・労働市場論の基礎①「労働市場とは」（7時限目）	ガイダンスー参加者の問題関心の共有、取り上げるテーマの検討 労働市場論の基礎①ー「労働市場」を捉える3つの観点、労働市場の参加者、労働市場の機能
第3回	労働市場論の基礎②「日本の労働市場の基本的枠組み」	職業安定法とハローワーク、職業紹介・労働者派遣をめぐる制度的枠組み、労働市場の「セーフティネット」
第4回	日本の労働市場の現状と課題①「労働市場の規制改革」	同一労働・同一賃金、残業時間規制、整理解雇の要件、解雇紛争の金銭解決制度、ポジティブ・リスト、ネガティブ・リスト、派遣労働者受け入れに関する期間制限、「失業なき労働移動」、ハローワークの求人・求職情報の開放、規制改革推進会議、日本再興戦略、働き方改革

第5回	日本の労働市場の現状と課題②「ホワイトカラー労働市場の流動化」	中途採用の増加、ミドル層ホワイトカラーの転職、企業の人材確保・キャリア管理の変化、ポテンシャル採用、即戦力採用、「35歳転職限界説」、エンプロイアビリティ、キャリア自律
第6回	日本の労働市場の現状と課題③「専門職の労働市場」	医療・介護職の労働市場、士業従事者の労働市場、研究・開発職の労働市場、企業内プロフェッショナル
第7回	日本の労働市場の現状と課題④「国際労働力移動に関わる制度・現状と課題」	外国人の採用と外国人労働者、日系人出稼ぎ労働者、労働許可制、入国管理制度、技能実習生、外国人技能実習機構、新たな在留資格、EPA、選択的移民政策
第8回	日本の労働市場の現状と課題⑤「女性就業者をめぐる労働市場」	M字カーブ、マミートラック、パートタイム労働、103万円の壁・130万円の壁、男女間賃金格差、女性の大学進学率、性別職域分離、統計的差別、男女雇用機会均等法、コース別採用、女性活躍推進法、アフターマティブ・アクション、ファミリー・フレンドリー、ワークライフバランス
第9回	日本の労働市場の現状と課題⑥「非正規化の進展と格差対策」	パートタイム労働者、擬似パート、「柔軟な企業」モデル、日経連の「雇用ポートフォリオ」、フリーター、正社員転換制度、無期転換ルール、壮年非正規労働者、8050問題、ハマキョウレックス事件
第10回	日本の労働市場の現状と課題⑦「民間のマッチングビジネス」	雇用・指揮命令をめぐる「三者関係」、派遣期間に関する規制の意味、「常用代替」、日雇い派遣、「派遣切り」、派遣労働者のキャリア形成、派遣元の雇用安定措置、偽装請負
第11回	日本の労働市場の現状と課題⑧「技術の変化・進化・革新と労働市場」	技術革新に伴う仕事・マッチングの変化、マッチング方法の変化、ME化、OA・FA化、IT化、IoT、AI、インダストリー4.0、Society5.0、HRテクノロジー
第12回	日本の労働市場の現状と課題⑨「中小企業の人手不足とマッチング支援」	二重構造、中小企業における働きがい／働きやすさ、中小企業の採用支援、ブラック企業、中小企業の後継者難、中小企業就業者の高齢化
第13回	日本の労働市場の現状と課題⑩「高齢化する労働市場」	高齢者雇用安定法、年金制度改革、雇用と年金の接続、雇用確保措置、長澤運輸事件、65歳定年制、出向・転籍、早期退職、アウトブレースメント、産業雇用安定センター、シルバー人材センター、NPO／ボランティア、高齢者の能力開発・意識改革
第14回	日本の労働市場の現状と課題⑪「労働市場における都市と地方」	年齢別・業種別などの観点から見た都市・地方の労働市場の特徴、マッチング・プロセスの相違、人材サービスの活動状況、地方ー都市間の労働移動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「授業の進め方と方法」にも記しているとおり、第4回目以降の授業は、「講義」と「演習」を組み合わせて進めていきますが、「演習」は参加者の作成したレポートに基づいて行ないます。参加者には、毎回、テーマに関連する労働市場の現状と課題、及び個人的な問題意識について「A4一枚程度のレポート」にまとめてもらい、各回参加者人数分のコピーを持参してもらいます。このレポートは、インターネット上で収集可能な諸情報や勤務先のケーススタディをベースに現状を捉え、自らの問題関心を簡単に取りまとめるかたちで結構です。作業のイメージができなければ、各回の授業の前に「トピック・キーワード」を担当教員から発表しますので、そのキーワードを参考に、インターネットで検索してまとめてみて下さい。それらレポートの中から担当教員が「的確な論点整理をしているもの」を3～4名選び、それぞれ内容について報告を求めつつディスカッションを行います。報告指名が増えるよう、積極的なレポート準備を期待します。

また、報告者以外の参加者にも各回必ず討議への参加（発言）を求めますので、そのための準備（考え方の整理や事例の把握など）が必要になります。

【テキスト（教科書）】

講義全般を通じての基本テキストは特には指定しません。

【参考書】

毎回、次の回のテーマの参考となる文献・資料等を、提示します。

【成績評価の方法と基準】

1. 各回の出席を「授業における学習姿勢」として評価します。（第2回目以降。2点×出席回数）
2. 第4回目以降の各回におけるレポートの提出を評価します。（3点×提出回数）
3. 出席、レポート提出に加えて、演習での「レポート報告」を評価します。（15点×担当教員の指名により授業内で報告した回数）

以上の3つの評価項目において

- 「授業における学習姿勢」（上限26点）
- 「演習時のレポート全提出」（上限33点）
- 3回の「レポート報告」（45点）

を達成すれば、100点（A+）に到達するというイメージです。

【学生の意見等からの気づき】

1.「講義」では、日本の労働市場に関わる多種多様なテーマについて、①現状を左右する制度的な枠組み、②各テーマに関わる現象の経済・社会全体における位置付け、③それぞれのテーマに関わる当事者（企業、労働者、政策当局など）の活動・意向を、データに基づきながら、わかりやすく、具体的に説明し、労働市場の問題を立体的・複眼的にとらえるきっかけを提供していきます。

2.「演習」では、「講義」の内容と、参加者のこれまでの経験や関心を踏まえて、日本の労働市場の活性化やよりよいあり方につながる今後の取組みについて、活発に議論していきたいと考えています。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

産業社会学、人的資源管理論

<研究テーマ>

- ①中小企業セクターで働く人々の意識とキャリア形成に向けての活動。
- ②能力開発、労働市場に関する社会的インフラ（公共職業訓練制度、資格・検定制度など）の機能。
- ③環境変化のもとでの日本企業の能力開発活動、キャリア管理。

<主要研究業績>

（書籍【共著】）

○労働政策研究・研修機構編 [2012]『中小企業における人材育成・能力開発』、労働政策研究・研修機構。

○労働政策研究・研修機構編 [2014]『求職者支援制度に関する調査研究—訓練実施機関についての調査・分析—』、労働政策研究・研修機構。

○労働政策研究・研修機構編 [2017]『日本企業における人材育成・能力開発・キャリア管理』、労働政策研究・研修機構。

（論文）

○藤本真 [2011]「60歳以降の勤続をめぐる実態—企業による継続雇用の取組みと高齢労働者の意識・行動」、日本労働研究雑誌 No.616。

○藤本真 [2012]「民間教育訓練プロバイダーにおける教育訓練サービスの改善活動—サービス改善に向けた活動を規定する要因」、日本労働研究雑誌 No.619。

○藤本真 [2018]「『キャリア自律』はどんな企業で進められるのか」、日本労働研究雑誌 No.691。

【Outline and objectives】

The actual labor market is never structured by a simple market mechanism. It has received numerous constraints from the "institution" that was reflected in the society, culture, politics and economy of the country/region. It is a social system that has been formed over a long process.

In the lesson, we try to understand the structure and current situation of Japanese labor market from an institutional approach. Specifically, with the theme of employment introduction, worker dispatch, matching business, and so on, we will consider the structure and scale of the market, the regulation, and the impact of globalization and aging.

MAN500F1 - 0072

労使コミュニケーション論

呉 学殊

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本における労使コミュニケーションの実態と問題点を把握して望ましいあり方を探ってその実践に向けた企業、労働組合、政府のなすべき方向性を具体的に認識する。

【到達目標】

企業の労使コミュニケーションの実態を把握できる思考力を得る。
労使コミュニケーションの経営資源性の内容を把握できる。
労使コミュニケーションを中心に企業、労働組合、国のあり方を的確に認識できる。
社会の望ましいあり方を考える力を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

基本的に学生は講師の書いた本、論文、報告書を毎回読んで報告して議論する。講師は、論文等の執筆背景等を述べて議論を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション (1)	授業の基本的な方針について述べて学生からコメントを頂き方向性を確定する
第 2 回	オリエンテーション (2)	授業で取り上げる講師の本、論文、報告書について概略的にその内容を紹介する
第 3 回	日本の労使コミュニケーションの実態・問題点 (1)	日本の内部労働市場、国際比較等から労使コミュニケーションの問題点を明らかにする
第 4 回	日本の労使コミュニケーションの実態・問題点 (2)	労働組合の組織率、従業員過半数代表制の問題点を明らかにする
第 5 回	日本の労使コミュニケーションの方向性 (1)	問題点の解決に繋がる法的な措置のあり方を探る
第 6 回	日本の労使コミュニケーションの方向性 (2)	諸外国の法制を紹介しながらより具体的に法的な組織の内容を考える
第 7 回	労働組合結成と労使関係及び企業経営の変化 (1)	労働組合の結成の実態、結成に伴う労使関係の変化を確認する
第 8 回	労働組合結成と労使関係及び企業経営の変化 (2)	労働組合結成効果を考える
第 9 回	パートタイマーの組織化と異見反映システム (1)	非正規労働者問題の実態と労働組合の組織化実態
第 10 回	パートタイマーの組織化と異見反映システム (2)	組織化戦略の違いがどう現れてその結果はどのようなものを学ぶ
第 11 回	CSR と企業別組合の役割 (1)	CSR の内容と動向
第 12 回	CSR と企業別組合の役割 (2)	企業別組合が CSR におけるどのような役割を果たせるかを学ぶ
第 13 回	企業グループ連結経営と人事労務管理 (1)	個別企業の事例を取り上げて、企業グループ経営の実態を把握する
第 14 回	企業グループ連結経営と人事労務管理 (2)	企業グループ経営に伴う人事労務管理の変化や課題、また、労使関係の変化を学ぶ
第 15 回	純粋持株会社企業グループの労使関係 (1)	4 つの純粋持株会社企業グループにおける労使関係の多様性を把握する
第 16 回	純粋持株会社企業グループの労使関係 (2)	4 つの純粋持株会社企業グループにおける労使関係の多様性について議論と理解を深める
第 17 回	企業グループの労使関係の望ましい姿 (1)	企業グループの労使関係の望ましい姿の事例を把握する
第 18 回	企業グループの労使関係の望ましい姿 (2)	企業グループの労使関係の望ましい姿についての討論を通じて、その姿の波及可能性を探る
第 19 回	中小企業の労使コミュニケーション (1)	中小企業の労使コミュニケーションの実態についてアンケート調査結果から学ぶ
第 20 回	中小企業の労使コミュニケーション (2)	中小企業の労使コミュニケーションの多様性について議論を通じて理解力を高める

第 21 回	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例 (1)	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例の実態を学ぶ
第 22 回	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例 (2)	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例から労使コミュニケーションの経営資源性を理解する
第 23 回	個別労働紛争の実態と解決 (1)	個別労働紛争の実態をヒアリング調査とアンケート調査から理解する
第 24 回	個別労働紛争の実態と解決 (2)	個別労働紛争の解決・予防におけるユニオン・合同労組の役割・意義について討論を通じて理解度を高める
第 25 回	事例発表 (1)	受講生の事例を発表して、労使コミュニケーションの実態、経営資源性、課題等について認識を共有する
第 26 回	事例発表 (2)	受講生の事例を発表して、労使コミュニケーションの実態、経営資源性、課題等について認識を共有する
第 27 回	労使コミュニケーションの経営資源性 (1)	労使コミュニケーションの経営資源性を発揮するために必要な課題を労使関係の実態、法制等の観点から探り、解決への認識を高める
第 28 回	労使コミュニケーションの経営資源性 (2)	労使コミュニケーションの経営資源性を発揮するために想像力を高めて、その実現可能性を目指す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌週に発表する論文等を読むこと

【テキスト（教科書）】

呉学殊（2013）『労使関係のフロンティアー労働組合の羅針盤』（増補版）労働政策研究・研修機構、本体定価 3500 円。
労働政策研究・研修機構（2013）『労使コミュニケーションの経営資源性と課題』労働政策研究・研修機構。

【参考書】

下記、講師の勤め先 HP
<http://www.jil.go.jp/profile/ohhs.html>

【成績評価の方法と基準】

授業発表内容（30 %）
授業への貢献度：出席、積極的な発言（30 %）
レポート（自分の事例発表をベースにしたもの）（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

今後自分の職場における労使コミュニケーションの改善と日本の本質的な再生に向けた授業と考えると積極的に参加してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

特にない。

【その他の重要事項】

ない。

【労使コミュニケーション論】

<専門領域> 労使関係論、産業社会学
<研究テーマ> 労使関係、CSR、労働組合の組織化、企業組織再編
<主要研究業績> 次のサイトをご参照
<http://www.jil.go.jp/profile/ohhs.html>

【Outline and objectives】

This class aims to understand the actual conditions and problems of labor-management communication in Japan, and to explore desirable ways and specifically recognize the direction that companies, labor unions and governments should take for practicing.

MAN500F1 - 0074

組織行動論

西川 真規子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織という場における個人の態度や行動、人と人との関係性において生じるさまざまな問題・課題について、心理学、社会心理学、社会学等の学際的なアプローチを用いて理解を深め、解決・改善をはかるのが組織行動論である。この授業の目的は、このような組織行動論の基本的アプローチを理解し、組織行動に関わる主要概念・理論を学習した上で、組織の現場へ応用する力を身に付けていくことにある。

【到達目標】

- ①組織の現場で生じる「ひと」に関わる現象について、社会科学の概念・理論を通じて客観的に捉えられるようになる
- ②自らの職場における組織行動上の課題・問題を抽出し、関連する先行研究を参照し、課題・問題を分析（診断）できる
- ③②の分析（診断）結果をもとに、職場の「ひと」に関わる課題・問題の有効な改善・解決策を提示できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は以下 3 つの活動によって構成される

- ① 講義や専門文献の読解を通じて組織行動に関する基礎理論や応用を学ぶ
 - ② 受講者自らの組織体験、他の受講生の体験の共有をはかり、これらに対する討議を通じて、現場での「ひと」に関わる現象を組織行動の視点から客観的に振り返る
 - ③ 受講者自らが所属する組織の「ひと」に関わる課題・問題について先行研究を参考にしつつ分析し、解決・改善策をレポートとしてまとめる
- 尚、授業で取り上げる専門文献*は主に英語の文献であるが、授業（講義や発表、議論）、レポートは日本語を使用する。*授業開始時に指定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	組織行動論とは
2	社会科学のアプローチ	社会科学（特に社会心理学、社会学）のアプローチを理解する
3	リーダーシップ	リーダーシップの主要論文を取り上げ読解・議論
4	モチベーション 1	モチベーションの主要論文を取り上げ読解・議論
5	モチベーション 2	モチベーションの主要論文を取り上げ読解・議論
6	中間発表	これまでの学習を踏まえて自らの課題を分析
7	集団	集団メンバーとしての個人のふるまいについて考察
8	集団間関係	集団間関係についての主要論文を読解・議論
9	チーム	チームについての主要論文を読解・議論
10	集団からの影響	集団が個人に及ぼす影響について分析
11	集団と個人の関係性	集団と個人の関係性について主要論文を読解・議論
12	パワーと影響力	パワーと影響力について主要論文を読解・議論
13	組織変革	組織変革に関する主要論文を読解・議論
14	まとめ レポート発表	これまでの学習のまとめ 自らの職場の課題についての分析結果と改善策を提示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 専門文献（論文）の読解：発表担当者を指定するので、担当者は資料を事前に準備する。担当者以外も事前に予習の上、分からない箇所、質問等を準備して討議に備える。
- ② 各回の学習内容を生かし、自らの組織課題の改善策を適宜修正する。

【テキスト（教科書）】

Classic Readings in Organizational Behavior, 4th edition by J. Stenven Ott, Sandra J. Parkes & Richard B. Simpson, Wadworth, 2008
(ISBN-10: 0495-09474-9 ISBN-13: 978-0-495-09474-6)

【参考書】

（以下は参考書であり購入の必要はない）
『社会心理学キーワード』、山岸俊男編、有斐閣双書、2001 年

Essentials of Organizational Behavior 14th edition by Stephen P. Robbins & Timothy A. Judge, Pearson, 2017

『組織学説の偉人たち』、デリック・ビュー、デービッド・ヒクソン（著）、北野利信（訳）、有斐閣、2003 年

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の準備・発表・討議への参加（授業への貢献） 50 点

レポート 50 点（レポートは、組織で生じる事象を客観的に捉えられているか、理論・概念を正確に理解・応用しメカニズムの解明がなされているか、メカニズムの解明に沿って実践可能な解決策が提示されているか、にて評価。）

【学生の意見等からの気づき】

専門知識の理解にとどまらず応用力が身につくという本授業のメリットをさらに強化していく。進行速度が速いとの指摘を受け、受講生の習熟度に合わせより丁寧な講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等に授業支援システムを利用するので受講者は授業開始後速やかに授業支援システムへ登録のこと。

【その他の重要事項】

この授業は就業経験を有する社会人院生を対象とする。授業では受講生のこれまでの就業体験の振り返りや実際の就業現場での生きたデータの参照を必要とする。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 組織行動論、経済社会学

<研究テーマ> ジェンダーと労働、労働と生活の質、職務態度

<主要研究業績>

①「市場労働とケア労働の関係性—行動、認知、心理レベルでの考察」『経営志林』2016 年 第 53 巻 2 号

②「よりよい働き方とは：雇用の質への試験的アプローチ」『日本労働研究雑誌』2013 年 No.632

③“(Re)defining Care Workers as Knowledge Workers”, *Gender, Work and Organization*, Vol.18 No.1 January 2011

④『ケアワーク 支える力をどう育むか：スキル習得の仕組みとワークライフバランス』日本経済新聞出版社 2008 年

⑤「感情労働とその評価」『大原社会問題研究所雑誌』2006 年 No.567

【Outline and objectives】

Organizational behavior seeks to understand human behavior in organizational contexts. Students will learn the approaches of organizational behavior, by studying concepts and theories mainly developed in the field of psychology, social psychology, and sociology. Students will also acquire the knowledge and skills to analyse problems found in their organizations and to propose prospective solutions to the problems.

MAN500F1 - 0075

経営情報論

岸 真理子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営情報論は、経営の視点から、企業を中心に様々な組織の情報処理活動について、これまで培われてきた理論やモデルを学び、これを応用し発展させると同時に、実際の組織の情報処理活動の事例から、実践的知見を得ること、これを一般化しようとする学問領域です。

この授業では、ICT(情報技術) 環境を前提とし、組織がいかにして有効な情報処理システムとして機能し得るのかについて考察することを目的としています。

【到達目標】

経営情報論は、理論と実践とを相互作用させ、その相乗効果によってレベルアップを図っていく独特の学問領域です。

この授業では、経営情報論の主要なテーマについて基礎となる理論や概念を学び、これらを実際の企業活動の様々な事例に応用することで、どのようにして企業組織が一つの有効な情報処理システムとして機能し得るのかについて、理論から実践へと向かう領域について検討できるようになるとともに、実際の企業事例の詳細な分析によって、実践から得られた知見を理論にフィードバックし、これを発展させていく領域にも目を向けることを学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

各回とも演習形式で行いますので、授業内での発表や議論が中心となります。理論や概念を理解し、それらを用いて実際の企業の事例を丁寧に分析する力を養うとともに、受講者自身やゲスト・スピーカーによる生きた事例の紹介とディスカッションから、実践的知見を一般化に向けて考察する発想も学びます。

事前に与えられた関連課題についての報告会も実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容と方法の確認 経営情報論の学問領域 経営情報論への接近方法
2	組織と情報処理	情報処理システムとしての組織
3	技術と組織	技術とアクション 組織と組織化
4	組織の解釈と意思決定	組織の解釈 問題解決と意思決定プロセス
5	ケース・スタディ（1）	ゲスト・スピーカーによる事例紹介と分析
6	組織のコミュニケーション	コミュニケーション・モデル ICT によるコミュニケーション
7	デジタル・メディアと相互理解	アナログ・メディアとデジタル・メディア メディア能力の組織的開発
8	ケース・スタディ（2）	ゲスト・スピーカーによる事例紹介と分析
9	競争戦略と情報活用	ポジショニング・ビューと SIS 資源ベース・ビューと IT ケイパビリティ
10	知識の創造と活用	ナレッジ・マネジメント 知識創造理論 場の創設と活用
11	ケース・スタディ（3）	ゲスト・スピーカーによる事例紹介と分析
12	組織コンテキストの共有	ICT と組織間関係の変化
13	情報処理システムとしての組織再考	理論と実践の相互作用・相乗効果
14	課題についての報告会	課題報告、レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

理論や概念の理解と事例分析に積極的に参加できるよう、予め指定された教材を学習して授業の臨むことが求められます。

授業の詳細や報告会の課題については、初回のイントロダクションにおいて説明されます。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しませんが、初回のイントロダクションにおいて、毎回ごとに主要教材が指定されます。

【参考書】

初回のイントロダクションにおいて、毎回ごとに参考教材一覧が提示されます。

【成績評価の方法と基準】

成績評価配分は下記のとおりです。

- ・平常点（発言の頻度や内容、議論への貢献度）：30 %
- ・発表内容：40 %
- ・レポート内容：30 %

【学生の意見等からの気づき】

ゲスト・スピーカーによるスピーチとディスカッションは好評により継続します。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 経営情報論、経営組織論

＜研究テーマ＞ 組織のコミュニケーション、ICT と組織の情報処理

＜関連研究業績＞

- ①『経営情報学入門』（共編著、放送大学振興会、2019 年）
- ②『経営情報論（新版補訂）』（共著、有斐閣、2015 年）
- ③『メディア・リッチネス理論の再構想』（中央経済社、2014 年）
- ④ Perceptions and use of electronic media: Testing the relationship between organizational interpretational differences and media richness, Information and Management 45(5), 2008.
- ⑤『情報技術を活かす組織能力ー IT ケイパビリティの事例研究ー』（共編著、中央経済社、2004 年）

【Outline and objectives】

Organizations and Information Management involves learning the theories and models of corporate information processing, applying it to practice and developing it, and at the same time obtaining practical knowledge from actual cases of organizational information processing activities to generalize into an academic field.

The purpose of this course is to learn about how an organization works as an effective information processing system on the premise of the ICT environment.

MAN600F1 - 0078

マーケティング演習

長谷川 翔平

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

【参考書】

指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】

スケジュール管理に留意する。

【Outline and objectives】

This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 - 0078

マーケティング演習

長谷川 翔平

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしてい

【到達目標】

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

【参考書】

指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】

スケジュール管理に留意する。

【Outline and objectives】

This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 - 0078

マーケティング演習

西川 英彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしてい

【到達目標】

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を指

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

【参考書】

指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】

スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング

<研究テーマ>

クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）

<主要研究業績>

著書に、『1からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『1からの商品企画』（編著、碩学舎）、『1からの消費者行動』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。

論文に、「共創志向と競争志向は、ユーザー・イノベーションに有効か：ミニ四駆のイノベーション・コミュニティ」（共著、『マーケティングジャーナル』36(4)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、*Journal of Marketing Research*, 54(4)）、"User-Generated Versus Designer-Generated Products: A Performance Assessment at Muji,"（共著、*International Journal of Research in Marketing*, 30(2)）など。

<研究室サイト>

<http://nlab.ws.hosei.ac.jp/>

【Outline and objectives】

This exercise is to provide research guidance for preparing master's thesis on marketing. We will combine practical problem consciousness with marketing theory, conduct highly original research, and make a paper.

MAN600F1 - 0078

マーケティング演習

西川 英彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

【参考書】

指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】

スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング

<研究テーマ>

クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）

<主要研究業績>

著書に、『1からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『1からの商品企画』（編著、碩学舎）、『1からの消費者行動』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。

論文に、「共創志向と競争志向は、ユーザー・イノベーションに有効か：ミニ四駆のイノベーション・コミュニティ」（共著、『マーケティングジャーナル』36(4)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、『Journal of Marketing Research』, 54(4)）、"User-Generated Versus Designer-Generated Products: A Performance Assessment at Muji,"（共著、『International Journal of Research in Marketing』, 30(2)）など。

<研究室サイト>

<http://nlab.ws.hosei.ac.jp/>

【Outline and objectives】

This exercise is to provide research guidance for preparing master's thesis on marketing. We will combine practical problem consciousness with marketing theory, conduct highly original research, and make a paper.

MAN600F1 - 0078

マーケティング演習

新倉 貴士

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

【参考書】

指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】

スケジュール管理に留意する。

【Outline and objectives】

This seminar aims to complete the master thesis.

MAN600F1 - 0078

マーケティング演習

新倉 貴士

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

【参考書】

指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】

スケジュール管理に留意する。

【Outline and objectives】

This seminar aims to complete the master thesis.

MAN600F1 - 0078

マーケティング演習

木村 純子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

【参考書】

指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】

スケジュール管理に留意する。

【Outline and objectives】

This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 - 0078

マーケティング演習

木村 純子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしてい

【到達目標】

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

【参考書】

指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】

スケジュール管理に留意する。

【Outline and objectives】

This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 - 0078

マーケティング演習

横山 斉理

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしてい

【到達目標】

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

【参考書】

指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】

スケジュール管理に留意する。

【Outline and objectives】

This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 - 0078

マーケティング演習

横山 斉理

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

【参考書】

指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】

スケジュール管理に留意する。

【Outline and objectives】

This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN500F1 - 0079

ワークショップ（マーケティング）

小林 健一

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「マーケティングと IT」

IT の進化により、マーケティング領域においても、意思決定に資する情報量の増加、情報の種類の拡大、分析加工技術の高度化が日々進行しています。

例えば、購買実態を把握する、ターゲットのプロフィールを明確化する、というマーケティングの基本動作も、かつてない種類と量の情報をかつてないスピードで分析することが可能になりました。

マーケティングとシステム、マーケティングと IT の融合は、今後ますます進化しながら、マーケティングそのものを変えていくものと思われます。

本ワークショップでは、これらの情報環境の変化や技術の進化によって、**伝統的なマーケティング（特にマーケティング戦略立案等マーケティング意思決定プロセスの上流行程）の何が変わり、何が変わらないのか、また、これからのマーケティングに求められる知識・能力・スキルとは何なのかを、現場最前線の方々から最新の情報をご紹介いただくことにより、明らかにします。**

【到達目標】

- ① マーケティングにおける IT 活用の現状と可能性を説明できる。
- ② マーケティングにおける IT 活用の事例をあげることができる。
- ③ これからのマーケティングに求められる知識・能力・スキルについて自分なりの考え方を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

●さまざまな領域でマーケティングにおける IT 活用を実践している現場の方々（ゲスト講師）からお話をうかがいます。

●ゲスト講師の講義（約2時間）の後、質疑応答/ディスカッションの時間を設けます。

●授業からの学びを確認記録するため、ゲスト講師のお話から得た自身の気づきをレポートにまとめていただきます。（授業終了後1週間以内に提出）

●以下の授業計画は **2018 年度の実績に基づくものです。2019 年度のゲストは、昨年度のゲストも含めて、今後の交渉によって決定します。そのため、授業計画とスケジュールが変更になる可能性が大きく、詳細は第 1 回目の授業時に説明します。**

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の問題意識説明 ゲスト講師紹介 受講生の自己紹介等
第2回	ゲスト講師① 岡野 雅一氏 Twitter Japan Marketing Insight & Analytics, Director	「IT とマーケティング、その関係性を俯瞰する」
第3回	ゲスト講師② 元木 剛氏 日本アイビーエム（株） ワトソン・ソリューション担当 理事	「人工知能技術活用の現在とマーケティング領域における可能性」
第4回	ゲスト講師③ 渡邊 信彦氏 (株) Psychic VR Lab 取締役 COO	「ビジネス視点での VR」
第5回	ゲスト講師④ 宮坂 祐氏 (株) ビービット エグゼクティブマネージャ /エバンジェリスト	「デジタル時代の UX 起点マーケティング」
第6回	ゲスト講師⑤ 草野 隆史氏 (株) ブレインパッド 代表取締役会長 データサイエンティスト協会 代表理事	「データ分析とマーケティング」

第7回	ゲスト講師⑥ 得丸 英俊氏 電通アイソバー（株） 代表取締役社長	「デジタルマーケティングとエージェンシービジネスの変容」
第8回	ゲスト講師⑦ 小川 誠氏（株）イ オレ 代表取締役副社長	「DMPを活用したマーケティング手法とその将来」
第9回	ゲスト講師⑧ 渥美 俊英氏 一般社 団法人日本クラウドセ キュリティアライアンス 副会長	「クラウドが変える IT の今と未来」
第10回	ゲスト講師⑨ 鈴木一彦氏 (株) クリエイティブ・ブ レインス 代表取締役	「マーケティングリサーチの新しい潮流」
第11回	ゲスト講師⑩ 鈴木 仁氏 弥生（株） マーケティング部 副部長	「マーケティングと IT マーケティングの現場から」
第12回	ゲスト講師⑪ 真鍋 亮平氏 (株) 電通 第5 C R プランニング局 統括クリエイティブ・ ディレクター	「オンライン動画広告プランニングの潮流」
第13回	授業の振り返り① ディスカッション	グループディスカッション
第14回	プレゼンテーション 授業の振り返り②	グループプレゼンテーションと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●次回テーマに関する事前情報収集。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。講師及びゲスト講師が用意したスライド等の素材は、可能な限り授業支援システムで共有します。

【参考書】

特に使用しません。

【成績評価の方法と基準】

出席はとりませんが、レポート提出 8 回以上、およびグループワーク/グループプレゼンへの参加を前提として、レポート 70 %、グループワークの成果 30 %、の比率で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

●ゲスト講師とのディスカッションの時間をもう少し長くにとって欲しい、との声があるため、授業最後の 30 分はディスカッションに時間を使いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報共有/整理のため、できる限り PC を持参してください。

【その他の重要事項】

この領域の今後の可能性に関する積極的な提言や、可能性を探るための議論への積極的な関与を期待します。

【担当教員の専門分野等】

小林健一
(株) 電通 IMC プランニングセンター長を経て
(株) 電通マーケティングインサイト代表取締役社長（～ 2013 年）
2014 年～ 2019 年 法政大学経営学部教授
〈専門領域〉 広告論 マーケティング論
〈研究テーマ〉 コーポレートブランド 企業広告史 CRM
〈主要研究業績〉
「なぜ今、「IMC ver.2.0」なのか」 ADVERTISING 2005 年
「企業広告考～企業・社会・個人の関係から」 日経広告手帖 2004 年
「金融ビッグバンで変わる顧客の意識」 月刊金融ジャーナル 1999 年

【Outline and objectives】

Marketing and IT

In this workshop, we will clarify the following two points by introducing the latest information from the forefront of the field.

- (1) Going forward what impact will the change in information environment and technology have on traditional marketing (especially the upstream course of marketing decision making process such as marketing strategy planning)?
- (2) Going forward what is the knowledge, ability and skill required for future marketers?

MAN500F1 - 0080

マーケティング論

剣持 真

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・コトラーのテキストに沿ってマーケティング戦略の基本的な理論、考え方、実務社会での応用方法について学ぶ。
・発表の機会によりプレゼンテーション・スキルの向上を図るとともに、ディスカッションを通じて多面的な角度から問題を掘り下げる能力を身につける。

【到達目標】

・マーケティング戦略に関する理論、考え方について、網羅的に自ら説明できるレベルに達する。
・マーケティング理論を実務に応用してマーケティング戦略を検討できるレベルに達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

・2 時限続きで 14 回開講します。
・テキストの第 1 章～第 14 章はレクチャー形式で行います。
・受講生には各章末にある「ディスカッション」を担当していただきます。予めプレゼンテーションファイルとハンドアウトを用意し、討議のためのケースを紹介してください。その後、クラス全員で発表内容などについて検討します。
・「マーケティングと社会的責任」（第 15 章）をテーマに、革新的なマーケティング事例に関するグループワークをしていただきます。その内容を第 14 回授業でプレゼンテーションしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	①イントロダクション、オリエンテーション ②第 1 章：マーケティングの本質	①授業の進め方、自己紹介、分担決定、文献の調査方法について、など。 ②マーケティングの定義、およびマーケティングの 5 つのステップについて学ぶ。
第 2 回	①第 2 章：企業とマーケティング戦略 ②第 3 章：競争優位の創造	①マーケティングのステップ 2「顧客主導型マーケティング戦略の設計」およびステップ 3「マーケティング・プログラムの設計」について学ぶ。 ②競合分析と競争的マーケティング戦略に関して学ぶ。
第 3 回	①第 4 章：マーケティングの基本枠組み ②ディスカッション	①顧客主導型マーケティングの基本的枠組みである STP(セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング)について学ぶ。 ②ニッチマーケティング実践企業等のディスカッション。
第 4 回	①第 5 章：マーケティング情報とカスタマー・インサイト ②ディスカッション	①様々なマーケティング情報とその情報収集方法であるマーケティング・リサーチに関して学ぶ。 ②マーケティング・リサーチ等のケース・スタディ・ディスカッション。
第 5 回	①第 6 章：消費者の購買行動 ②ディスカッション	①消費者の購買行動に影響を与える文化的・社会的・個人的・心理的要因について学ぶ。 ②新製品の普及速度と製品特性等のディスカッション。
第 6 回	①第 7 章：製品、サービス、ブランド ②ディスカッション	①マーケティングミックスの 4P の内の一、Product(製品・サービス・ブランド) 戦略に関して学ぶ。 ②ブランド拡張の成功例・失敗例等のディスカッション。
第 7 回	①第 8 章：新製品開発と製品ライフサイクル戦略 ②ディスカッション	① Product 戦略において重要な役割を担う新製品開発のプロセスについて学ぶ。 ②製品ライフサイクルの延命成功事例等のディスカッション。
第 8 回	①第 9 章：マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供 ②ディスカッション	①マーケティングミックスの 4P の内の一、Place(チャネル) 戦略に関して学ぶ。 ②開放的流通、排他的流通、選択的流通の長所と短所等のディスカッション。

第 9 回	①第 10 章：価格設定 ②ディスカッション	①マーケティングミックスの 4P の内の一つ、 Price(価格) 戦略に関して学ぶ。 ②コストベース、顧客価値ベース、競争ベースの価格設定の長所と短所等のディスカッション。
第 10 回	①第 11 章：コミュニケーションによる顧客価値の説得 ②ディスカッション	①マーケティングミックスの 4P の内の一つ、 Promotion(コミュニケーション) 戦略に関して学ぶ。 ②購買準備段階に応じたマーケティング・コミュニケーション事例等のディスカッション。
第 11 回	①第 12 章：広告とパブリック・リレーションズ ②ディスカッション	① Promotion 戦略において重要な役割を担う広告、 PR(パブリック・リレーションズ) について学ぶ。 ②消費者生成型広告の長所と短所等のディスカッション。
第 12 回	①第 13 章：人的販売と販売促進 ②ディスカッション	① Promotion 戦略において重要な役割を担う人的販売、販売促進について学ぶ。 ②モバイルを用いた消費者向けセールス・プロモーション事例等のディスカッション
第 13 回	①第 14 章：ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング ②研究手法と修論について	①近年の IT 化の進展に伴い欠かすことのできなくなったダイレクト・マーケティング、オンライン・マーケティングに関して学ぶ。 ② OB・OG をゲストスピーカーとして迎え、修論完成に至るスケジュールやプロセス、心構えについて学ぶ。 「マーケティングと社会的責任」(第 15 章) をテーマに、グループワークによる研究結果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。
第 14 回	グループワーク発表会	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストの予習をして内容を理解しておいてください。
- ・テキストにあるディスカッションテーマについて目を通し、ディスカッションに備えてください。
- ・担当する回にはパワーポイントファイル、ハンドアウトを準備・持参して発表してください。
- ・「マーケティングと社会的責任」をテーマに革新的なマーケティング事例を選定し、グループワークを行ってください。

【テキスト（教科書）】

フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩蔵直人『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版、2014/3/4. ISBN-10:4621066226 ISBN-13:978-4621066225 ￥5,184

【参考書】

- ・授業では原著を使用しません。最新事例などは以下の書籍を参考にしてください。
- Kotler, Philip & Gary Armstrong, Principles of Marketing, Global ed, Pearson Education, 2015/4/2 ISBN-10:1292092483, ISBN-13:978-1292092485 ￥11,653
- ・マーケティング・コースの修了生 (OB・OG) が執筆した以下の書籍を修士論文 (研究) の参考にしてください。
- 竹内淑恵著 (2014)『リレーションシップのマネジメント』文真堂, 2014/4/8. ISBN-10:4830947977 ISBN-13:978-4830947971 ￥2,808

【成績評価の方法と基準】

- ・担当する各章のプレゼンテーション内容 (40%)
- ・クラス討議への参加度、貢献度 (30%)
- ・グループワークによる事例発表 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

- 昨年以前に同様のプログラムにおいて受講した学生からの意見は以下の通りです。
- ・翻訳文をテキストとし英語の原著は参考書とした方が良い。
- ・ゲストスピーカーとして **OB・OG** を招いた講義において、研究手法について説明してほしい。
- ・毎回のディスカッションで実務との関連が明確になった。

【学生が準備すべき機器他】

担当回にパワーポイントのファイルを **USB** メモリで持参してください。

【その他の重要事項】

- ・マーケティング・コースの学生は、ワークショップ (マーケティング)、消費者行動論、マーケティング・リサーチ論、製品開発論を履修することをお勧めします。
- ・修士論文で定量分析を活用した研究を行おうとしている学生は、統計データ解析を履修することをお勧めします。

【担当教員の専門分野等】

- <専門領域>マーケティング論、マーケティング・リサーチ論、消費者行動論
- <研究テーマ>顧客ロイヤルティ、顧客満足、小売マーケティング、ブランド・コミュニティ
- <主要研究業績>

- ①剣持真 (2018)『小売マーケティングにおける顧客ロイヤルティ活性化の研究』, 法政大学博士論文.
- ②剣持真 (2017c)「顧客ロイヤルティの先行要因・結果行動」『みずほ情報総研レポート』, 14, 50-68.

③剣持真 (2017b)「小売業におけるロイヤルティと顧客コミュニティ」『日本商業学会第 67 回全国研究大会報告論集 - 2017 年 -』, 127-136.

④剣持真 (2017a)「小売業ロイヤル顧客におけるブランド・コミュニティ参加の先行要因」『法政大学大学院紀要』, 78, 49-67

⑤剣持真 (2016b)「態度ロイヤルティ状況を考慮した行動ロイヤルティ向上プログラムの効果測定」『プロモーション・マーケティング研究 平成 27 年度研究助成論文集』, 9, 7-26.

⑥剣持真 (2016a)「熱中のロイヤル顧客におけるロイヤルティの先行要因・結果要因形成モデルの構築」『第 52 回消費者行動研究コンファレンス報告要旨集』, 28-31.

⑦剣持真 (2015)「ロイヤルティとコミットメントの視点による消費者行動分析とマーケティング・プログラムの研究」『第 51 回消費者行動研究コンファレンス報告要旨集』, 36-39.

⑧剣持真 (2008)「ポイントカード続々導入の秘密」『フジサンケイビジネスアイ』, 2008 年 2 月 7 日, 13 面.

【Outline and objectives】

Learn the basic theory and the way of thinking of the marketing strategy and how to apply them in practical society according to Kotler's text.

The students develop the presentation skills through presentation opportunities and acquire the ability to delve into problems from a multifaceted angle through discussions.

MAN500F1 - 0081

消費者行動論

新倉 貴士

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

消費者行動に関する体系的な知識の獲得ができるように講義をします。マーケティング戦略の策定と実施には、消費者に関する知識が不可欠となります。講義では、消費者の認知・態度・行動とマーケティング戦略との対応づけを意識しながら、また修士論文の作成に向けて必要となる基礎的な知識を組み込み構成します。

履修生は、消費者行動に関する基礎的な知識の獲得と、実践的なマーケティング戦略を意識した消費者知識の獲得を目指してください。

【到達目標】

消費者の認知側面と感情的な態度側面を意識し、実際の行動側面との関係を考えてながら、理想的なマーケティング戦略の構築と実践を描けるよう努力して下さい。そのために履修者は、①消費者行動に関する体系的な知識を獲得できるよう、②消費者行動に関する概念や理論を理解することができるよう、③消費者行動とマーケティング戦略との関係が理解できるよう、努力してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本講義では、マーケティングの基礎となる消費者の理解を目的とするために、消費者に関する体系的な知識と2018年までの歴史的な展開を講義します。また、ケースディスカッションにより、実践的な消費者知識を体得します。さらに、修士論文の作成に向けて、消費者研究の論文について講読し考察します。消費者行動論では、単に消費者の顕示的な行動を捉えるだけではなく、潜在的な認知や態度を理解することによって、それらの連鎖的な関係を捉えていきます。これによって、消費者行動の規定要因とマーケティング戦略との関係を考察することができます。

第1回～第2回は、授業ガイダンスと本講義の体系を概説します。第3回～第4回は、マーケティングにおける消費者行動の位置づけを確認します。第5回～第6回は、消費者行動論の歴史的な展開を説明します。第7回～第10回は、消費者行動のモデルについて説明します。第11回～第15回は、具体的な情報処理とその規定要因について説明します。第16回～第18回は、消費者とブランドとの関係について説明します。第19回～第24回は、ケースディスカッションを行いながら、消費者の情報処理とブランドマーケティングについて理解します。第25回～第26回は、修士論文作成のための準備をします。第27回は、授業の総括を行います。第28回は、授業の理解度を確認する最終試験を行い、終了後に解説とフィードバックを行います。

毎回、資料やケースを配布する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	講義の進め方や学習の方法に関する説明をします。
第2回	消費者行動論の概説	当科目の体系的な解説をします。
第3回	消費者行動とマーケティング1	マーケティングにおける消費者行動の位置づけを説明します。
第4回	消費者行動とマーケティング2	消費者行動のマーケティングへの応用を説明します。
第5回	消費者行動研究の歴史1	消費者行動研究の前史について説明します。
第6回	消費者行動研究の歴史2	行動科学的な消費者行動研究の展開を説明します。
第7回	消費者行動のモデル1	消費者行動モデルの概要について解説します。
第8回	消費者行動のモデル2	刺激－反応モデルと態度モデルについて説明します。
第9回	消費者情報処理モデル1	消費者情報処理モデルについて、その概要を説明します。
第10回	消費者情報処理モデル2	消費者情報処理モデルのメカニズムについて解説します。
第11回	情報の探索	内部探索と外部探索とこれらの規定要因についての説明をします。
第12回	情報の解釈	情報の解釈メカニズムについて説明します。
第13回	情報の評価	評価方略について説明します。
第14回	情報処理の規定要因1	規定要因である動機づけについて解説します。
第15回	情報処理の規定要因2	規定要因である能力について解説します。
第16回	消費者とブランド1	ブランドについての概説をします。

第17回	消費者とブランド2	ブランド構築とその事例について詳解します。
第18回	消費者とブランド3	ブランドのアイデンティティとイメージについて説明します。
第19回	ケース討議1：ディスカッション	ケースディスカッションを行います。
第20回	ケース討議1：フィードバック	ケースディスカッションのフィードバックをします。
第21回	ケース討議2：ディスカッション	ケースディスカッションを行います。
第22回	ケース討議2：フィードバック	ケースディスカッションのフィードバックをします。
第23回	ケース討議3：ディスカッション	ケースディスカッションを行います。
第24回	ケース討議3：フィードバック	ケースディスカッションのフィードバックをします。
第25回	修士論文作成に向けて	作成に向けた詳細な指導をします。
第26回	論文購読	消費者行動関連の論文を購読します。
第27回	講義全体のまとめ	これまでの授業内容の総括をします。
第28回	最終試験	解説とフィードバックをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回に配布する文献リストに基づき、第18回までは、事前に該当する書籍を熟読して授業に臨んで下さい。第19回からのケース討議と論文講読では、事前に配布する資料を熟読して、自分なりに整理をして授業でのディスカッションに備えて下さい。

【テキスト（教科書）】

適宜案内します。

【参考書】

『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』（青木幸弘他、有斐閣アルマ、2012年）
『消費者行動の知識』（青木幸弘、日経文庫、2010年）
『消費者行動論』（守口剛・竹村和久編著、八千代出版、2012年）
『消費者の認知世界：ブランドマーケティング・パースペクティブ』（新倉貴士、千倉書房、2005年）

【成績評価の方法と基準】

ケース討議への貢献（30％）
ケース討議・論文講読への貢献は、発言回数とその内容で判断します。
最終試験（70％）
最終試験では、講義とケースに関する理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

教室内の環境、授業の進行速度に気をつけながら進めます。板書において工夫をして進めます。

【その他の重要事項】

マーケティング論、マーケティング・リサーチ論を履修しておくことが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
消費者行動論、マーケティング
<研究テーマ>
消費者情報処理の視点に基づく認知・態度・行動の関係
<主要研究業績>
『消費者の認知世界：ブランドマーケティング・パースペクティブ』（単著、千倉書房、2005年）、
『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』（共著、有斐閣アルマ、2012年）

【Outline and objectives】

This course is a series of lectures and discussions, structured to give students some of the basic, fundamental understandings on consumer behavior and brand marketing strategy.
To understand consumer, students will learn consumer's cognition, attitude, and behavior.
Major course objectives are;
-To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.
-To learn consumer information processing model.
-To understand the relationship between consumer and brand.

MAN500F1 - 0082

マーケティング・リサーチ論

西川 英彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、マーケティングリサーチの知識は、実務や研究において必須ともいえるだろう。

本授業では、マーケティング・リサーチをはじめて学ぶ大学院生が理解しやすいように、定性調査と定量調査の方法論を理解した上で、実際にインタビューなどの定性調査をもとに仮説を設定し、アンケート作成やさまざまなデータ分析などの定量調査をもとにその仮説を検証することを通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を体系的・実践的に学ぶ。

【到達目標】

到達目標としては、以下の3点に整理できる。

- ①インタビューなどの定性調査のスキルを身につけ、自ら実際に分析し、その結果を考察することができる。
- ②アンケート作成やさまざまなデータ分析などの定量調査のスキルを身につけ、自ら実際に分析し、その結果を考察することができる。
- ③複数の定量調査を用いて、仮説を検証することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

リサーチプロセスは、課題定義にはじまり、リサーチデザイン、データと収集法の決定、サンプルデザインとデータ収集、データ分析・結果の解釈、レポート作成となる。しかし、授業では、受講生が全体像や最終レポートをイメージしやすいように、順番を入れ替えて学習する。

さらに、受講生が理解しやすいよう、以下の工夫も行う。まず、データ分析・結果の解釈では、定量調査を実践的に学べるように、サンプルデータをもとに、マニュアルにそって無料ソフトの「R」を使ったミニ演習を多く実施する。レポート作成では、複数の最終レポート例をもとに、その手続きも含めて詳しく説明する。大事なプロセスでは、中間報告があり、受講生の理解状況の確認が行われつつ、指導が行われる。こうした進め方をするため、はじめてリサーチを実施する方でも大丈夫である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	マーケティングリサーチとは 課題定義とリサーチデザイン	リサーチプロセス ・Rの操作、パソコン持参のこと（次回以降も同様）
第2回	データ分析・結果の解釈①	平均・標準偏差と無相関検定 ・定量調査のミニ演習
第3回	データ分析・結果の解釈②	χ^2 検定と t 検定 ・定量調査のミニ演習
第4回	データ分析・結果の解釈③	回帰分析と因子分析 ・定量調査のミニ演習
第5回	データ分析・結果の解釈④	分散分析 ・一元配置、二元配置の分散分析 ・定量調査のミニ演習
第6回	レポート作成	最終レポートの説明 ・レポート例を提示
第7回	課題定義、データと収集法の決定①	課題とリサーチクエストション、インタビュー、仮説 ・定性調査のミニ演習
第8回	第1回中間レポートの報告	課題とリサーチクエストション、インタビュー、仮説の中間報告
第9回	データと収集法の決定②、サンプルデザインとデータ収集	アンケートとサンプリング ・アンケートフォームを実際に作成 ・プレリサーチ
第10回	第2回中間レポートの報告	アンケートとサンプリングの中間報告
第11回	第2回中間レポートの再報告	アンケートとサンプリングの再報告 ・修正して報告
第12回	早期最終レポートの報告	早期最終報告 ・早期最終レポートの提出・報告
第13回	最終レポートの報告	最終報告 ・最終レポートの提出・報告
第14回	リサーチの実際	ゲスト講義 ・ゲストによる研究報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データ収集および、最終レポートの作成を行うこと。

【テキスト（教科書）】

テキストとして、レジメを授業支援システムにアップするので、パソコンあるいはタブレット、スマホで閲覧できるようにすること。

【参考書】

- ①山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『Rによるやさしい統計学』オーム社、2008年。
- ②マルホトラ『マーケティング・リサーチの理論と実践：理論編』同友館、2006年。
- ③マルホトラ『マーケティング・リサーチの理論と実践：技術編』同友館、2007年。
- ④高田博和・上田隆徳・奥瀬喜之・内田学『マーケティングリサーチ入門』PHP研究所、2008年。
- ⑤ベルク・フィッシャー・コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016年。

【成績評価の方法と基準】

- ・中間レポート・報告（10点×2回＝20点）、講義や演習での発言・議論参加（50点）、最終レポートおよび報告（30点）
- ・早期最終レポートの報告者には、全員加点あり（早期レポート制度）。
- ・評価対象は講義回数の3分の2以上の出席が最低条件である。なお、遅刻は2回で1回の欠席扱いとなる。

【学生の意見等からの気づき】

- ①受講生の理解に差があるため、基本編と解説編を分けて、説明を行う。
- ②サンプルデータを用いたミニ演習を多くし、理解をしやすくする。
- ③レポート例をもとにイメージしやすい課題の説明をする。さらに、確実に課題を進められるように、リサーチ・プロセスの途中段階での中間報告を実施する。
- ④全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。

【学生が準備すべき機器他】

各自、ノートパソコンを持参すること。なお、統計ソフトは、フリー・ソフトであるRを使用するので、テキストを参考に、事前にパソコンにインストールしてくること。

【その他の重要事項】

受講生には断った上で、受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することは想定される。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング

<研究テーマ>

クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）

<主要研究業績>

著書に、『1からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『1からの商品企画』（編著、碩学舎）、『1からの消費者行動』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。

論文に、「共創志向と競争志向は、ユーザー・イノベーションに有効か：ミニ四駆のイノベーション・コミュニティ」（共著、『マーケティングジャーナル』36(4)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、『*Journal of Marketing Research*, 54(4)）、"User-Generated Versus Designer-Generated Products: A Performance Assessment at Muji,"（共著、『*International Journal of Research in Marketing*, 30(2)』など。

<研究室サイト>

<http://nlab.ws.hosei.ac.jp/>

【Outline and objectives】

Currently, knowledge of marketing research can be said to be essential in practice and research.

In this lesson, to make it easier for graduate students to learn about marketing and research for the first time, they learn fundamentals and methods of marketing research systematically and practically to actually set up hypotheses based on qualitative surveys such as interviews, and test the hypothesis based on quantitative surveys such as questionnaire preparation and various data, after understanding the methodology of qualitative survey and quantitative survey.

MAN500F1 - 0083

製品開発論

柴田 高

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ハイテク産業を中心としたさまざまな産業における製品開発のケース・スタディを通じて、戦略的意思決定とビジネスモデル構築の能力を磨く。

【到達目標】

具体的な目標は次のとおりである。

- ①イノベーション概念を理解する
- ②イノベーションに成功するマネジメントを考察する
- ③ビジネスプラットフォーム構築を理解する
- ④産業別の製品開発プロセスを理解し、管理する能力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

ケース・スタディでは、事業ドメインの設定、研究開発や商品企画、顧客獲得、販売、事業拡大というビジネスの流れを追いながら、どのように競合企業と差別化して顧客ターゲットを設定し、内部の組織編成や外部との連携（サプライヤーやディストリビューター）を行ったかを明らかにする。

現実の企業活動では、技術よりもむしろ、戦略およびマーケティングが競争優位性を決定していることがケース・スタディによって確認できるだろう。また、その優位が決して永続的なものではなく、時代とともに失われることも学ぶ必要がある。

ケースは、宅急便の新規事業開発という古典的な事例と、東芝のハードディスク事業、シャープの液晶、ソニーのデジタルオーディオプレイヤー等の今日の事例まで、時代を横断して予定している。製品や業界の理解を深めるために、視覚教材も併用する。

事前にケース教材を指示するので、履修者は自分でそれらを購入・用意して、内容をよく読み、質問に対する自分なりの考察を用意してメモを作成しておく。講義では、詳しい事例の説明と VTR などの教材によって理解を深めてから、グループで議論を行ってまとめを発表する。さらに、全員で議論を深めてから、最後に講師が総括する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	コース・ガイダンスとイノベーションの定義	全体の概要と使用するケース教材や進め方の説明、ケース入手方法
2	市場環境の認識	ヤマト運輸の宅急便事業
3	新事業創出とビジネスモデル	ヤマト運輸の宅急便事業
4	経営者の意思決定	ヤマト運輸の宅急便事業
5	事業ドメインの設定	株式会社東芝－ハードディスクドライブ事業－
6	経営者の意思決定とコーポレートガバナンス	東芝 2017 年
7	選択と集中 1	シャープ株式会社－オンリーワン戦略－
8	選択と集中 2	シャープ 技術と経営力の攻防戦
9	市場のセグメンテーション	アスクル株式会社：オフィス通販事業
10	ビジネスモデルの革新 1	アスクルの問題点を考える
11	ビジネスモデルの革新 2	アップルの復活：iPod の快進撃
12	ビジネスモデルの世代交代	アップルとソニーを比較する
13	コアコンピタンスと多角化	キャノン株式会社－技術開発戦略－ キャノン多角化
14	事業の脱成熟化	キャノンの事業展開を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にケースを読み、課題を期限までに提出する。

【テキスト（教科書）】

小倉昌男著『経営学』日経 BP 社（1999 年）(ISBN-13: 978-4822241568)
そのほかに慶應義塾大学大学院経営管理研究科作成のケース教材より、以下のものを使用する。

【文献番号: 13104】株式会社東芝－ハードディスクドライブ事業の生産戦略（A）－

【文献番号: 9387】東芝 2017 年

【文献番号: 1085】シャープ株式会社－オンリーワン戦略－

【文献番号: 17375】シャープ 技術と経営力の攻防戦

【文献番号: 15233】アスクル株式会社：オフィス通販事業

【文献番号: 17296】アップルの復活：iPod の快進撃

【文献番号: 25045】キャノン株式会社－技術開発戦略－キャノン多角化の歴史

【参考書】

①『MOT“技術経営”入門』延岡健太郎, 日経新聞社, 2006 年

②『オープン&クローズ戦略』小川絃一, 翔泳社, 2014 年

③『アーキテクチャ・イノベーション』田路則子, 白桃書房, 2005 年

【成績評価の方法と基準】

出席率、議論への参加、毎回の小課題を 3 分の 1 ずつで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

概念の理解の時間、グループ討議の時間、概念を使った事例の掘り下げの時間のメリハリをつける。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料配布及び課題提出

【その他の重要事項】

本科目は、担当教員の、一部上場電機メーカーの経営企画管理部門での実務経験をもとに、ビジネスモデルの形成や経営者の意思決定について学生とともに考察を深めていく予定である。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>経営戦略、技術経営

<研究テーマ>

技術規格の標準化とビジネスモデルの世代交代

【Outline and objectives】

This course tries to explain the process of product development. The students are expected to find out the way to establish competitive advantage from the case study based on the new products or service. Toward that purpose, the students will study MOT (Management of technology) and related issue with management and marketing strategies.

アカウンティング・ファイナンス演習

坂上 学

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アカウンティング・ファイナンスコース演習では、修士論文の執筆に向けて、研究テーマの選択、研究テーマに関する文献レビュー、テーマに沿った適切な研究方法の選択、研究結果をまとめて論文としての形式をどのように整えるのか、引用や参考文献のスタイル等、研究遂行上の重要な問題を逐次指導していく。

【到達目標】

修士論文で何を明らかにするかを明確にすると共に、学術的な論文に仕上がるよう基本的な理論および研究方法論を身につけ、関連した領域の文献レビューを行うとともに、適切な研究方法に基づいて設定した研究テーマについて探究をおこなえるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

論文作成の方法、選択した研究テーマのそれぞれの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、学生の報告に基づいて、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の概要と授業の進め方について説明を行う。
第 2 回	修士論文作成のためのガイダンス	学術論文の構成、関連資料の検索の方法、またそれぞれの領域で検索の対象となりうる学術雑誌の紹介を行う。受講者の興味に基づき、それぞれの領域での最新の研究テーマについて紹介する。
第 3 回	研究テーマの検討	研究テーマとして、どのような点について留意すべきか、会計研究の動向を踏まえて検討する。
第 4 回	研究テーマ候補の提示	候補となりうる研究テーマを複数提示してもらい、それぞれの優劣について議論する。
第 5 回	研究テーマの決定	複数候補の中から一つのテーマに絞り込み、研究テーマを決定する。
第 6 回	先行研究のレビューの仕方	先行研究をレビューするにあたっての注意点とクリティークの書き方を説明する。
第 7 回	先行研究のレビュー（1）	研究テーマで重要な論文についてレビューを行い、発表してもらう。
第 8 回	先行研究のレビュー（2）	前回のレビューを踏まえ、さらに発展的な論文についてレビューを行い、発表してもらう。
第 9 回	先行研究のレビュー（3）	前回、前々回のレビューを踏まえ、さらに発展的な論文についてレビューを行い、発表してもらう。
第 10 回	リサーチクエスションの設定	各自が行った文献レビューに基づいて、リサーチ・クエスションの設定を行う。
第 11 回	研究方法についての検討	自分が設定したリサーチクエスションを明らかにするために相応しい研究方法について検討する。
第 12 回	研究方法の決定	とりうるであろう研究方法の中から、最終的に自分が採用する研究方法を決定する。
第 13 回	仮説の導出	リサーチクエスションを解明するために、どのような仮説を設定すればよいかを検討する。
第 14 回	資料・データ等の入手方法について	自分の設定した研究テーマ、研究方法、リサーチクエスション、仮説にもとづいて、どのような資料・データ等を入手すればよいかを検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この段階での研究では、ひたすら文献を読むことが重要である。講義では3回分しか先行研究のレビューにあてていないが、論文を書き終わるまで常にレビュー作業は続くことになる。

また論文作成において、最低限のパソコンのスキルを習得しておくことが重要である。論文全体のレイアウト設定、図表・数式の作成、脚注の設定、参考文献リストの管理、等はどうような研究テーマ・方法論でも必要となるし、実証研究をするのであれば統計ソフトの扱いにも慣れていなければならない。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜必要となる論文（その多くは英語論文であろう）を各自入手して読むことになる。

【参考書】

どのような研究方法を選択するかにもよるが、以下の本は会計領域の論文作成に非常に役立つので持っていて損はない。

Malcom Smith. 2017. Research Methods in Accounting (4th ed.), Sage Publications Ltd.

【成績評価の方法と基準】

各自の報告内容、授業へのコミットメントの程度などを総合的に勘案し、成績評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

統計ソフトなどの使い方等、実際にやってみたら意外と簡単に習得できたという学生を何人も見てきた。何事もチャレンジさせることが良いと思っている。

【学生が準備すべき機器他】

特に必要はないが、パソコンを持参できるのであれば、持参した方が良い。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

財務会計、会計情報システム、電子開示システム

<研究テーマ>

会計情報の分布特性に関する研究、企業評価への機械学習の応用

<主要研究業績>

・『事象アプローチによる会計ディスクロージャーの拡張』、中央経済社、2016年。（2016年度経営分析学会森脇賞受賞）

・"The Impact of XBRL Adoption on the Information Environment: Evidence from Japan," The Japanese Accounting Review, Vol. 4 (January 2015), pp. 49-74. (with Bai Zhenyang and Fumiko Takeda)

・"Value Relevance of Profit Available for Dividend," (with Shin'ya Okuda, and Atsushi Shiiba) Asia-Pacific Journal of Accounting & Economics, Vol. 17, 2010, pp. 41-56.

・"Japanese Accounting Profession in Transition," (with Hiroshi Okano and Hiroshi Yoshimi) Accounting, Auditing & Accountability Journal, Vol. 12 No. 3, March 1999, pp. 340-357.

・『新版 会計人のための XBRL 入門』（単著）、同文館、2011年。

・『財務情報の利用可能性と簿記・会計の理論』（新田忠誓氏との共編著）、森山書店、2008年。

【Outline and objectives】

The master thesis seminar will guide students through key issues in research design, from choosing a topic, through selecting approaches to researching it, to conducting research, drawing conclusions and summarizing the results in written form.

MAN600F1 - 0091

アカウンティング・ファイナンス演習

坂上 学

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アカウンティング・ファイナンスコース演習では、修士論文の執筆に向けて、研究テーマの選択、研究テーマに関する文献レビュー、テーマに沿った適切な研究方法の選択、研究結果をまとめて論文としての形式をどのように整えるのか、引用や参考文献のスタイル等、研究遂行上の重要な問題を逐次指導していく。

【到達目標】

修士論文で何を明らかにするかを明確にすると共に、学術的な論文に仕上がるよう基本的な理論および研究方法論を身につけ、関連した領域の文献レビューを行うとともに、適切な研究方法に基づいて設定した研究テーマについて探究をおこなえるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

論文作成の方法、選択した研究テーマのそれぞれの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、学生の報告に基づいて、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	秋学期での本講義の概要と授業の進め方について説明を行う。
第 2 回	データ等の整理と整形	収集した資料・データを、どのように整理したらよいか、また数値データやカテゴリーデータなどを分析にかけるときに、どのように整形したらよいかについて説明する。
第 3 回	分析ツールの検討	研究方法によって分析ツールは様々であるので、ふさわしいツールは何かを検討する。
第 4 回	分析結果の解釈	データを分析した結果については、様々な解釈が可能であるため、どのような点に注意して結果を解釈したらよいかを説明する。
第 5 回	主題文の作成	研究テーマ、リサーチクエスト、仮説と分析結果、等々について、どのように論文としてまとめたらよいかを、主題文という形に書き下して検討をおこなう。
第 6 回	論文の構成についての検討	主題文をもとに論文の構成を検討する。
第 7 回	論文の序論と結論についての検討	論文の序論および結論の書き方についての注意点を学び、具体的に書いてみる。
第 8 回	先行研究に関する記述の検討	先行研究について、論文においてはどのように書き進めていくべきかについて検討する。
第 9 回	リサーチクエストおよび仮説の記述についての検討	本研究のリサーチクエストおよび仮説の導出について、どのように記述すべきかを検討する。
第 10 回	データと分析方法の提示、結果の解釈の記述についての検討	どのようなデータを用い、どのようにして分析を行ったのか、そして結果をどのように解釈したのかに関する記述の検討をおこなう。
第 11 回	論文全体のドキュメンテーションに関する検討	主として文献の引用の仕方について、具体的な内容に沿いながら検討をする。
第 12 回	参考文献の記述に関する検討	会計領域で一般的なスタイルにもとづいて参考文献のリストを完成させる。
第 13 回	論文のドラフト作成と報告	論文のドラフトを完成させ、各自報告してもらい、訂正すべき点などの検討を行う。
第 14 回	論文の訂正と完成原稿の作成	前回の指摘事項を反映させ、論文を完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学院レベルでの研究では、ひたすら文献を読むことが重要である。講義では春学期に3回分しか先行研究のレビューにあてていないが、秋学期も引き続き、論文を書き終わるまで常にレビュー作業は続くことになる。

また論文作成において、最低限のパソコンのスキルを習得しておくことが重要である。論文全体のレイアウト設定、図表・数式の作成、脚注の設定、参考文献リストの管理、等はどうような研究テーマ・方法論でも必要となるし、実証研究をするのであれば統計ソフトの扱いにも慣れていなければならない。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜必要となる論文（その多くは英語論文であろう）を各自入手して読むことになる。

【参考書】

どのような研究方法を選択するかにもよるが、以下の本は会計領域の論文作成に非常に役立つので持っていて損はない。

Malcom Smith. 2017. Research Methods in Accounting (4th ed.), Sage Publications Ltd.

【成績評価の方法と基準】

各自の報告内容、授業へのコミットメントの程度などを総合的に勘案し、成績評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

統計ソフトなどの使い方等、実際にやってみたら意外と簡単に習得できたという学生を何人も見てきた。何事もチャレンジさせることが良いと思っている。

【学生が準備すべき機器他】

秋学期では具体的な執筆作業の指導に入るので、できるかぎり、パソコンを持参して欲しい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

財務会計、会計情報システム、電子開示システム

<研究テーマ>

会計情報の分布特性に関する研究、企業評価への機械学習の応用

<主要研究業績>

・『事象アプローチによる会計ディスクロージャーの拡張』、中央経済社、2016年。（2016年度経営分析学会森脇賞受賞）

・"The Impact of XBRL Adoption on the Information Environment: Evidence from Japan," The Japanese Accounting Review, Vol. 4 (January 2015), pp. 49-74. (with Bai Zhenyang and Fumiko Takeda)

・"Value Relevance of Profit Available for Dividend," (with Shin'ya Okuda, and Atsushi Shiiba) Asia-Pacific Journal of Accounting & Economics, Vol. 17, 2010, pp. 41-56.

・"Japanese Accounting Profession in Transition," (with Hiroshi Okano and Hiroshi Yoshimi) Accounting, Auditing & Accountability Journal, Vol. 12 No. 3, March 1999, pp. 340-357.

・『新版 会計人のための XBRL 入門』（単著）、同文館、2011年。

・『財務情報の利用可能性と簿記・会計の理論』（新田忠誓氏との共編著）、森山書店、2008年。

【Outline and objectives】

The master thesis seminar will guide students through key issues in research design, from choosing a topic, through selecting approaches to researching it, to conducting research, drawing conclusions and summarizing the results in written form.

MAN600F1 - 0091

アカウンティング・ファイナンス演習

北田 皓嗣

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アカウンティング・ファイナンスコースをはじめとする大学院での講義での学習成果に基づいて修士論文のテーマ設定します。設定したテーマについて理論的な考察を加えるとともに、経験的な検証等を行うことで設定した問題の解決を図ります。

【到達目標】

修士論文で何を明らかにするかを明確にすると共に、学術的な論文に仕上がるよう基本的な理論および研究方法論を身につける。関連した領域の文献レビューを行うとともに、質問票調査または事例研究に基づいて設定した問題を探究する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

論文作成の方法、選択した研究テーマのそれぞれの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、学生の報告に基づいて、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の概要と授業の進め方について説明を行う。
第 2 回	修士論文作成のためのガイダンス	学術論文の構成、関連資料の検索の方法、またそれぞれの領域で検索の対象となりうる学術雑誌の紹介を行う。受講者の興味に基づき、それぞれの領域での最新の研究テーマについて紹介する。
第 3 回	研究テーマの検討	研究テーマとして、どのような点について留意すべきか、会計研究の動向を踏まえて検討する。
第 4 回	研究テーマ候補の提示	候補となりうる研究テーマを複数提示してもらい、それぞれの優劣について議論する。
第 5 回	研究テーマの決定	複数候補の中から一つのテーマに絞り込み、研究テーマを決定する。
第 6 回	先行研究のレビューの仕方	先行研究をレビューするにあたっての注意点とクリティークの書き方を説明する。
第 7 回	先行研究のレビュー（1）	研究テーマで重要な論文についてレビューを行い、発表してもらう。
第 8 回	先行研究のレビュー（2）	前回のレビューを踏まえ、さらに発展的な論文についてレビューを行い、発表してもらう。
第 9 回	先行研究のレビュー（3）	前回、前々回のレビューを踏まえ、さらに発展的な論文についてレビューを行い、発表してもらう。
第 10 回	リサーチクエスションの設定	各自が行った文献レビューに基づいて、リサーチ・クエスションの設定を行う。
第 11 回	研究方法についての検討	自分が設定したリサーチクエスションを明らかにするために相応しい研究方法について検討する。
第 12 回	研究方法の決定	とりうるであろう研究方法の中から、最終的に自分が採用する研究方法を決定する。
第 13 回	仮説の導出	リサーチクエスションを解明するために、どのような仮説を設定すればよいかを検討する。
第 14 回	データ等の入手方法について	自分の設定した研究テーマ、研究方法、リサーチクエスション、仮説にもとづいて、どのようなデータ等を入手すればよいかを検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この段階での研究では、ひたすら文献を読むことが重要である。講義では3回分しか先行研究のレビューにあてていないが、論文を書き終わるまで常にレビュー作業は続くことになる。また論文作成において、最低限のパソコンのスキルを習得しておくことが重要である。論文全体のレイアウト設定、図表・数式の作成、脚注の設定、参考文献リストの管理、等はどうような研究テーマ・方法論でも必要となるし、実証研究をするのであれば統計ソフトの扱いにも慣れているなければならない。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜必要となる論文（その多くは英語論文であろう）を各自入手して読むことになる。

【参考書】

どのような研究方法を選択するかにもよるが、以下の本は会計領域の論文作成に非常に役立つので持っていて損はない。

Malcom Smith. 2017. Research Methods in Accounting (4th ed.), Sage Publications Ltd.

【成績評価の方法と基準】

各自の報告内容、授業へのコミットメントの程度などを総合的に勘案し、成績評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特に必要はないが、パソコンを持参できるのであれば、持参した方がよい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

管理会計、社会環境会計、サステナブルマネジメント

<研究テーマ>

サステナビリティマネジメント

【Outline and objectives】

The master thesis seminar will guide students through key issues in research design, from choosing a topic, through selecting approaches to research it, to conducting research, drawing conclusions and summarizing the results in written form.

MAN600F1 - 0091

アカウンティング・ファイナンス演習

北田 皓嗣

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アカウンティング・ファイナンスコース演習では、修士論文の執筆に向けて、研究テーマの選択、研究テーマに関する文献レビュー、テーマに沿った適切な研究方法の選択、研究結果をまとめて論文としての形式をどのように整えるのか、引用や参考文献のスタイル等、研究遂行上の重要な問題を逐次指導していく。

【到達目標】

修士論文で何を明らかにするかを明確にすると共に、学術的な論文に仕上がるよう基本的な理論および研究方法論を身につけ、関連した領域の文献レビューを行うとともに、適切な研究方法に基づいて設定した研究テーマについて探究をおこなえるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

論文作成の方法、選択した研究テーマのそれぞれの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、学生の報告に基づいて、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	秋学期での本講義の概要と授業の進め方について説明を行う。
第 2 回	データ等の整理と整形	収集した資料・データを、どのように整理したらよいか、また数値データやカテゴリーデータなどを分析にかけるときに、どのように整形したらよいかについて説明する。
第 3 回	分析ツールの検討	研究方法によって分析ツールは様々であるので、ふさわしいツールは何かを検討する。
第 4 回	分析結果の解釈	データを分析した結果については、様々な解釈が可能であるため、どのような点に注意して結果を解釈したらよいかを説明する。
第 5 回	主題文の作成	研究テーマ、リサーチクエスト、仮説と分析結果、等々について、どのように論文としてまとめたらよいかを、主題文という形に書き下して検討をおこなう。
第 6 回	論文の構成についての検討	主題文をもとに論文の構成を検討する。
第 7 回	論文の序論と結論についての検討	論文の序論および結論の書き方についての注意点を学び、具体的に書いてみる。
第 8 回	先行研究に関する記述の検討	先行研究について、論文においてはどのように下記進めていくべきかについて検討する。
第 9 回	リサーチクエストおよび仮説の記述についての検討	本研究のリサーチクエストおよび仮説の導出について、どのように記述すべきかを検討する。
第 10 回	データと分析方法の提示、結果の解釈の記述についての検討	どのようなデータを用い、どのようにして分析を行ったのか、そして結果をどのように解釈したのかに関する記述の検討をおこなう。
第 11 回	論文全体のドキュメンテーションに関する検討	主として文献の引用の仕方について、具体的な内容に沿いながら検討をする。
第 12 回	参考文献の記述に関する検討	会計領域で一般的なスタイルにもとづいて参考文献のリストを完成させる。
第 13 回	論文のドラフト作成と報告	論文のドラフトを完成させ、各自報告してもらい、訂正すべき点などの検討を行う。
第 14 回	論文の訂正と完成原稿の作成	前回の指摘事項を反映させ、論文を完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学院レベルでの研究では、ひたすら文献を読むことが重要である。講義では春学期に3回分しか先行研究のレビューにあてていないが、秋学期も引き続き、論文を書き終わるまで常にレビュー作業は続くことになる。

また論文作成において、最低限のパソコンのスキルを習得しておくことが重要である。論文全体のレイアウト設定、図表・数式の作成、脚注の設定、参考文献リストの管理、等はどうのような研究テーマ・方法論でも必要となるし、実証研究をするのであれば統計ソフトの扱いにも慣れていなければならない。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜必要となる論文（その多くは英語論文であろう）を各自入手して読むことになる。

【参考書】

どのような研究方法を選択するかにもよるが、以下の本は会計領域の論文作成に非常に役立つので持っていて損はない。

Malcom Smith. 2017. Research Methods in Accounting (4th ed.), Sage Publications Ltd.

【成績評価の方法と基準】

各自の報告内容、授業へのコミットメントの程度などを総合的に勘案し、成績評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

統計ソフトなどの使い方等、実際にやってみたら意外と簡単に習得できたという学生を何人も見てきた。何事もチャレンジさせることが良いと思っている。

【学生が準備すべき機器他】

秋学期では具体的な執筆作業の指導に入るので、できるかぎり、パソコンを持参して欲しい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

管理会計、社会環境会計、サステナブルマネジメント

<研究テーマ>

サステナビリティマネジメント

【Outline and objectives】

The master thesis seminar will guide students through key issues in research design, from choosing a topic, through selecting approaches to research it, to conducting research, drawing conclusions and summarizing the results in written form.

アカウンティング・ファイナンス演習

金 瑠晋

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アカウンティング・ファイナンスコース演習では、これまで当コースで学習してきた内容や他のコースで学んだ内容を基礎とし、各自の実務経験に基づく問題意識に沿って修士論文のテーマを設定してもらいます。その上で、各自が選択したテーマに関連した学術論文のレビューを行うことで問題点を明確にするとともに、実務から生まれた問題意識と照らし合わせることで修士論文にふさわしい内容の論文を作成することを目標とします。

【到達目標】

修士論文の作成者の問題意識を明確にします。関連した学術論文を読み込み、理解することで、テーマに関連した基本的な学術成果および研究方法論を身につけます。よって、学術的に修士論文に相応しい論文を仕上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

論文作成の方法、選択した研究テーマの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回目	修士論文作成のためのガイダンス①	学術論文の構成、参考文献の検索方法、さらに、それぞれの領域で検索の対象となりうる学術雑誌の紹介を行う。
2 回目	修士論文作成のためのガイダンス②	各自が選択したテーマに関連した最新の研究成果を検索して見つける。
3 回目	研究テーマの選択①	修士論文としての研究テーマの妥当性、また何を明らかにしたいのかという点を学生の報告に基づき検討する。
4 回目	研究テーマの選択②	研究テーマの検討を続ける。具体的には、比較的短期間で書き上げなければいけない修士論文の性質上、テーマを具体的に絞る。さらに、データの入手可能性を検討する。
5 回目	先行研究のレビュー①	選択したテーマに関連した先行研究のレビューを行ってもらう。
6 回目	先行研究のレビュー②	引き続き先行研究のレビューを行ってもらう。また、その結果として、何がどこまで明らかにされているのか、また各論文の研究手法などについても議論し、検討する。
7 回目	問題意識の具体化①	先行研究のレビューを通して、どのような問題がなお解明されていないのか、またどのようなアプローチを取ることで、それらの問題が解決される可能性があるのかという点について議論する。
8 回目	問題意識の具体化②	解明すべき問題と、解明するための方法を引き続き検討する。
9 回目	仮説の設定①	選択されたテーマについての文献レビューを通じて、検証すべき仮説の設定を行う。
10 回目	仮説の設定②	設定すべき仮説についての検討を続ける。
11 回目	研究方法論について①	各種の研究手法について全般的な説明を行う。
12 回目	研究方法論について②	各自の問題意識に適切な研究方法論について議論・検討する。
13 回目	データの入手方法、整理、また質問票などの作成	研究テーマに応じて、データの入手方法を検討する。質問票調査を行う場合、仮説に応じた質問項目の設定を行う。またケース研究を行う場合、リサーチ・クエスションの設定を行うとともに、リサーチサイトの決定を行なう。
14 回目	中間報告	中間報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文は各自の問題意識に基づいて作成していくものです。演習に望むにあたって毎回以下の準備を充分に行っておくこと。

1～2 回目 各自の問題意識に基づいて、参考となりそうな学術論文をできるだけ読んでおくこと。

3～4 回目 自分の実務経験、またこれまでの学習に基づいて具体的な研究テーマを考えておく。その際、何をどこまで明らかにしたいかを明確に説明できるようにしておくこと。

5～6 回目 各人の研究テーマに応じて、紹介した学術論文などを参考に先行研究のレビューを行っておくこと。

7～8 回目 先行研究のレビューに基づいて、これまで何が明らかにされたか。何が残された問題であるかを明確にしておくこと。

9～10 回目 先行研究のレビューに基づき、これまでの研究で何がどこまで明らかにされているのか、また各自の修士論文では何をどこまで明らかにすることができるのかを明確にしておくこと。

11～12 回目 これまでの文献で使用されていた研究方法について検討すること。

13～14 回目 必要なデータを収集するためのソース、あるいは、質問票調査を行う場合は質問項目などを考えておく。同時に、先行研究のレビューに基づいて仮説の設定を行い、簡単なレジюмеを作成すること。その際、仮説はこれまでの研究をふまえた上で論理的に構築できるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。各自の問題意識に基づき基本的な文献を紹介します。

【参考書】

各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、議論への貢献 30 %および報告内容 50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は演習科目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【Outline and objectives】

This course provides guidance on how to prepare and complete a master's thesis in finance.

MAN600F1 - 0091

アカウンティング・ファイナンス演習

金 塔晋

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アカウンティング・ファイナンスコース演習では、これまで当コースで学習してきた内容や他のコースで学んだ内容を基礎とし、各自の実務経験に基づく問題意識に沿って修士論文のテーマを設定してもらいます。その上で、各自が選択したテーマに関連した学術論文のレビューを行うことで問題点を明確にするとともに、実務から生まれた問題意識と照らし合わせることで修士論文にふさわしい内容の論文を作成することを目標とします。

【到達目標】

修士論文の作成者の問題意識を明確にします。関連した学術論文を読み込み、理解することで、テーマに関連した基本的な学術成果および研究方法論を身につけます。よって、学術的に修士論文に相応しい論文を仕上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

論文作成の方法、選択した研究テーマの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回目	中間報告のフォロー・アップ	春学期に行った中間報告で要請された作業についてその結果を報告し、議論する。
2 回目	データの分析方法	仮説の検定方法について説明する。
3 回目	データ分析の修正	データ分析の修正を行う。
4 回目	データ分析の結果の解釈①	分析の妥当性およびそこから得られた結果の解釈を行なう。
5 回目	データ分析の結果の解釈②	引き続き、分析の妥当性およびそこから得られた結果の解釈を行なう。
6 回目	修士論文のドラフトの作成①	提出されたドラフトに基づいて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
7 回目	修士論文のドラフトの作成②	引き続き、ドラフトについて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
8 回目	修士論文のドラフトの作成③	引き続き、ドラフトについて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
9 回目	修士論文のドラフトの修正①	前回までのコメントに基づいて修士論文のドラフトの修正を行なう。
10 回目	修士論文のドラフトの修正②	引き続き、前回までのコメントに基づいて修士論文のドラフトの修正を行なう。
11 回目	修士論文の報告および議論①	修士論文の内容を報告してもらい、全体の構成を踏まえて議論を行う。
12 回目	修士論文の報告および議論②	引き続き、修士論文の内容について議論を行う。
13 回目	論文の修正および完成原稿の作成①	提出予定の論文について最終的な議論を行い、それに基づいて論文を修正する。
14 回目	論文の修正および完成原稿の作成②	引き続き、提出予定の論文について最終的な議論を行い、それに基づいて論文を修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文は各自の問題意識に基づいて作成していくものです。演習に望むにあたって各回以下の準備を充分に行っておくこと。

- 1 回目 春学期に行った中間報告で要請された作業を行う。
- 2～3 回目 各自の研究に適当と思われる分析方法を学習すること。
- 4～5 回目 各自が得たデータに対して学習した分析方法を適用して分析を行なう。
- 6～7 回目 分析結果について解釈を行なう。
- 8～9 回目 修士論文の章立てを構成し、大雑把なドラフトを作成する。
- 10～11 回目 教員からのコメントに基づいてより詳しいドラフトを作成する。
- 12～14 回目 教員からのコメントに基づいて加筆・修正し、修士論文の最終版を作成する。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。各自の研究テーマに沿って適切な文献を紹介します。

【参考書】

各自の研究テーマに合わせて、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、議論への貢献 30 %および報告内容 50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は演習科目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【Outline and objectives】

This course provides guidance on how to prepare and complete a master's thesis in finance.

管理会計論

福田 淳児

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理会計に関わる基本的な諸概念また知識を学習し、自社をはじめとする企業で採用されている管理会計実務について批判的に検討する力を獲得することを目的とする。さらに、近年新たに登場してきた管理会計のトピックについても、その登場の背景にある環境要因を理解するとともに、その特徴を理解することを目的とする。

【到達目標】

管理会計の基本的な概念や用語について簡潔に説明ができる。また、自らが所属する企業をはじめとする組織の管理会計実務のあり方について理論的に評価・検討し、その問題点について指摘ができる。さらには、管理会計システムについて必要に応じて改善案を提示することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義は、各テーマについて、教員がそれぞれのテーマに関連した基礎理論および概念についての説明を行います。その後、配布資料に基づいた報告を担当の学生に行ってもらいます。各テーマについての理論的な説明、また学生が行った報告に基づいて関連した質疑応答を行うことでテーマへの理解を深めます。議論のさいには、自社の状況とあわせて議論を行うことを意識してもらえばより実践的な議論になると思います。

さらに、毎回、講義の修了時点で、短い問題、またはケースを配りますので、その回に学習した内容に基づいて、問題やケースを考えてくることを毎回の課題とします。この問題を次回の講義のはじめに議論のテーマとすることで、前回のテーマについての理解をより一層深めてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	会計学の二つの領域である管理会計と財務会計の相違点について説明する。さらに、この講義で扱う各テーマ、またテーマ間の関係について全般的な説明を行なう。
2	原価計算の基礎および管理会計の基本概念	原価計算の一連の計算手続きについて問題を解きながら確認するとともに、管理会計の基本的な概念について概観します。
3	意思決定目的のための管理会計	意思決定目的のための管理会計の概念およびその技法について説明する。特に、設備投資経済性計算の問題を取り上げ、その意思決定のプロセスについて議論する。
4	予算管理システムについて	予算管理に関する論点を取り上げ検討するとともに、予算管理実務について紹介し、議論を行う。
5	製造間接費の配賦問題と Activity-Based Costing	伝統的な間接費の配賦方法の問題点また限界を明らかにする。さらに、ABC の概念を理解する。特に、ABC の背後にある環境要因の変化やその理論的な背景について議論を行なう。
6	原価管理（原価維持・原価改善・原価企画）	原価管理の問題を取り扱う。主に、標準原価計算による原価管理、原価改善活動および原価企画活動の関連性およびその発展について、事例を交えて考察する。
7	財務的な業績評価指標	伝統的な財務的な業績評価指標に対する批判および EVA など比較的近年提示された財務的な業績評価指標についてそのメリット、デメリットを検討する。
8	バランス・スコアカードの理論と実践	BSC の概念を中心に、非財務的な指標および財務的な指標との関係性について、これまでの研究の成果を交え説明する。
9	組織構造と管理会計	事業部制、カンパニー制および持株会社の管理会計上の問題を特に分権化の程度との関係で議論する。参加者の所属する組織の状況を前提として議論を行なう。

10	中小企業の管理会計	企業の規模に応じてそこで利用される管理会計実務の違いについて議論する。
11	報酬システムの設計	報酬システムの設計とそれが企業の構成員の行動に与える影響を理解する。品質原価計算の概念、またその概念の変化などについて説明する。
12	品質原価計算	品質原価計算の概念、またその概念の変化などについて説明する。
13	戦略的な管理会計について	戦略的な管理会計の要件を明らかにするとともに実務での適用事例を取り上げつつ議論を行なう。
14	わが国における管理会計実務	我が国における管理会計実務の発展を近年行なわれたケース研究また郵送質問票調査に基づいて明らかにする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 回目 管理会計と財務会計の相違点について管理会計の大学レベルの基本的な文獻を読み考えておくこと。また、自社または実際の企業において、どのような部門がそれぞれの仕事を担当しているかについても調べておくこと。
- 2 回目 原価計算の一連の手続きについて、大学レベルの教科書を復習しておくこと。
- 3 回目 意思決定に必要な原価概念を配布資料に基づいて整理すること。また設備投資の経済性計算の方法についても復習しておくこと。自社における設備投資案の評価において、どのような方法が利用されているのかも調べておくこと。
- 4 回目 配布資料に基づいて予算管理システムの組織内での働きを明確にするとともに、自社の状況に照らしてその妥当性を考察すること。
- 5 回目 配布資料に基づき、伝統的な間接費の配賦の背後にある理論を明確にしておくこと。さらに、ABC の特徴を整理し、伝統的な間接費の配賦方法との相違点をまとめておくこと。
- 6 回目 原価管理の様々な技法の特徴を明らかにするとともにそれらの技法間の関連性を配布資料に基づいて考えておくこと。自社の事例があればそれらをまとめておく作業も行うこと。
- 7 回目 配布資料に基づいて、EVA などの財務的な業績評価指標が事業単位の責任者の行動にもたらす効果を整理しておくこと。
- 8 回目 分権的な組織と集権的な組織との比較および事業部制組織、カンパニー制組織さらに持株会社制度における管理会計上の問題を明確にしておくこと。組織の変遷の理由についても考えておくこと。
- 9 回目 財務的な指標と非財務的な指標との間の関係を配布するケースに基づいて明確にすること。また、自社の状況はどうであるかを考えておくこと。
- 10 回目 中小企業の管理会計実務について配布資料に基づいて考察を行うこと。特に、大企業との相違点を明確にすること。
- 11 回目 報酬システムの設計が組織における人間行動に及ぼす影響を考察すること。特に自分が所属する組織の報酬システムのありかたについて考察すること。
- 12 回目 品質に対する考え方、特にその変遷について、配布資料を手がかりにまとめておくこと。自社の品質に対する取り組みについてもまとめておくこと。
- 13 回目 配布資料に基づいて戦略的な管理会計と伝統的な管理会計との相違点をまとめておくこと。
- 14 回目 自社の管理会計実務について本授業で取り上げた議論に基づいてレポートの形でまとめること。その際、理論との乖離が起きている場合、その理由を考えてみる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。毎回必要な資料を紹介します。

【参考書】

管理会計の入門書として以下のものがあります。
櫻井通晴『管理会計第 5 版』中央経済社
谷武幸『エッセンシャル管理会計第 2 版』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

講義での担当報告箇所の報告内容に基づく評価 20 点、講義中の議論への参加の状況 20 点、最終レポートの内容 60 点で評価を行います。講義中の議論への参加については回答の正しさよりも積極的に議論に参加する姿勢を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

他の企業の事例などをもっと知りたいという要望がありました。ディスカッションを通じて、お互いの企業を管理会計実務を学習するとともに、様々な企業のケースを取り上げることで、できる限りこのような要望に応えるようにしたいと考えています。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>管理会計論
<研究テーマ>マネジメント・コントロール・システムと組織学習
<主要研究業績>

- ①「事業部間での業績の比較可能性と知識移転の頻度」『企業価値向上の戦略』（2013 年、税務経理協会、企業価値評価研究会編に所収）査読なし
- ②「企業の製品・市場戦略の変更と管理会計担当者の役割」『原価計算研究』第 34 号、2010 年、査読有り。
- ③「日本企業における管理会計担当者の役割と組織業績への貢献の知覚」『会計プロGRESS』、第 10 号、2009 年、査読有り。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to provide students with the basic concepts and knowledge of management accounting. It also include the development of students' abilities to examine critically their company' practices of management accounting. The other purpose of this class is to deal with emerging topics of management accounting with an aim to promote students' understandings on the environmental and theoretical backgrounds for the emergence and to equip students with knowledge of their characteristics.

MAN500F1 - 0094

財務会計論

佐々木 隆志

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な簿記・会計を修得した受講生を対象にして、財務会計の制度・理論とその活用方法を体系的に学びます。財務会計の学習においては、財務諸表の「作り方」と「読み方」を同時に学ぶことが効率的であり、本講義においては双方の視点を通して財務会計を理解します。

【到達目標】

- ①財務会計とは、企業の財政状態・経営成績・キャッシュ・フロー等の財務状況に関する財務諸表を作成し、当該財務諸表を外部利害関係者に報告する会計であるので、取引・経済事象をどのように会計処理すべきかについて会計に関する語彙（概念）を用いて考察する力、さらには、それを他者に対して説明する力を修得します。
- ②日本の会計基準や IAS（国際会計基準）・IFRS（国際財務報告基準）を理解するために必要な基礎概念について理解します。
- ③会計数値の背後にある財務諸表作成者の意図を読み解く力を修得します。
- ④公表された財務諸表から企業の経済的実態を推論する力を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

まず、概念フレームワークとして、財務諸表の構成要素、認識・測定、表示・開示等を解説し、次に、財務諸表の作り方・読み方については、代替的な会計処理の手続の種類とその選択に関する財務諸表作成者の動機のパターン、公表された会計数値の意味の解釈について議論します。さらに、代表的な財務指標を解説し、実際の公表財務諸表から企業の経済的実態を推論する技法について講義します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	財務会計論の意義と概要	財務情報の質的特徴、財務諸表の構成要素
第2回	株式会社と計算書	会社法会計と金融商品取引法会計
第3回	会計基準と一般原則	3つの基準と7+1の一般原則
第4回	財務諸表の構成要素	財務諸表の関係
第5回	財政状態計算書（貸借対照表）の基本	貸借対照表の構造
第6回	損益計算書の基本	損益計算書の構造
第7回	会計のグローバル化と国際会計基準	国際会計基準の適用に関する諸問題
第8回	営業収益・費用の計算基準	認識基準・測定基準
第9回	営業上の資産・負債の評価	原価評価、時価評価を巡る問題
第10回	有形固定資産の減価償却	個別償却と総合償却の理論
第11回	営業外収益・費用の計算基準	営業・非営業の概念
第12回	特別利益・損失の計算基準	利益の持続可能性
第13回	純資産直入法と評価差額	会計思考の変化
第14回	繰延資産－株主資本と関連して	創立費・開業費・新株交付費
第15回	繰延資産－負債と関連して	社債発行費・社債発行差金
第16回	キャッシュ・フロー計算書の意義と概要	資金概念と計算書区分
第17回	キャッシュ・フロー計算書の構造と観点	直接法・間接法による表示
第18回	貸借対照表観と企業会計の見方	資産負債アプローチと収益費用アプローチ
第19回	財務諸表分析の手法	各種の分析手法
第20回	財務諸表分析の理論－収益性分析と安全性分析	ROE 経営の功罪
第21回	連結財務諸表の意義	企業結合会計との関連
第22回	連結基礎概念を巡る今日的諸問題	経済的単一体説の優位性
第23回	連結貸借対照表	連結手続き（1）
第24回	連結損益計算書と連結株主資本等計算書	連結手続き（2）
第25回	連結キャッシュ・フロー計算書	連結手続き（3）
第26回	持分法	持分法を巡る今日的課題

第27回 新収益認識基準（1） 新収益認識基準の概要

第28回 新収益認識基準（2） 新収益認識基準を巡る今日的課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

財務会計の理解を深めるには、日本の会計基準における内容とともに、数値例・仕訳例を事前に確認しておく必要がある。

【テキスト（教科書）】

新田忠誓他『会計学・簿記入門』白桃書房、最新版

【参考書】

企業会計基準第29号「収益認識に関する会計基準」

https://www.asb.or.jp/wp-content/uploads/20180330_01.pdfhttps://www.asb.or.jp/wp-content/uploads/20180330_02.pdfhttps://www.asb.or.jp/wp-content/uploads/20180330_03.pdf

【成績評価の方法と基準】

討論参加・発表等 50%、レポートの提出 50%。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>財務会計論、監査論

<研究テーマ>収益認識基準、ドイツ会計論

<主要研究業績>

『監査・会計構造の研究』森山書店、2002年

【Outline and objectives】

This course aims to deepen students' understanding of basic concepts underlying financial accounting, company act and IFRS.

経営分析

福多 裕志

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営分析とは、企業会計システムを通して創出される会計情報に着目し、効率的な経営管理と合理的意思決定の促進を目的とし、創出された情報の意味内容を解釈するプロセスと技術である。本科目では、主として定量的財務諸表分析に焦点を絞り、日米の文献（およそ日本文献 8：米文献 2 の割合）を参照しながら、講義、問題演習、受講者による発表・討論をもって授業を進捗する。

【到達目標】

以下の技能習得を目標とする。

1. 予備技術として、オンラインデータベースより精確な財務データを迅速に検索すること。
2. 当該財務データを統計的に処理すること（記述統計）。
3. 財務比率・指標を比較・検討するための平均値を推定すること（推測統計）。
4. 創出された会計情報の価値を算定、評価すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

学習事項に基づき、インターネット上の財務データを積極的に利用し、データ分析（統計解析）の実行結果を参加者間で議論・評価する。会計情報の価値については具体的な問題演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義計画と経営分析の目的	コース概要、経営分析の目的、機能等についての説明
第 2 回	財務諸表分析の枠組み：その 1	財務諸表分析の基本事項－個別・連結財務諸表の構造、ストック・フローデータ、時系列・クロスセクション分析等－の確認
第 3 回	財務諸表分析の枠組み：その 2	財務安全性、効率性、収益性、成長性の 4 領域の確認と問題演習
第 4 回	財務諸表分析の枠組み：その 3	株価関連指標および財務諸表分析における基本統計量の応用と計算
第 5 回	中間発表	参加者が有する事例研究
第 6 回	経営分析への基礎統計学の応用 1	財務諸表分析において使用される主な分布。正規分布、t 分布等
第 7 回	経営分析への基礎統計学の応用 2	財務諸表分析における業界平均値の推定およびその有用性の検討
第 8 回	経営分析への基礎統計学の応用 3	複数業界の平均値の検定
第 9 回	経営分析への基礎統計学の応用 4	推定・検定の事例研究、問題演習
第 10 回	統計解析を応用した経営分析関連のケース発表	推定・検定を援用した事例研究
第 11 回	会計情報の価値 I	創出した情報がどれほどの価値を有するか。事前確率、同時確率、事後確率等の概念確認
第 12 回	会計情報の価値 II	条件付き確率、ベイズ定理等の概念確認と問題演習
第 13 回	会計情報の価値 III	さまざまな情報の価値をどう考えるか
第 14 回	最終試験	統計分析の応用に関し授業内で学習した事項の最終筆記試験および解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データベースにアクセスし、関心ある個別企業、業界の財務諸表分析を様々な角度から実施することを推奨する。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に独自に作成したスライドを授業支援システムに掲載する。

【参考書】

- 1) Colin Drury(2008), Management and Cost Accounting 7th ed., South-Western.
 - 2) Ray H. Garrison(2008), Managerial Accounting, McGraw Hill International.
 - 3) 青木茂男『要説 経営分析 五訂版』森山書店, 2016 年.
 - 4) 大津広一『企業価値を創造する会計指標入門』ダイヤモンド社, 2005 年.
 - 5) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995 年.
- 追加的英語、日本語の参考文献は授業支援システムに掲載する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への貢献度、事例発表）40%、最終試験 60%とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が有する予備知識に応じて柔軟に対応したい。

【学生が準備すべき機器他】

最終試験の際、一般的電卓のみ使用可とする。授業では、インターネット接続および計算ソフト（エクセル等）の利用を推奨する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>意思決定会計

<研究テーマ>財務体質の日米比較

<主要研究業績>

・「品川区中小企業グループと上場企業の収益性比較」東京都城南地域中小企業振興センター, 2000 年.

・「売上高経常利益率の 1 次元位相」（ワーキング・ペーパー）法政大学イノベーション・マネジメント研究センター, 2007 年.

【Outline and objectives】

Stakeholders need to be able to analyze and interpret financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision makers evaluate an organization's past activities and predict its future performance. In class we focus our attention on some basic and important ratios and other analytical tools.

ECN500F1 - 0098

基礎ファイナンス

山 崎 輝

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ファイナンス理論の広範な成果は実社会に多大な影響を与えており、これなくして現代の金融ビジネスは成立しない状況になっている。本授業では、ファイナンスを初めて学ぶ学生を対象に、証券分析やデリバティブ理論における現在価値の評価手法を主なテーマとして講義を行う。それに加えて、ポートフォリオ理論の入門的な解説を行う。金融実務における基礎理論の役割や活用方法についても詳しく解説したい。多くのビジネススクールでは、ファイナンスは必修科目に指定されているため、ファイナンスが専門ではない学生でも一通りのファイナンスの知識を学ぶのが一般的である。この授業ではそのような機会を提供したい。履修者は、企業財務と金融市場の関係を深く理解するために、ファイナンスの基礎理論を体系的に学ぶことが目的となる。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げる。

- ①金融市場の基礎知識・用語を習得し、金融商品・金融取引のしくみを理解する。
- ②債券や株式、デリバティブにおける基本的な計量分析や価値評価ができる。
- ③無裁定価格理論などのファイナンスの基本概念や将来の不確実性を伴うキャッシュフローの価値評価手法が説明できる。
- ④証券投資の基礎を現代ポートフォリオ理論に沿って理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

債券・株式市場、デリバティブ市場の概観や基礎用語を説明した後に、現在価値の考え方や債券・株式、デリバティブの基礎的な分析手法を丁寧に解説する。また講義後半では、ポートフォリオ理論の入門的な解説を行う予定である。授業はスライドを用いた講義形式となるが、黒板にも板書するので必要に応じてメモをとること。講義中には分析に必要な数学の解説も適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとイントロダクション	講義の進め方等の説明。
第2回	金融・証券市場	債券・株式市場を中心に市場の機能や分類の概説。
第3回	キャッシュフローと現在価値	分析に必要な数学の予備知識および現在価値の概念の解説。
第4回	債券分析入門 1	債券投資の収益率、スポットレート、フォワードレートの概念の解説。
第5回	債券分析入門 2	金利の期間構造や債券投資のリスク分析の入門的な解説。
第6回	債券分析入門 3	債券の信用リスクと債券格付けの入門的な解説。
第7回	株式分析入門 1	配当割引モデルの概説とそれを活用した理論株価の分析。
第8回	株式分析入門 2	キャッシュフロー割引モデルと残余利益モデルの概説とそれらを活用した理論株価の分析。
第9回	デリバティブ市場	店頭取引や取引所取引など、デリバティブ市場の概観の紹介。
第10回	先渡・先物分析入門	先渡取引と先物取引のしくみと活用例、プライシング手法の入門的解説。
第11回	スワップ分析入門	スワップ取引のしくみと活用例、プライシング手法の入門的解説。
第12回	オプション分析入門	オプション取引のしくみと活用例、2項モデルによるプライシング手法の解説。
第13回	ポートフォリオ理論入門 1	平均分散アプローチによる証券投資の意思決定理論の解説。
第14回	ポートフォリオ理論入門 2	CAPM（資本資産価格モデル）の導出とアルファとベータの解釈。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スライド資料の復習を十分に行うこと。知識を積み上げて学んで行くので、途中で理解できなかった箇所は放置せずに質問すること。また、指定した参考書を活用して理解を深めることが好ましい。

【テキスト（教科書）】

スライド資料を各自でダウンロードして持参すること。ノート PC やタブレット端末を持ち込んでスライド資料を参照するのもよい。

【参考書】

- ①佐野三郎、『証券アナリスト第1次レベル合格最短テキスト 証券分析とポートフォリオ・マネジメント 解説&例題』、2016年、ビジネス教育出版社
- ②伊藤敬介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論 II 実務篇』、2009年、日本経済新聞出版社
- ③ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、ピアソン・エデュケーション
- ④小林孝雄、芹田敏夫、『新・証券投資論 I 理論篇』、2009年、日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）、演習（50％）

授業中に基礎的な問題を解いたり、課題の発表を行ってもらうことで理解度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での事例をたくさん紹介することでファイナンスの基礎理論が理解しやすくなるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やエクセルなどの表計算ソフトだとなおよい）を使うので、各自で持参すること。

【その他の重要事項】

2016年度以前に「基礎ファイナンス I」を履修した者は本科目を履修できないので注意すること。

【前提知識】

中学・高校の数学の基礎知識（連立方程式、2次方程式、関数のグラフ、べき乗・平方根・文字式の計算など）を使うが、極度の数学アレルギーでない限り心配は無用である。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> ファイナンス

<研究テーマ> 金融工学、数理ファイナンス

<主要研究業績>

① “A Dynamic Equilibrium Model for U-Shaped Pricing Kernels,” *Quantitative Finance*, Vol.18, No.5, 2018, Taylor & Francis

② “Equilibrium Equity Price with Optimal Dividend Policy,” *International Journal of Theoretical and Applied Finance*, Vol.20, No.2, 2017, World Scientific

③ “Generalized Barndorff-Nielsen and Shephard Model and Discretely Monitored Option Pricing,” *International Journal of Theoretical and Applied Finance*, Vol.19, No.4, 2016, World Scientific

【Outline and objectives】

This course provides fundamentals of modern finance theory and its applications to basic security analysis, investment decisions, financial derivative pricing, and financial risk management. The objectives of this course are to give: (1) basic knowledge of financial system, financial markets, and securities; (2) valuation methods of stocks, bonds, forwards, futures, swaps, and options; (3) methods for incorporating risk analysis into valuation models, including the mean-variance approach and the Capital Asset Pricing Model; and (4) applications to corporate financial decisions, including optimal capital structure, capital budgeting, and dividend policy.

ECN500F1 - 0102

コーポレート・ファイナンス

田代 一聡

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目の目的は、企業財務に関する研究・教育分野であるコーポレート・ファイナンスの基本的な知見やそれに基づいた分析ツールを学ぶことにある。受講学生は、最初にコーポレート・ファイナンスに関する基本的な理論を習得し、その後、ケーススタディを利用して皆で議論を行う。ケーススタディについては、学生自身が関心を持った事例を選択し、簡単に報告してもらい、それに関して議論を行う。

【到達目標】

コーポレート・ファイナンスの入門的な科目において最も重要なトピックは、次の3点である。

- したがって、本科目はこれら3点を学ぶことを第一義の到達目標とする。
- (1) 投資の意思決定
コーポレート・ファイナンスでは、投資案件の採否に対して正味現在価値法 (net present value, NPV) を適用する。
本科目では NPV の概要を学んだ後、それを簡単な事例に対して適用する。また、現在価値を算出するに当たって、一般的な資産価格理論の手法も紹介する。
- (2) 資金調達の意味決定
企業が投資を行うに当たってその資金をどのように手当てするのか、というのがコーポレート・ファイナンスにおける重要な問題である。
どのような資金調達を行うと企業価値が増えるのか、あるいは減るのかという点を重要な論点として議論されてきた。
この点に関する基礎理論であるモディリアーニ・ミラーの定理をまず学び、この点に関する一連の議論を紹介する。
- (3) 配当の意思決定

コーポレート・ファイナンスでは、古くから配当を変化させたとき企業価値が上がるのか、あるいは、下がるのかという点を重要な論点として議論してきた。本科目では、この点に関する基礎理論であるモディリアーニ・ミラーの結論のほか、配当を上げることによって企業価値が上昇するメカニズムと、配当を下げることで企業価値が上昇するメカニズムの両方を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

コーポレート・ファイナンス理論を学ぶ部分は、講師が用意した講義資料に沿って講義を行う。
コーポレート・ファイナンスのケース・スタディに関する部分は、まず概要をまとめて発表し、その後ディスカッションするという形で授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本科目の授業内容全体を概説し、授業の運営方法を説明する。
第2回	正味現在価値法	正味現在価値法の概要を説明した後、投資案件が生み出す将来 CF の予測方法、投資案件に適用すべき割引率の算出方法を解説する。
第3回	正味現在価値法	投資案件に適用すべき割引率の算出方法について前回残り残した部分を解説した後、ミニ・ケーススタディを解く。
第4回	一般的な価値算出法	資産価格理論で用いられる、マルチンゲール法やプライシング・カーネルを用いた価値算出法について簡単に紹介する。
第5回	資本構成の理論	資本構成に関するモディリアーニ・ミラーの定理を紹介する。レバレッジを上げることで企業価値が上昇する要因とレバレッジを下げることで企業価値が上昇する要因の両方を概説する。
第6回	資本構成の理論	資本構成に関するモディリアーニ・ミラーの定理を紹介する。レバレッジを上げることで企業価値が上昇する要因とレバレッジを下げることで企業価値が上昇する要因の両方を概説する。
第7回	配当政策の理論	配当政策に関する基本的結果であるモディリアーニ・ミラーの結論を解説した後、配当を増やすことによって企業価値が上昇するメカニズムと、配当を減らすことによって企業価値が減るメカニズムを解説する。

第8回	配当政策の理論	配当政策に関する基本的結果であるモディリアーニ・ミラーの結論を解説した後、配当を増やすことによって企業価値が上昇するメカニズムと、配当を減らすことによって企業価値が減るメカニズムを解説する。
第9回	過剰債務問題 (デット・オーバーハング)	コーポレート・ファイナンスにおいて非常に重要な問題である、『過剰債務問題』について解説を行い、そのメカニズムについて理解をする。
第10回	企業買収に係わる問題	企業買収におけるフリーライダー問題を紹介し、それに対してどのような対応が考えられるのかを解説する。
第11回	コーポレートファイナンスに関するケーススタディ (FOI 事件)	株式会社 FOI の上場に関するケースを紹介し、ディスカッションを行う。
第12回	コーポレートファイナンスに関するケーススタディ第1回	履修者が選んだケースを紹介し、ディスカッションを行う。
第13回	コーポレートファイナンスに関するケーススタディ第2回	履修者が選んだケースを紹介し、ディスカッションを行う。
第14回	コーポレートファイナンスに関するケーススタディ第3回	履修者が選んだケースを紹介し、ディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりと行い、講義で理解できていない点があれば『何が理解できていないのか』を認識する。

【テキスト（教科書）】

講師が用意する『講義資料』

【参考書】

砂川伸幸、川北英隆、杉浦秀徳、『日本企業のコーポレートファイナンス』日本経済新聞社、2008。
砂川伸幸、川北英隆、杉浦秀徳、佐藤淑子共著、『経営戦略とコーポレートファイナンス』、日本経済新聞社、2013。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業中の発言とケースの発表に基づく。

【学生の意見等からの気づき】

特段なし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

This course have two main purposes.

First is to learn basic knowledge of corporate finance, which is based on micro economics.

Second is to apply knowledge to real economy.

To achieve the objectives, you acquire fundamental corporate finance theory in lectures, initially.

Then, for application to the real economy, we have discussion about case studies.

MAN500F1 - 0106

経営学基礎

福島 英史

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、経営学の基礎的な知識を習得することにあります。企業組織が市場を中心とした環境に働きかける活動とこれを支える組織の問題を考えていきます。どのように精緻に活動を計画できたとしても、組織がこれを適切に遂行できなければ、期待するような成果を得ることはできるはずもありません。そこで、組織の対外的な活動とこれを計画し、遂行する組織内部の問題についてみていきます。

【到達目標】

経営学を体系的に学んだことがない者が、経営学の基礎的な概念・視角について理解し、説明できることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

日本企業の経営、雇用の問題や顧客・競合他社をとらえる視点、組織の存在意義と人々の参加・調整、会社の形態や資金調達のある方、といった経営学の一般的なトピックスについて講義から学んでいきます。講義中に扱われるトピックスに関連したエクササイズを解くなどの課題が授業中に課されます。その際、履修者は、課題に関する意見を求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要と問題意識の共有
第2回	会社の諸形態と資本政策	会社制度の基礎
第3回	会社の諸形態と資本政策 (1)	株式会社の意味を考える
第4回	雇用問題を捉える視点 (2)	株式会社の意味を考える
第5回	雇用問題を捉える視点 (1)	株式会社の意味を考える
第6回	雇用問題を捉える視点 (2)	株式会社の意味を考える
第7回	経営戦略の考え方 (1)	株式会社の意味を考える
第8回	経営戦略の考え方 (2)	株式会社の意味を考える
第9回	経営戦略の考え方 (3)	株式会社の意味を考える
第10回	組織と市場	なぜ組織がつくられるのかの理論
第11回	モチベーション	実体とプロセスの理論
第12回	リーダーシップ	スタイルと状況適合
第13回	調整メカニズム (1)	標準化と組織文化
第14回	調整メカニズム (2)	組織構造の役割
第15回	まとめ、試験	学習成果の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の内容について復習するとともに、身近な事例で考えてください。課題がある場合には、これを指示します。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

多岐にわたるため、授業中に各トピックスに関連した文献を教員が提示。

【成績評価の方法と基準】

学習成果の確認ため試験を行い（50%）、授業中の課題・これにもとづく発言（50%）を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業時エクササイズ時間を増やします

【担当教員の専門分野】

＜専門領域＞組織の戦略的意思決定
 ＜研究テーマ＞戦略と組織・イノベーション、各国企業システムと産業発展のダイナミズム、経営学説史など
 ＜主要研究業績＞①「オープン・イノベーション・ワールド探訪-概念検討と画像半導体産業揺籃期」『経営志林』53 (1), 2016. ②“Inside Cooperative Innovation: Development and Commercialization of Sodium-Sulfur Batteries for Power Storage,” IIR Case Studies (Hitotsubashi University), 13 (1), 2013. ③「アンソフ戦略論への批判」『経営学史叢書 IX アンソフ』（文真堂），2012.

【Outline and objectives】

The outline and objective of this class are as follows. We study the elements of academic concepts, logic, and theory of management. Those include topics of organizational activities toward their business environment like markets and internal activities of their members which construct the former. No matter how good the plan is, we can't gain expected result if our organization is not able to go through with it. Thus we address both external and internal problems of organizational activities.

MAN500F1 - 0108

会計学基礎

筒井 知彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、会計学の入門的な内容を学ぶ。財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）の仕組みと見方、資産評価、収益や費用の認識と測定、財務分析の手法を学ぶ。学習を通じて財務諸表を読めるようになること、また、実際の財務諸表データを利用して基本的な財務分析を行えるようになることを目的とする。

【到達目標】

- ①貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書が読める。
- ②基本的な財務指標の知識が増える。
- ③企業の財務データを利用して基本的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

- ①講義と質疑応答、ディスカッションにより進めます。
- ②第12回～第14回では各学生に財務分析のプレゼンテーションを行ってもらい、それをもとにディスカッションをします。
- ③毎回、リアクションペーパーを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の全体の概要を説明します。
第2回	財務諸表の見方(その1)	貸借対照表の構造および役割等について講義し、具体的な事例で見方を学びます。
第3回	財務諸表の見方(その2)	損益計算書の構造、役割および貸借対照表との関係等について講義し、具体的な事例で見方を学びます。
第4回	財務諸表の見方(その3)	キャッシュ・フロー計算書の構造、役割並びに貸借対照表および損益計算書との関係等について講義し、具体的な事例で見方を学ぶ。
第5回	財務諸表の見方(その4)	財務諸表を利用した分析手法を講義し、具体的な事例で実践します。
第6回	制度会計(その1)	わが国の制度会計（金融商品取引法会計・会社法会計・税務会計）の概要を理解します。
第7回	制度会計(その2)	わが国の制度会計（金融商品取引法会計・会社法会計・税務会計）の相互の関係と、国際的基準の影響について講義します。
第8回	利益計算の構造(その1)	伝統的な利益計算構造と財務会計の諸概念について講義します。
第9回	利益計算の構造(その2)	資産・負債アプローチに基づく利益計算構造と財務会計の諸概念について講義します。
第10回	利益計算の構造(その3)	伝統的な利益計算と資産・負債アプローチに基づく利益計算が現代の企業会計においてどのように統合されているかを理解します。
第11回	経営分析(1)	具体的な事例により、収益性、効率性、安全性を分析します。
第12回	経営分析(2)	財務分析のプレゼンテーション
第13回	経営分析(3)	財務分析のプレゼンテーション
第14回	経営分析(4)	財務分析のプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①財務分析の手法に関する資料は復習してください。
- ②また、各自が選んだ企業の財務データについて、レポートをまとめてもらう予定です。
- ③それをもとにプレゼンテーションを行ってもらいます。

【テキスト（教科書）】

講義資料を配布します。

【参考書】

特に指定はしませんが、会計学または財務会計の入門書が参考になります。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション 30 %およびレポート 70%により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

スクリーンが見づらいという指摘がありましたので、改善します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを利用することがあります。その場合、前もってアナウンスします。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > 財務会計

< 研究テーマ > 会計規制論、フランス会計制度研究

< 主要研究業績 >

- ①『企業分析入門』（共訳、東京大学出版会、2001年3月）
- ②『財務会計通論』（分担執筆、税務経理学会、2009年3月）
- ③『収益の会計』（日本証券アナリスト協会）

【Outline and objectives】

This class focuses on financial literacy and aims to provide students with the knowledge, understandings and a range of skills that enables them to make basic financial analysis.

FRI500F1 - 0114

情報学特論

児玉 靖司

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

次の項目に沿って講義を行い、簡単な演習として学生独自の問題発見、解決を行うことを目標とする。①情報学とは、②コンピュータと経営学、③人工知能と経営学、④最近の情報システム、⑤経営戦略と情報システム、⑥経営戦略と OR（オペレーションズリサーチ）、⑦線形計画法とゲーム理論、⑧その他の話題、以上のテーマに関する講義を行う。

【到達目標】

できるだけ最新の話題から経営学との関係についてまとめ、考察を行う方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

情報学は、現在の経営学にとっても重要な学問領域である。本講義では、コンピュータの仕組みから学問としてのコンピュータの話題について幅広く解説し、さらに、情報システムと OR を用いた経営戦略のあり方について考察を行う。(1) コンピュータの仕組み、(2) ソフトウェア工学、(3) 人工知能とコンピュータ、(4) 経営戦略と情報システム、(5) 経営戦略と線形計画法、(6) OR を用いた経営戦略、以上をテーマとした講義を行う。全体を通して、経営戦略を意識したコンピュータシステムに関する知識、使い方、情報システムのあり方について触れる。情報学と経営学との接点に関する学問的考察は一般的にはほとんどないと考えられるので独自の考察を行う。さらに、論文講読、外書講読を希望する学生が多い場合は、最近の情報システムやコンピュータ科学に関する論文を選択し輪読することがある。PC の画面をプロジェクタに投影しながら解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	情報学とは	情報学の基礎と経営学の関わりについて学ぶ。
第 2 回	コンピュータ科学について	コンピュータ科学の基礎から応用について学ぶ。
第 3 回	ソフトウェア工学（1）	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。
第 4 回	ソフトウェア工学（2）	要求工学を中心したソフトウェア工学について学ぶ。
第 5 回	ソフトウェア工学（3）	ソフトウェア工学の応用について学ぶ。
第 6 回	線形計画法（1）	線形計画法について学ぶ。
第 7 回	線形計画法（2）	線形計画法全般について学ぶ。
第 8 回	線形計画法（3）	線形計画法の応用について学ぶ。
第 9 回	モデル検査（1）	モデル検査の基礎について学ぶ。
第 10 回	モデル検査（2）	モデル検査について学ぶ。
第 11 回	人工知能概説	人工知能と経営学について考察をする。
第 12 回	ゲーム理論（1）	ゲーム理論の基礎について学ぶ。
第 13 回	ゲーム理論（2）	ゲーム理論の基本定理を中心として学ぶ。
第 14 回	ゲーム理論（3）	ゲーム理論の応用について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の中で、1 回以上プレゼンテーションを行ってもらうため、準備を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。パワーポイント資料を別途配布する。

【参考書】

開講後に指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）、レポートまたはプレゼンテーション（40%）。

【学生の意見等からの気づき】

学生の研究内容に関連したディスカッションを多用する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > 情報学

< 研究テーマ > ディープラーニング、学習解析、コンピュータ科学

< 主要研究業績 >

・ Estimating Grades from Students' Behaviors in Programming Exercises using Machine Learning, Learning Analytics & Knowledge Conference (LAK18).

・ Estimating Grades from Students' Behaviors in Programming Exercises using Deep Learning, Proc. of 4th Annual Conference on Computational Science and Computational Intelligence (CSCI 2017).

・ Using Deep Learning to Predict Students' Programming Performance from Behavioral Features, Proc. of LASI-Asia 2017, JASLA, 2017.

・ Data Mining of Students' Behaviors in Programming Exercises, Proc. of 3rd International KES Conference on Smart Education and E-learning (KES-SEL-16), June 2016.

・ Reports on the Practice Toward the Self-Regulatory Learning using Google Forms, Proc. of 5th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI AAI 2016), July 2016.

・ JMOOC: MOOC from Japan, Our Challenges and Perspectives, Proc. of Regional Expert Meeting on MOOCs, July 2015.

・ http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/18/0001745/theses_e1.html

【Outline and objectives】

This course is aimed at students to do student's own problem finding and solution as simple exercises. (1) Information sciences (2) Computer and management (3) Artificial Intelligence and management, (4) Recent information systems, (5) Management strategy and information system, (6) Management strategy and OR (operations research), (7) Linear programming and game theory, (8) Miscellaneous topics and lectures on the above themes.

ECN500F1 - 0117

統計データ解析

高橋 慎

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データを収集・整理し、データの背後にある構造を捉えることは、分野を問わず重要なスキルです。収集されたデータをまとめて、見やすく整理する方法は「記述統計」と呼ばれます。一方、データを生み出した背後の構造を推論することは「推測統計」あるいは「統計的推測」と呼ばれます。この授業では、「記述統計」と「推測統計」の基礎的事項を学び、無料ソフトウェア R を用いた「統計分析」を行います。

【到達目標】

- ・統計学の基本的な考え方を理解し、データの整理・要約ができる。
- ・実際のデータを用いて統計分析を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

下記のテキストに沿って統計学の基礎理論と分析手法を学びます。配布資料（スライド）による講義と、各トピック毎に R を使ったデータ分析の実習を行うことにより、理解を深め知識の定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション / R の使い方	授業の概要を説明し、R の基本的な使い方を確認します。
2	記述統計	度数分布とヒストグラム、平均値などの代表値、分散などのばらつきの尺度を学びます。
3	2 つの変数間の関係	散布図、相関係数、分割表などを学びます。
4	確率変数	確率変数の種類、期待値と分散、確率変数間の関係など確率変数についての基礎的事項を確認します。
5	確率分布	正規分布などの代表的な確率分布を紹介します。
6	大数の法則と中心極限定理	2 つの重要な統計理論をシミュレーションを通して確認します。
7	標本分布	母集団と標本、標本抽出、母集団と母数、統計量などの概念を学びます。
8	推定	点推定と区間推定など、推定に関する基礎的事項を確認します。
9	仮説検定	仮説検定の基本的な考え方、実際の検定方法を学びます。
10	2 標本検定	2 つの母集団の平均と分散の違いを検定する方法を学び、仮想データを使って特別陳列の有無による売上の差を検証します。
11	分散分析	分散分析の基礎的事項を学び、仮想データを使ってチラシの種類による売上の差を検証します。
12	回帰分析	回帰分析の基礎的事項を学び、仮想データを使って価格や特別陳列が売上に与える影響を予測します。
13	一般化線形モデル	ロジスティック回帰モデルやポアソン回帰モデルを学び、仮想データを使って DM への反応・サイトアクセス回数を予測します。
14	多項ロジットモデル / まとめ	多項ロジットモデルを用いた分析手法を学び、ブランド選択行動の要因を探ります。 / 授業で扱った内容をまとめ、授業では扱えなかったトピックを紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや資料を見直し、基本概念と R を使った分析手法を確認します。

【テキスト（教科書）】

本橋永至（2015）『R で学ぶ統計データ分析—マーケティングデータを分析しながら正しい理論と分析力を身につける—』オーム社

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】

データ分析の演習を多く取り入れ、分析結果のディスカッションも行います。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で行う R を用いた演習やデータ分析を行うには、パソコンが必要です。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 統計学、計量ファイナンス

＜研究テーマ＞ 金融時系列データの統計分析

＜主要研究業績＞

Volatility and quantile forecasts by realized stochastic volatility models with generalized hyperbolic distribution (with Toshiaki Watanabe and Yasuhiro Omori), 2016, International Journal of Forecasting, 32, 437-457.

News impact curve for stochastic volatility models (with Yasuhiro Omori and Toshiaki Watanabe), 2013, Economics Letters, 120, 130-134.

Estimating stochastic volatility models using daily returns and realized volatility simultaneously (with Yasuhiro Omori and Toshiaki Watanabe), 2009, Computational Statistics and Data Analysis, 53, 2404-2426.

【Outline and objectives】

Collecting/summarizing data and capturing the structure behind the data are important skills irrespective of fields. A collection of methods for summarizing the data so that we can see its features easily is called “descriptive statistics.” On the other hand, a collection of methods for inferring the data-generating structure is called “inferential statistics” or “statistical inference.” In this course, we learn basic elements of the “descriptive statistics” and “inferential statistics” and do “statistical analysis” using a free software R.

MAN700F1 - 0001

博士演習 I A**経営学専攻 各指導教員****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習 I A では、博士コースのステップ 1 のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習 I A では、博士コースのステップ 1 のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースのステップ 1 のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を報告する
第 2 回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第 3 回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第 4 回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第 5 回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第 6 回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第 7 回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第 8 回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第 9 回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第 10 回	プロポーザル論文執筆指導①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法、博士論文構成に基づいたプロポーザル論文執筆の指導をうける
第 11 回	プロポーザル論文執筆指導②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法、博士論文構成に基づいたプロポーザル論文執筆の指導をうける
第 12 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 13 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 - 0002

博士演習 I B**経営学専攻 各指導教員****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習 I B では、博士コースのステップ 1 のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

なお、ステップ 1 をクリアしている場合は、博士演習 II A のシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習 I B では、I A に引き続き、博士コースのステップ 1 のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースのステップ 1 のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第3回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第4回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第5回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第6回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第7回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第8回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第9回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	プロポーザル論文執筆指導①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法、博士論文構成に基づいたプロポーザル論文執筆の指導をうける
第11回	プロポーザル論文執筆指導②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法、博士論文構成に基づいたプロポーザル論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 - 0003

博士演習Ⅱ A**金 瑤晋****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの 3 段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅱ A では、博士コースのステップ 2 のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

【到達目標】

博士コースのステップ 2 の「サーベイ論文と構成章（論文）」で求められる、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）を完成させる。

輪読や報告に対しての、教員による質疑および助言、批判、評価を通して、質の高い博士論文執筆に向けての高度な専門知識を身につけることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を 1 本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）の報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ 2 のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 3 回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 4 回	先行論文サーベイと、研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 5 回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）の報告
第 6 回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）の報告
第 7 回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）の報告
第 8 回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）の報告
第 9 回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 10 回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高める。

【その他の重要事項】

受講生には断った上で、受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することは想定される。

【Outline and objectives】

This course provides guidance on how to prepare and complete a ph.D. dissertation in finance.

MAN700F1 - 0004

博士演習Ⅱ B**金 瑤晋****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅱ B では、博士コースのステップ2のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

【到達目標】

博士コースのステップ2のクリアに求められる、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）を完成させる。

輪読や報告に対しての、教員による質疑および助言、批判、評価を通して、質の高い博士論文執筆に向けての高度な専門知識を身につけることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ2のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究結果を報告する
第2回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと、研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高める。

【その他の重要事項】

受講生には断った上で、受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することは想定される。

【Outline and objectives】

This course provides guidance on how to prepare and complete a ph.D. dissertation in finance.

MAN700F1 - 0003

博士演習Ⅱ A**金 容度****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの 3 段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅱ A では、博士コースのステップ 2 のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

なお、ステップ 1 をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ A のシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士コースのステップ 2 の「サーベイ論文と構成章（論文）」で求められる、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）を完成させる。

輪読や報告に対しての、教員による質疑および助言、批判、評価を通して、質の高い博士論文執筆に向けての高度な専門知識を身につけることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を 1 本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）の報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ 2 のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究結果を報告する
第 2 回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 3 回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 4 回	先行論文サーベイと、研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 5 回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）の報告
第 6 回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）の報告
第 7 回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）の報告
第 8 回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）の報告
第 9 回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 10 回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高める。

【その他の重要事項】

受講生には断った上で、受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することは想定される。

【Outline and objectives】

The objective of Doctoral Seminar Ⅱ A is to pass the step 2 of doctoral course by completing the survey article and some chapters of doctoral dissertation.

MAN700F1 - 0004

博士演習Ⅱ B**金 容度****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの 3 段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅱ B では、博士コースのステップ 2 のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

なお、ステップ 1 をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ B のシラバスの内容を、ステップ 2 をクリアしている場合は、博士演習Ⅲ A のシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士コースのステップ 2 のクリアに求められる、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）を完成させる。

輪読や報告に対しての、教員による質疑および助言、批判、評価を通して、質の高い博士論文執筆に向けての高度な専門知識を身につけることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を 1 本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ 2 のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究結果を報告する
第 2 回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 3 回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 4 回	先行論文サーベイと、研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 5 回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）の報告
第 6 回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）の報告
第 7 回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）の報告
第 8 回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）の報告
第 9 回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 10 回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高める。

【その他の重要事項】

受講生には断った上で、受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することは想定される。

【Outline and objectives】

The objective of Doctoral Seminar Ⅱ B is to pass the step 2 of doctoral course by completing the survey article and some chapters of doctoral dissertation.

MAN700F1 - 0003

博士演習Ⅱ A

西川 英彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅱ Aでは、博士コースのステップ2のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅱ Aでは、博士コースのステップ2の「サーベイ論文と構成章（論文）」で求められる、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）を完成させる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ2のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと、研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

博士演習ⅡB

西川 英彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡBでは、博士コースのステップ2のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習ⅠAのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡBでは、博士コースのステップ2の「サーベイ論文と構成章（論文）」で求められる、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）を完成させる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ2のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと、研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 - 0003

博士演習Ⅱ A

竹内 淑恵

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅱ Aでは、博士コースのステップ2のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅱ Aでは、博士コースのステップ2の「サーベイ論文と構成章（論文）」で求められる、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）を完成させる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ2のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと、研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

博士演習ⅡB

竹内 淑恵

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡBでは、博士コースのステップ2のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習ⅠAのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡBでは、博士コースのステップ2の「サーベイ論文と構成章（論文）」で求められる、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）を完成させる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ2のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと、研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 - 0005

博士演習Ⅲ A

西川 英彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Aでは、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構想の提示と主要章（論文）」の執筆を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Aのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士コースのステップ3のクリアに「全体構想の提示と主要章（論文）」で求められる、博士論文全体構想と、博士論文を構成する主要章となる論文を完成させる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構想の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構想の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構想の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第3回	全体構想の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第4回	全体構想の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第5回	主要章の報告①	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 - 0006

博士演習Ⅲ B

西川 英彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップに基づき、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Bでは、各ステップで承認された内容に基づいて完成された博士論文をもとに学位申請を行い、審査小委員会の審査・試験の準備を行う。さらに、審査小委員会から修正意見が出された場合には、博士論文を改善し、修正博士論文を提出し、学位取得を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Aのシラバスの内容を、ステップ3をクリアしていない場合は、博士演習Ⅲ Aの内容を実施する。

【到達目標】

博士論文を提出し審査小委員会での審査を受ける。審査小委員会から修正意見が出された場合には、博士論文を改善し、修正博士論文を提出する。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士論文をもとに学位申請を行い、指導教員による批評および助言を受けると同時に、審査小委員会の審査・試験の準備を行う。さらに、審査小委員会の修正意見をもとに、指導教員による批評および助言を受けると同時に、博士論文を改善し、修正博士論文を提出し、学位取得を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	学位申請	博士論文をもとに、学位申請を行う
第2回	審査小委員会の審査、試験の準備①	審査及び試験のための準備を行う
第3回	審査小委員会の審査、試験の準備②	審査及び試験のための準備を行う
第4回	審査小委員会の審査、試験の準備③	審査及び試験のための準備を行う
第5回	審査小委員会の審査、試験の準備④	審査及び試験のための準備を行う
第6回	博士論文の修正①	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第7回	博士論文の修正②	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第8回	博士論文の修正③	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第9回	博士論文の修正④	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第10回	博士論文の修正⑤	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第11回	修正博士論文の確認①	修正博士論文の提出前の詳細な確認を行う
第12回	修正博士論文の確認②	修正博士論文の提出前の詳細な確認を行う
第13回	修正博士論文の最終確認	修正博士論文の提出前の詳細な最終確認を行う
第14回	修正博士論文の提出	修正意見をもとにした修正博士論文を提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文の完成を目指して、博士論文の執筆を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 - 0005

博士演習Ⅲ A

李 瑞雪

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Aでは、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構想の提示と主要章（論文）」の執筆を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Aのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士コースのステップ3のクリアに「全体構想の提示と主要章（論文）」で求められる、博士論文全体構想と、博士論文を構成する主要章となる論文を完成させる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構想の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構想の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構想の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第3回	全体構想の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第4回	全体構想の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第5回	主要章の報告①	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 - 0006

博士演習Ⅲ B**李 瑞雪****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップに基づき、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Bでは、各ステップで承認された内容に基づいて完成された博士論文をもとに学位申請を行い、審査小委員会の審査・試験の準備を行う。さらに、審査小委員会から修正意見が出された場合には、博士論文を改善し、修正博士論文を提出し、学位取得を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Aのシラバスの内容を、ステップ3をクリアしていない場合は、博士演習Ⅲ Aの内容を実施する。

【到達目標】

博士論文を提出し審査小委員会での審査を受ける。審査小委員会から修正意見が出された場合には、博士論文を改善し、修正博士論文を提出する。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士論文をもとに学位申請を行い、指導教員による批評および助言を受けると同時に、審査小委員会の審査・試験の準備を行う。さらに、審査小委員会の修正意見をもとに、指導教員による批評および助言を受けると同時に、博士論文を改善し、修正博士論文を提出し、学位取得を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	学位申請	博士論文をもとに、学位申請を行う
第2回	審査小委員会の審査、試験の準備①	審査及び試験のための準備を行う
第3回	審査小委員会の審査、試験の準備②	審査及び試験のための準備を行う
第4回	審査小委員会の審査、試験の準備③	審査及び試験のための準備を行う
第5回	審査小委員会の審査、試験の準備④	審査及び試験のための準備を行う
第6回	博士論文の修正①	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第7回	博士論文の修正②	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第8回	博士論文の修正③	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第9回	博士論文の修正④	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第10回	博士論文の修正⑤	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第11回	修正博士論文の確認①	修正博士論文の提出前の詳細な確認を行う
第12回	修正博士論文の確認②	修正博士論文の提出前の詳細な確認を行う
第13回	修正博士論文の最終確認	修正博士論文の提出前の詳細な最終確認を行う
第14回	修正博士論文の提出	修正意見をもとにした修正博士論文を提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文の完成を目指して、博士論文の執筆を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 - 0005

博士演習Ⅲ A

洞口 治夫

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とします。博士演習Ⅲ A では、博士コースのステップⅢのクリアに求められる水準の「全体構想の提示と主要章（論文）」の執筆を目指し、さらに博士論文の完成を目指します。なお、ステップⅠをクリアできない場合は、博士演習Ⅰ A のシラバスの内容を、ステップⅡをクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ A のシラバスの内容を実施します。

【到達目標】

博士コースのステップⅢのクリアに「全体構想の提示と主要章（論文）」で求められる、博士論文全体構想と、博士論文を構成する主要章となる論文を完成させます。論文の輪読を行うとともに、研究報告に対する教員による質疑および助言、批判、評価を通して、質の高い博士論文執筆に向けての高度な専門知識を身につけましょう。なお、博士論文には、査読付き学術雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要があります。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構想の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢで求められる水準の「全体構想の提示と主要章（論文）」の完成を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究結果を報告する。発表先となりうる複数の学会および学術雑誌の比較検討。
第2回	全体構想の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第3回	全体構想の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第4回	全体構想の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第5回	主要章の報告①	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告。発表先となる学会の選択。
第6回	主要章の報告②	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告。発表を予定する学術雑誌の投稿規程の確認。
第7回	主要章の報告③	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告。
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導。データの確認。
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導。リサーチ・クエスションと仮説の設定。
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導。結論とディスカッション部分の検討。
第11回	博士コースワークショップの準備①	提出論文および発表スライドの報告。基本文献サーベイの確認。
第12回	博士コースワークショップの準備②	提出論文および発表スライドの報告。ネットコントリビューションの確認。
第13回	博士コースワークショップの準備③	提出論文および発表スライドの報告。新たな理論的命題ないし仮説導出の確認。
第14回	博士コースワークショップのフィードバック	博士コースワークショップでの指摘事項の整理。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。学会報告論文に引用する予定となる論文を輪読する。

【参考書】

- ① 洞口治夫『MBAのナレッジ・マネジメントー集合知創造の現場としての社会人大学院ー』文眞堂、2018年。
- ② 小池和男・洞口治夫『経営学のフィールド・リサーチー「現場の達人」の実践的調査手法ー』日本経済新聞社、2006年。
- ③ 洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメントー学部ゼミナール編ー』白桃書房、2008年。
- ④ Haruo H. Horaguchi, Collective Knowledge Management: Foundations of International Business in the Age of Intellectual Capitalism, Edward Elgar, 2014.
- ⑤ エディテージ『英文校正会社が教える英語論文のミス 100』熊沢美穂子訳、ジャパントタイムズ、2016年。
- ⑥ マーク・ピーターセン『日本人の英語』岩波新書、1988年。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告（50 %）、論文（50 %）。

成果のみならず、そのプロセスを評価の対象とする。調査・研究の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿と、その査読コメントへの対応状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高める。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書。スマホ。パソコン。

【その他の重要事項】

受講生の要望や論文作成の進行状況によって適宜授業計画を修正することがある。

【Outline and objectives】

In this doctoral seminar, doctoral students are expected to acquire advanced expertise to plan and steadily advance the doctoral dissertation writing. The students receive advice and criticism from the team of supervisors for every round of revising the papers. Through these efforts, the students are expected to reach the level of each of the three steps in the doctor course. Doctoral Seminar IIIA aims to help students complete the doctoral theses with the writings of "overall concept and presenting the main chapters of the thesis" at the level required for clearing Step III of the doctoral course. If you have not cleared Step I, you will learn the same contents of Step IA again as Step III. If you have not cleared Step II, you will learn the same contents of Step IIA as Step III in this course.

博士演習Ⅲ B

洞口 治夫

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップに基づき、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。博士演習Ⅲ B では、各ステップで承認された内容に基づいて完成された博士論文をもとに学位申請を行い、審査小委員会の審査・試験の準備を行う。さらに、審査小委員会の修正意見をもとに、博士論文を改善し、修正博士論文を提出し、学位取得を目指す。なお、ステップⅠをクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ A のシラバスの内容を、ステップⅡをクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ A のシラバスの内容を、ステップⅢをクリアしていない場合は、博士演習Ⅲ A の内容を実施する。

【到達目標】

博士論文の審査小委員会での修正意見をもとに、博士論文を改し、修正博士論文を提出する。もちろん、修正意見が全くない場合は、修正は不要である。なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士論文をもとに学位申請を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、審査小委員会の審査・試験の準備を行う。さらに、審査小委員会の修正意見をもとに、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士論文を改善し、修正博士論文を提出し、学位取得を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	学位申請	博士論文をもとに、学位申請を行う
第2回	審査小委員会の審査、試験の準備①	審査及び試験のための準備を行う
第3回	審査小委員会の審査、試験の準備②	審査及び試験のための準備を行う
第4回	審査小委員会の審査、試験の準備③	審査及び試験のための準備を行う
第5回	審査小委員会の審査、試験の準備④	審査及び試験のための準備を行う
第6回	博士論文の修正①	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第7回	博士論文の修正②	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第8回	博士論文の修正③	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第9回	博士論文の修正④	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第10回	博士論文の修正⑤	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第11回	修正博士論文の確認①	修正博士論文の提出前の詳細な確認を行う
第12回	修正博士論文の確認②	修正博士論文の提出前の詳細な確認を行う
第13回	修正博士論文の最終確認	修正博士論文の提出前の詳細な最終確認を行う
第14回	修正博士論文の提出	修正意見をもとにした修正博士論文を提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文の完成を目指して、博士論文の執筆を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

- ①洞口治夫『MBAのナレッジ・マネジメントー集合知創造の現場としての社会人大学院ー』文眞堂、2018年。
- ②小池和男・洞口治夫『経営学のフィールド・リサーチー「現場の達人」の実践的調査手法ー』日本経済新聞社、2006年。
- ③洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロップメントー学部ゼミナール編ー』白桃書房、2008年。

④ Haruo H. Horaguchi, Collective Knowledge Management: Foundations of International Business in the Age of Intellectual Capitalism, Edward Elgar, 2014.

⑤エディテージ『英文校正会社が教える英語論文のミス 100』熊沢美穂子訳、ジャパンタイムズ、2016年。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高める。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書。スマホ。パソコン。

【その他の重要事項】

受講生の要望や論文の進行状況によって適宜授業計画を修正することがある。受講生が英語で博士論文を執筆する場合には、学生の自費によって英文校正を受ける必要がある。（なお、学術雑誌に掲載される論文については、大学院に英文校正補助の制度があるので確認すること。）

【Outline and objectives】

In this doctoral seminar, doctoral students are expected to acquire advanced expertise to plan and steadily advance the doctoral dissertation writing. The students receive advice and criticism from the team of supervisors for every round of revising the papers. Through these efforts, the students are expected to reach the level of each of the three steps in the doctor course. Doctoral Seminar IIIB aims to help students complete the doctoral theses with the writings of "overall concept and presenting the main chapters of the thesis" at the level required for clearing Step III of the doctoral course. If you have not cleared Step I, you will learn the same contents of Step IA again as Step III. If you have not cleared Step II, you will learn the same contents of Step IIA as Step III in this course. If you have not cleared Step III, you will learn the same contents of Step IIIA as Step III in this course.

MAN700F1 - 0005

博士演習Ⅲ A

竹内 淑恵

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Aでは、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構想の提示と主要章（論文）」の執筆を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Aのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士コースのステップ3のクリアに「全体構想の提示と主要章（論文）」で求められる、博士論文全体構想と、博士論文を構成する主要章となる論文を完成させる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構想の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構想の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構想の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第3回	全体構想の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第4回	全体構想の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第5回	主要章の報告①	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 - 0006

博士演習Ⅲ B

竹内 淑恵

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップに基づき、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Bでは、各ステップで承認された内容に基づいて完成された博士論文をもとに学位申請を行い、審査小委員会の審査・試験の準備を行う。さらに、審査小委員会から修正意見が出された場合には、博士論文を改善し、修正博士論文を提出し、学位取得を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Aのシラバスの内容を、ステップ3をクリアしていない場合は、博士演習Ⅲ Aの内容を実施する。

【到達目標】

博士論文を提出し審査小委員会での審査を受ける。審査小委員会から修正意見が出された場合には、博士論文を改善し、修正博士論文を提出する。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士論文をもとに学位申請を行い、指導教員による批評および助言を受けると同時に、審査小委員会の審査・試験の準備を行う。さらに、審査小委員会の修正意見をもとに、指導教員による批評および助言を受けると同時に、博士論文を改善し、修正博士論文を提出し、学位取得を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	学位申請	博士論文をもとに、学位申請を行う
第2回	審査小委員会の審査、試験の準備①	審査及び試験のための準備を行う
第3回	審査小委員会の審査、試験の準備②	審査及び試験のための準備を行う
第4回	審査小委員会の審査、試験の準備③	審査及び試験のための準備を行う
第5回	審査小委員会の審査、試験の準備④	審査及び試験のための準備を行う
第6回	博士論文の修正①	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第7回	博士論文の修正②	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第8回	博士論文の修正③	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第9回	博士論文の修正④	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第10回	博士論文の修正⑤	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第11回	修正博士論文の確認①	修正博士論文の提出前の詳細な確認を行う
第12回	修正博士論文の確認②	修正博士論文の提出前の詳細な確認を行う
第13回	修正博士論文の最終確認	修正博士論文の提出前の詳細な最終確認を行う
第14回	修正博士論文の提出	修正意見をもとにした修正博士論文を提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文の完成を目指して、博士論文の執筆を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 - 0005

博士演習Ⅲ A**横内 正雄****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Aでは、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構想の提示と主要章（論文）」の執筆を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Aのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士コースのステップ3のクリアに「全体構想の提示と主要章（論文）」で求められる、博士論文全体構想と、博士論文を構成する主要章となる論文を完成させる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構想の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構想の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構想の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第3回	全体構想の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第4回	全体構想の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第5回	主要章の報告①	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 - 0006

博士演習Ⅲ B**横内 正雄****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップに基づき、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Bでは、各ステップで承認された内容に基づいて完成された博士論文をもとに学位申請を行い、審査小委員会の審査・試験の準備を行う。さらに、審査小委員会から修正意見が出された場合には、博士論文を改善し、修正博士論文を提出し、学位取得を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Aのシラバスの内容を、ステップ3をクリアしていない場合は、博士演習Ⅲ Aの内容を実施する。

【到達目標】

博士論文を提出し審査小委員会での審査を受ける。審査小委員会から修正意見が出された場合には、博士論文を改善し、修正博士論文を提出する。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士論文をもとに学位申請を行い、指導教員による批評および助言を受けると同時に、審査小委員会の審査・試験の準備を行う。さらに、審査小委員会の修正意見をもとに、指導教員による批評および助言を受けると同時に、博士論文を改善し、修正博士論文を提出し、学位取得を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	学位申請	博士論文をもとに、学位申請を行う
第2回	審査小委員会の審査、試験の準備①	審査及び試験のための準備を行う
第3回	審査小委員会の審査、試験の準備②	審査及び試験のための準備を行う
第4回	審査小委員会の審査、試験の準備③	審査及び試験のための準備を行う
第5回	審査小委員会の審査、試験の準備④	審査及び試験のための準備を行う
第6回	博士論文の修正①	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第7回	博士論文の修正②	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第8回	博士論文の修正③	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第9回	博士論文の修正④	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第10回	博士論文の修正⑤	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第11回	修正博士論文の確認①	修正博士論文の提出前の詳細な確認を行う
第12回	修正博士論文の確認②	修正博士論文の提出前の詳細な確認を行う
第13回	修正博士論文の最終確認	修正博士論文の提出前の詳細な最終確認を行う
第14回	修正博士論文の提出	修正意見をもとにした修正博士論文を提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文の完成を目指して、博士論文の執筆を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 - 0005

博士演習Ⅲ A**金 容 度****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ A では、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構想の提示と主要章（論文）」の執筆を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習ⅠAのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習ⅡAのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士コースのステップ3のクリアに「全体構想の提示と主要章（論文）」で求められる、博士論文全体構想と、博士論文を構成する主要章となる論文を完成させる。

輪読や報告に対しての、教員による質疑および助言、批判、評価を通して、質の高い博士論文執筆に向けての高度な専門知識を身につけることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構想の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構想の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構想の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第3回	全体構想の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第4回	全体構想の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第5回	主要章の報告①	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高める。

【学生が準備すべき機器他】

受講生には断った上で、受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することは想定される。

【Outline and objectives】

The objective of Doctoral Seminar Ⅲ A is to pass the step 3 of doctoral course by completing whole framework and primary chapters of doctoral dissertation.

MAN700F1 - 0006

博士演習Ⅲ B**金 容 度****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップに基づき、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ B では、各ステップで承認された内容に基づいて完成された博士論文をもとに学位申請を行い、審査小委員会の審査・試験の準備を行う。さらに、審査小委員会の修正意見をもとに、博士論文を改善し、修正博士論文を提出し、学位取得を目指す。

なお、ステップ 1 をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ A のシラバスの内容を、ステップ 2 をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ A のシラバスの内容を、ステップ 3 をクリアしていない場合は、博士演習Ⅲ A の内容を実施する。

【到達目標】

博士論文の審査小委員会での修正意見をもとに、博士論文を改し、修正博士論文を提出する。もちろん、修正意見が全くない場合は、修正は不要である。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士論文をもとに学位申請を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、審査小委員会の審査・試験の準備を行う。さらに、審査小委員会の修正意見をもとに、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士論文を改善し、修正博士論文を提出し、学位取得を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	学位申請	博士論文をもとに、学位申請を行う
第2回	審査小委員会の審査、試験の準備①	審査及び試験のための準備を行う
第3回	審査小委員会の審査、試験の準備②	審査及び試験のための準備を行う
第4回	審査小委員会の審査、試験の準備③	審査及び試験のための準備を行う
第5回	審査小委員会の審査、試験の準備④	審査及び試験のための準備を行う
第6回	博士論文の修正①	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第7回	博士論文の修正②	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第8回	博士論文の修正③	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第9回	博士論文の修正④	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第10回	博士論文の修正⑤	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第11回	修正博士論文の確認①	修正博士論文の提出前の詳細な確認を行う
第12回	修正博士論文の確認②	修正博士論文の提出前の詳細な確認を行う
第13回	修正博士論文の最終確認	修正博士論文の提出前の詳細な最終確認を行う
第14回	修正博士論文の提出	修正意見をもとにした修正博士論文を提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文の完成を目指して、博士論文の執筆を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高める。

【その他の重要事項】

受講生には断った上で、受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することは想定される。

【Outline and objectives】

The objective of Doctoral Seminar Ⅲ B is to pass the step 3 of doctoral course by completing whole framework and primary chapters of doctoral dissertation.

MAN700F1 - 0005

博士演習Ⅲ A**新倉 貴士****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Aでは、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構想の提示と主要章（論文）」の執筆を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Aのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士コースのステップ3のクリアに「全体構想の提示と主要章（論文）」で求められる、博士論文全体構想と、博士論文を構成する主要章となる論文を完成させる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構想の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構想の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構想の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第3回	全体構想の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第4回	全体構想の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第5回	主要章の報告①	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 - 0006

博士演習Ⅲ B**新倉 貴士****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップに基づき、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Bでは、各ステップで承認された内容に基づいて完成された博士論文をもとに学位申請を行い、審査小委員会の審査・試験の準備を行う。さらに、審査小委員会から修正意見が出された場合には、博士論文を改善し、修正博士論文を提出し、学位取得を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Aのシラバスの内容を、ステップ3をクリアしていない場合は、博士演習Ⅲ Aの内容を実施する。

【到達目標】

博士論文を提出し審査小委員会での審査を受ける。審査小委員会から修正意見が出された場合には、博士論文を改善し、修正博士論文を提出する。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士論文をもとに学位申請を行い、指導教員による批評および助言を受けると同時に、審査小委員会の審査・試験の準備を行う。さらに、審査小委員会の修正意見をもとに、指導教員による批評および助言を受けると同時に、博士論文を改善し、修正博士論文を提出し、学位取得を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	学位申請	博士論文をもとに、学位申請を行う
第2回	審査小委員会の審査、試験の準備①	審査及び試験のための準備を行う
第3回	審査小委員会の審査、試験の準備②	審査及び試験のための準備を行う
第4回	審査小委員会の審査、試験の準備③	審査及び試験のための準備を行う
第5回	審査小委員会の審査、試験の準備④	審査及び試験のための準備を行う
第6回	博士論文の修正①	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第7回	博士論文の修正②	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第8回	博士論文の修正③	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第9回	博士論文の修正④	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第10回	博士論文の修正⑤	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第11回	修正博士論文の確認①	修正博士論文の提出前の詳細な確認を行う
第12回	修正博士論文の確認②	修正博士論文の提出前の詳細な確認を行う
第13回	修正博士論文の最終確認	修正博士論文の提出前の詳細な最終確認を行う
第14回	修正博士論文の提出	修正意見をもとにした修正博士論文を提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文の完成を目指して、博士論文の執筆を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 - 0005

博士演習Ⅲ A

長岡 健

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Aでは、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構想の提示と主要章（論文）」の執筆を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Aのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士コースのステップ3のクリアに「全体構想の提示と主要章（論文）」で求められる、博士論文全体構想と、博士論文を構成する主要章となる論文を完成させる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構想の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構想の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構想の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第3回	全体構想の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第4回	全体構想の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第5回	主要章の報告①	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 - 0006

博士演習Ⅲ B

長岡 健

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップに基づき、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Bでは、各ステップで承認された内容に基づいて完成された博士論文をもとに学位申請を行い、審査小委員会の審査・試験の準備を行う。さらに、審査小委員会から修正意見が出された場合には、博士論文を改善し、修正博士論文を提出し、学位取得を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Aのシラバスの内容を、ステップ3をクリアしていない場合は、博士演習Ⅲ Aの内容を実施する。

【到達目標】

博士論文を提出し審査小委員会での審査を受ける。審査小委員会から修正意見が出された場合には、博士論文を改善し、修正博士論文を提出する。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士論文をもとに学位申請を行い、指導教員による批評および助言を受けると同時に、審査小委員会の審査・試験の準備を行う。さらに、審査小委員会の修正意見をもとに、指導教員による批評および助言を受けると同時に、博士論文を改善し、修正博士論文を提出し、学位取得を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	学位申請	博士論文をもとに、学位申請を行う
第2回	審査小委員会の審査、試験の準備①	審査及び試験のための準備を行う
第3回	審査小委員会の審査、試験の準備②	審査及び試験のための準備を行う
第4回	審査小委員会の審査、試験の準備③	審査及び試験のための準備を行う
第5回	審査小委員会の審査、試験の準備④	審査及び試験のための準備を行う
第6回	博士論文の修正①	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第7回	博士論文の修正②	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第8回	博士論文の修正③	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第9回	博士論文の修正④	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第10回	博士論文の修正⑤	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第11回	修正博士論文の確認①	修正博士論文の提出前の詳細な確認を行う
第12回	修正博士論文の確認②	修正博士論文の提出前の詳細な確認を行う
第13回	修正博士論文の最終確認	修正博士論文の提出前の詳細な最終確認を行う
第14回	修正博士論文の提出	修正意見をもとにした修正博士論文を提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文の完成を目指して、博士論文の執筆を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 - 0005

博士演習Ⅲ A

坂上 学

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Aでは、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構想の提示と主要章（論文）」の執筆を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Aのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士コースのステップ3のクリアに「全体構想の提示と主要章（論文）」で求められる、博士論文全体構想と、博士論文を構成する主要章となる論文を完成させる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構想の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構想の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構想の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第3回	全体構想の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第4回	全体構想の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第5回	主要章の報告①	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 - 0006

博士演習Ⅲ B**坂上 学****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップに基づき、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Bでは、各ステップで承認された内容に基づいて完成された博士論文をもとに学位申請を行い、審査小委員会の審査・試験の準備を行う。さらに、審査小委員会から修正意見が出された場合には、博士論文を改善し、修正博士論文を提出し、学位取得を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Aのシラバスの内容を、ステップ3をクリアしていない場合は、博士演習Ⅲ Aの内容を実施する。

【到達目標】

博士論文を提出し審査小委員会での審査を受ける。審査小委員会から修正意見が出された場合には、博士論文を改善し、修正博士論文を提出する。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士論文をもとに学位申請を行い、指導教員による批評および助言を受けると同時に、審査小委員会の審査・試験の準備を行う。さらに、審査小委員会の修正意見をもとに、指導教員による批評および助言を受けると同時に、博士論文を改善し、修正博士論文を提出し、学位取得を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	学位申請	博士論文をもとに、学位申請を行う
第2回	審査小委員会の審査、試験の準備①	審査及び試験のための準備を行う
第3回	審査小委員会の審査、試験の準備②	審査及び試験のための準備を行う
第4回	審査小委員会の審査、試験の準備③	審査及び試験のための準備を行う
第5回	審査小委員会の審査、試験の準備④	審査及び試験のための準備を行う
第6回	博士論文の修正①	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第7回	博士論文の修正②	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第8回	博士論文の修正③	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第9回	博士論文の修正④	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第10回	博士論文の修正⑤	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第11回	修正博士論文の確認①	修正博士論文の提出前の詳細な確認を行う
第12回	修正博士論文の確認②	修正博士論文の提出前の詳細な確認を行う
第13回	修正博士論文の最終確認	修正博士論文の提出前の詳細な最終確認を行う
第14回	修正博士論文の提出	修正意見をもとにした修正博士論文を提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文の完成を目指して、博士論文の執筆を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 - 0005

博士演習Ⅲ A

大下 勇二

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Aでは、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構想の提示と主要章（論文）」の執筆を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Aのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士コースのステップ3のクリアに「全体構想の提示と主要章（論文）」で求められる、博士論文全体構想と、博士論文を構成する主要章となる論文を完成させる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構想の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構想の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構想の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第3回	全体構想の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第4回	全体構想の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第5回	主要章の報告①	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 - 0006

博士演習Ⅲ B**大下 勇二****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップに基づき、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Bでは、各ステップで承認された内容に基づいて完成された博士論文をもとに学位申請を行い、審査小委員会の審査・試験の準備を行う。さらに、審査小委員会から修正意見が出された場合には、博士論文を改善し、修正博士論文を提出し、学位取得を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Aのシラバスの内容を、ステップ3をクリアしていない場合は、博士演習Ⅲ Aの内容を実施する。

【到達目標】

博士論文を提出し審査小委員会での審査を受ける。審査小委員会から修正意見が出された場合には、博士論文を改善し、修正博士論文を提出する。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士論文をもとに学位申請を行い、指導教員による批評および助言を受けると同時に、審査小委員会の審査・試験の準備を行う。さらに、審査小委員会の修正意見をもとに、指導教員による批評および助言を受けると同時に、博士論文を改善し、修正博士論文を提出し、学位取得を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	学位申請	博士論文をもとに、学位申請を行う
第2回	審査小委員会の審査、試験の準備①	審査及び試験のための準備を行う
第3回	審査小委員会の審査、試験の準備②	審査及び試験のための準備を行う
第4回	審査小委員会の審査、試験の準備③	審査及び試験のための準備を行う
第5回	審査小委員会の審査、試験の準備④	審査及び試験のための準備を行う
第6回	博士論文の修正①	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第7回	博士論文の修正②	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第8回	博士論文の修正③	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第9回	博士論文の修正④	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第10回	博士論文の修正⑤	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第11回	修正博士論文の確認①	修正博士論文の提出前の詳細な確認を行う
第12回	修正博士論文の確認②	修正博士論文の提出前の詳細な確認を行う
第13回	修正博士論文の最終確認	修正博士論文の提出前の詳細な最終確認を行う
第14回	修正博士論文の提出	修正意見をもとにした修正博士論文を提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文の完成を目指して、博士論文の執筆を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 - 0007

博士コースワークショップ I A

経営学専攻 専任教員

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士コースワークショップは、経営学専攻において博士論文を執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容である。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された3段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員による質疑及び助言を受ける良い機会であると同時に、博士課程大学院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップ I A では、中間報告会での報告内容が、ステップ 1 のクリアに求められる「研究計画書」の水準に達するように、指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】

博士論文のステップ 1 をクリアできる「研究計画書」の水準として、主要先行論文のサーベイに基づく論点の開示、研究方法、博士論文の構成（章立て）、論文作成スケジュールの提示を含むプロポーザル論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。

指導教員および副指導教員による指導のみならず、中間報告会における複数の教員あるいは博士課程大学院生からの質疑応答を通じて、質の高い博士論文執筆に向けて有意義な助言を得ることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文章を作成し、指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、その中間的な成果を中間報告会において報告を行い、複数の教員および参加学生による批判や助言をもらい、ステップ判定を受けることになる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も、全員参加すること。修士課程大学院生、研究生も参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を副指導教員に報告する
第 2 回	主要先行論文サーベイの報告	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイを副指導教員に報告する
第 3 回	研究方法の報告	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法を副指導教員に報告する
第 4 回	博士論文の構成の報告	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第 5 回	プロポーザル論文執筆指導	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法、博士論文構成に基づいたプロポーザル論文執筆の指導を副指導教員からうける
第 6 回	博士コース中間報告会①	博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、7月第1土曜日を予定である
第 7 回	博士コース中間報告会②	博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、7月第1土曜日を予定である

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士演習はもとより学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告終了後には、教員および大学院生からの助言や批判点を整理した上で、論文改善へのフィードバック作業を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

中間報告会での提出論文および報告内容、質疑応答などをもとに、指導教員・副指導教員・研究科長が評価し、その結果を専攻教授会で審議して決定される。A 評価以上の修得者は、ステップ 1 をクリアすることとなり、博士コースワークショップ II A あるいは B を履修可能となる。なお、博士コースワークショップ I A の単位を取得した場合、博士コースワークショップ I B の履修は不要となる。

【学生の意見等からの気づき】

『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Workshop is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Each student will prepare a dissertation research proposal and make presentation at colloquium. Research proposals are examined and assessed by supervisors and judged whether required step is cleared or not.

MAN700F1 - 0008

博士コースワークショップ I B

経営学専攻 専任教員

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士コースワークショップは、経営学専攻において博士論文を執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容である。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された3段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員による質疑及び助言を受ける良い機会であると同時に、博士課程大学院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップ I A では、中間報告会での報告内容が、ステップ 1 のクリアに求められる「研究計画書」の水準に達するように、指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】

博士論文のステップ 1 をクリアできる「研究計画書」の水準として、主要先行論文のサーベイに基づく論点の開示、研究方法、博士論文の構成（章立て）、論文作成スケジュールの提示を含むプロポーザルの提出と、それに基づいた報告が求められる。

指導教員および副指導教員による指導のみならず、中間報告会における複数の教員あるいは博士課程大学院生からの質疑応答を通じて、質の高い博士論文執筆に向けて有意義な助言を得ることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文章を作成し、指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、その中間的な成果を中間報告会において報告を行い、複数の教員および参加学生による批判や助言をもらい、ステップ判定を受けることになる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も、全員参加すること。修士課程大学院生、研究生も参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を副指導教員に報告する
第 2 回	主要先行論文サーベイの報告	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイを副指導教員に報告する
第 3 回	研究方法の報告	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法を副指導教員に報告する
第 4 回	博士論文の構成の報告	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第 5 回	プロポーザル論文執筆指導	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法、博士論文構成に基づいたプロポーザル論文執筆の指導を副指導教員からうける
第 6 回	博士コース中間発表会①	博士コース中間発表会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、12月第3土曜日を予定している
第 7 回	博士コース中間発表会②	博士コース中間発表会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、12月第3土曜日を予定している

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士演習はもとより学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告終了後には、教員および大学院生からの助言や批判点を整理した上で、論文改善へのフィードバック作業を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

中間報告会での提出論文および報告内容、質疑応答などをもとに、指導教員・副指導教員・研究科長が評価し、その結果を専攻教授会で審議して決定される。A 評価以上の修得者は、ステップ 1 をクリアすることとなり、博士コースワークショップ II A あるいは B を履修可能となる。なお、博士コースワークショップ I A の単位を取得した場合、博士コースワークショップ I B の履修は不要となる。

【学生の意見等からの気づき】

『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Workshop is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Each student will prepare a dissertation research proposal and make presentation at colloquium. Research proposals are examined and assessed by supervisors and judged whether required step is cleared or not.

MAN700F1 - 0009

博士コースワークショップⅡ A

経営学専攻 専任教員

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士コースワークショップは、経営学専攻において博士論文を執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容である。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された3段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員による質疑及び助言を受ける良い機会であると同時に、博士課程大学院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップⅡ A では、中間報告会での報告が、ステップ 2 のクリアに求められる「サーベイ論文と構成章（論文）」の水準に達するように、指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】

博士論文のステップ 2 となる「サーベイ論文と構成章（論文）」として、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）となる論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。

指導教員および副指導教員による指導のみならず、中間報告会における複数の教員あるいは博士課程大学院生からの質疑応答を通じて、質の高い博士論文執筆に向けて有意義な助言を得ることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を 1 本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文章を作成し、指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、その中間的な成果を中間報告会において報告を行い、複数の教員および参加学生による批判や助言をもらい、ステップ判定を受けることになる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も、全員参加すること。修士課程大学院生、研究生も参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「研究計画書」の再検討及び現状の研究成果の報告	「研究計画書」の再検討の結果、及びそれに基づく研究成果を副指導教員に報告する
第 2 回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第 3 回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第 4 回	博士論文を構成する章の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第 5 回	博士論文を構成する章の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第 6 回	博士コース中間報告会	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づいて報告する。原則、7 月第 1 土曜日を予定している
第 7 回	博士コース中間報告会②	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づいて報告する。原則、7 月第 1 土曜日を予定している

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士演習はもとより学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告終了後には、教員および大学院生からの助言や批判点を整理した上で、論文改善へのフィードバック作業を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

中間報告会での提出論文および報告内容、質疑応答などをもとに、指導教員・副指導教員・研究科長が評価し、その結果を専攻教授会で審議して決定される。A 評価以上の修得者は、ステップ 2 をクリアすることとなり、博士コースワークショップⅢ A あるいはⅢ B を履修可能となる。なお、博士コースワークショップⅡ A の単位を取得した場合、博士コースワークショップⅡ B の履修は不要となる。

【学生の意見等からの気づき】

『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

博士コースワークショップⅠ A またはⅠ B において、A 評価以上の修得者のみ、履修可能である。

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Workshop is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Each student will prepare a dissertation research proposal and make presentation at colloquium. Research proposals are examined and assessed by supervisors and judged whether required step is cleared or not.

MAN700F1 - 0010

博士コースワークショップⅡ B

経営学専攻 専任教員

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士コースワークショップは、経営学専攻において博士論文を執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容である。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された3段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員による質疑及び助言を受ける良い機会であると同時に、博士課程大学院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップⅡ B では、中間報告会での報告が、ステップ 2 のクリアに求められる「サーベイ論文と構成章（論文）」の水準に達するように、指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】

博士論文のステップ 2 となる「サーベイ論文と構成章（論文）」として、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）となる論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。

指導教員および副指導教員による指導のみならず、中間報告会における複数の教員あるいは博士課程大学院生からの質疑応答を通じて、質の高い博士論文執筆に向けて有意義な助言を得ることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を 1 本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文章を作成し、指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、その中間的な成果を中間報告会において報告を行い、複数の教員および参加学生による批判や助言をもらい、ステップ判定を受けることになる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も、全員参加すること。修士課程大学院生、研究生も参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「研究計画書」の再検討及び現状の研究成果の報告	「研究計画書」の再検討の結果、及びそれに基づく研究成果を副指導教員に報告する
第 2 回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第 3 回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第 4 回	博士論文を構成する章の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第 5 回	博士論文を構成する章の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第 6 回	博士コース中間報告会	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づいて報告する。原則、12 月第 3 土曜日を予定している
第 7 回	博士コース中間報告会②	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づいて報告する。原則、12 月第 3 土曜日を予定している

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士演習はもとより学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告終了後には、教員および大学院生からの助言や批判点を整理した上で、論文改善へのフィードバック作業を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

中間報告会での提出論文および報告内容、質疑応答などをもとに、指導教員・副指導教員・研究科長が評価し、その結果を専攻教授会で審議して決定される。A 評価以上の修得者は、ステップ 2 をクリアすることとなり、博士コースワークショップⅢ A あるいはⅢ B を履修可能となる。

なお、報告しない場合も、博士コース中間報告会には、全員参加すること。

【学生の意見等からの気づき】

『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

博士コースワークショップⅠ A またはⅠ B において、A 評価以上の修得者のみ、履修可能である

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Workshop is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Each student will prepare a dissertation research proposal and make presentation at colloquium. Research proposals are examined and assessed by supervisors and judged whether required step is cleared or not.

MAN700F1 - 0011

博士コースワークショップⅢ A

経営学専攻 専任教員

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士コースワークショップは、経営学専攻において博士論文を執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容である。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された3段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員による質疑及び助言を受ける良い機会であると同時に、博士課程大学院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップⅢ A 授業では、中間報告会での報告で、ステップ3のクリアに求められる「全体構想の提示と主要章（論文）」の水準に達するように、指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】

博士論文のステップ3となる「全体構想の提示と主要章（論文）」の水準として、博士論文全体構想の提示と、博士論文を構成する主要章となる論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。

指導教員および副指導教員による指導のみならず、中間報告会における複数の教員あるいは博士課程大学院生からの質疑応答を通じて、質の高い博士論文執筆に向けて有意義な助言を得ることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文章を作成し、指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、その中間的な成果を中間報告会において報告を行い、複数の教員および参加学生による批判や助言をもらい、ステップ判定を受けることになる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も、全員参加すること。修士課程大学院生、研究生も参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果、及びそれに基づく現状の研究成果を副指導教員に報告する
第2回	博士論文全体構想の提示と検討	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について副指導教員に報告する
第3回	博士論文全体構想の提示と検討②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について副指導教員に報告する
第4回	主要章の報告①	全体構想に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第5回	主要章の報告②	全体構想に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第6回	博士コース中間報告会	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構想」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、7月第1土曜日を予定している。
第7回	博士コース中間報告会②	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構想」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、7月第1土曜日を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士演習はもとより学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告会終了後には、教員および大学院生からの助言や批判点を整理した上で、論文改善へのフィードバック作業を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

中間報告会での提出論文および報告内容、質疑応答などをもとに、指導教員・副指導教員・研究科長が評価し、その結果を研究科教授会で審議して決定される。A 評価以上の修得者は、ステップ3をクリアすることとなり、博士論文を提出することが可能となる。博士コースワークショップⅢ A の単位を取得した場合、博士コースワークショップⅢ B の履修は不要となる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も、全員参加すること。修士課程大学院生、研究生も参加できる。

【学生の意見等からの気づき】

『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

博士コースワークショップⅡ A またはⅡ B において、A 評価以上の修得者のみ、履修可能である。

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Workshop is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Each student will prepare a dissertation research proposal and make presentation at colloquium. Research proposals are examined and assessed by supervisors and judged whether required step is cleared or not.

MAN700F1 - 0012

博士コースワークショップⅢ B

経営学専攻 専任教員

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士コースワークショップは、経営学専攻において博士論文を執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容である。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された3段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員による質疑及び助言を受ける良い機会であると同時に、博士課程大学院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップⅢ B 授業では、中間報告会での報告で、ステップ3のクリアに求められる「全体構想の提示と主要章（論文）」の水準に達するように、指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】

博士論文のステップ3となる「全体構想の提示と主要章（論文）」の水準として、博士論文全体構想の提示と、博士論文を構成する主要章となる論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。

指導教員および副指導教員による指導のみならず、中間報告会における複数の教員あるいは博士課程大学院生からの質疑応答を通じて、質の高い博士論文執筆に向けて有意義な助言を得ることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文章を作成し、指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、その中間的な成果を中間報告会において報告を行い、複数の教員および参加学生による批判や助言をもらい、ステップ判定を受けることになる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も、全員参加すること。修士課程大学院生、研究生も参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果、及びそれに基づく現状の研究成果を副指導教員に報告する
第2回	博士論文全体構想の提示と検討	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について副指導教員に報告する
第3回	博士論文全体構想の提示と検討②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について副指導教員に報告する
第4回	主要章の報告①	全体構想に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第5回	主要章の報告②	全体構想に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第6回	博士コース中間報告会	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構想」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、12月第3土曜日を予定している。
第7回	博士コース中間報告会②	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構想」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、12月第3土曜日を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士演習はもとより学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告会終了後には、教員および大学院生からの助言や批判点を整理した上で、論文改善へのフィードバック作業を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

中間報告会での提出論文および報告内容、質疑応答などをもとに、指導教員・副指導教員・研究科長が評価し、その結果を研究科教授会で審議して決定される。A 評価以上の修得者は、ステップ3をクリアすることとなり、博士論文を提出することが可能となる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も、全員参加すること。修士課程大学院生、研究生も参加できる。

【学生の意見等からの気づき】

『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

博士コースワークショップⅡ A またはⅡ B において、A 評価以上の修得者のみ、履修可能である。

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline and objectives】

The Dissertation Workshop is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Each student will prepare a dissertation research proposal and make presentation at colloquium. Research proposals are examined and assessed by supervisors and judged whether required step is cleared or not.

